

第 13 回キャリア教育優良教育委員会、
学校及び P T A 団体等
文部科学大臣表彰
受賞団体における推薦理由

第13回 キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等の取組内容（推薦理由）

— 目 次 —

<北海道>	東京都立第五商業高等学校・・・・・・・・・・ 19
北海道留萌高等学校・・・・・・・・・・ 1	品川区立宮前小学校・・・・・・・・・・ 19
<青森県>	北区立明桜中学校・・・・・・・・・・ 20
田子町立上郷小学校・・・・・・・・・・ 1	<神奈川県>
十和田市立三本木中学校・・・・・・・・・・ 2	神奈川県立菅高等学校・・・・・・・・・・ 21
弘前市立東目屋中学校・・・・・・・・・・ 2	横浜女学院中学校高等学校・・・・・・・・・・ 21
<宮城県>	<新潟県>
利府町立利府中学校・・・・・・・・・・ 3	佐渡市教育委員会・・・・・・・・・・ 21
宮城県柴田農林高等学校川崎校・・・・・・・・・・ 4	三条市立大島中学校・・・・・・・・・・ 22
<秋田県>	新潟県立佐渡中等教育学校・・・・・・・・・・ 22
潟上市教育委員会・・・・・・・・・・ 5	<富山県>
大館市立早口小学校・・・・・・・・・・ 6	入善町立上青小学校・・・・・・・・・・ 23
美郷町立美郷中学校・・・・・・・・・・ 6	南砺市立福光中学校・・・・・・・・・・ 23
湯沢市立山田中学校・・・・・・・・・・ 7	富山県立氷見高等学校・・・・・・・・・・ 24
<山形県>	<石川県>
村山市立戸沢小学校・・・・・・・・・・ 8	石川県立輪島高等学校・・・・・・・・・・ 24
山形県立山辺高等学校・・・・・・・・・・ 8	<福井県>
<福島県>	福井市教育委員会・・・・・・・・・・ 25
喜多方市教育委員会・・・・・・・・・・ 9	敦賀市立気比中学校・・・・・・・・・・ 26
会津美里町立本郷中学校・・・・・・・・・・ 9	福井県立三国高等学校・・・・・・・・・・ 26
いわき市立泉北小学校・・・・・・・・・・ 9	福井県立丹生高等学校・・・・・・・・・・ 27
<茨城県>	<山梨県>
鉾田市立鉾田南中学校・・・・・・・・・・ 10	山梨県立笛吹高等学校・・・・・・・・・・ 27
大子町立大子中学校・・・・・・・・・・ 11	山梨県立高等支援学校桃花台学園・・・・・・・・・・ 28
茨城県立水戸農業高等学校・・・・・・・・・・ 11	<長野県>
<栃木県>	長野県長野養護学校・・・・・・・・・・ 29
栃木県立真岡北陵高等学校・・・・・・・・・・ 12	長野県北部高等学校・・・・・・・・・・ 29
<群馬県>	<岐阜県>
玉村町教育委員会・・・・・・・・・・ 13	美濃市教育委員会・・・・・・・・・・ 30
沼田市立薄根中学校・・・・・・・・・・ 13	高山市立松倉中学校・・・・・・・・・・ 30
群馬県立玉村高等学校・・・・・・・・・・ 14	高山市立宮中学校・・・・・・・・・・ 31
前橋市立駒形小学校PTA・・・・・・・・・・ 15	岐阜県立土岐商業高等学校・・・・・・・・・・ 31
<埼玉県>	岐阜県立岐阜高等学校PTA・・・・・・・・・・ 32
狭山市立狭山台中学校・・・・・・・・・・ 15	<静岡県>
<千葉県>	三島市立德倉小学校・・・・・・・・・・ 33
成田市立西中学校・・・・・・・・・・ 16	菊川市立菊川西中学校・・・・・・・・・・ 33
横芝敬愛高等学校・・・・・・・・・・ 16	静岡県立伊東高等学校城ヶ崎分校・・・・・・・・・・ 34
千葉県立夷隅特別支援学校・・・・・・・・・・ 17	<愛知県>
<東京都>	小牧市教育委員会・・・・・・・・・・ 35
瑞穂町教育委員会・・・・・・・・・・ 17	知立市立八ツ田小学校・・・・・・・・・・ 36
学校法人淑徳学園淑徳SC 中等部高等部 ・・ 18	南知多町立日間賀中学校・・・・・・・・・・ 36
東京都立葛西南高等学校・・・・・・・・・・ 18	岡崎市立六ツ美中部小学校 父母教師会 ・・ 37

<三重県>	愛媛県立吉田高等学校・・・・・・・・・・ 5 8
四日市市立下野小学校・・・・・・・・・・ 3 7	松山市小中学校PTA連合会・・・・・・・・ 5 8
紀北町立赤羽中学校・・・・・・・・・・ 3 8	<高知県>
三重県立久居農林高等学校・・・・・・・・ 3 9	高知市立義務教育学校土佐山学舎・・・・ 5 9
<滋賀県>	高知県立高知工業高等学校・・・・・・・・ 5 9
愛荘町教育委員会・・・・・・・・・・ 4 0	<佐賀県>
東近江市立船岡中学校・・・・・・・・・・ 4 1	小城市立小城中学校・・・・・・・・・・ 6 0
滋賀県立石部高等学校・・・・・・・・・・ 4 2	佐賀県立致遠館中学校・高等学校・・・・ 6 1
<京都府>	<長崎県>
綾部市教育委員会・・・・・・・・・・ 4 2	長崎県立鹿町工業高等学校・・・・・・・・ 6 2
京都府立農芸高等学校・・・・・・・・・・ 4 3	長崎県立佐世保西高等学校・・・・・・ 6 2
<大阪府>	長崎県立長崎明誠高等学校・・・・・・ 6 3
茨木市教育委員会・・・・・・・・・・ 4 4	<熊本県>
<兵庫県>	熊本県立八代工業高等学校（全日制）・・・ 6 4
姫路市教育委員会・・・・・・・・・・ 4 5	西原村立西原中学校・・・・・・・・・・ 6 5
兵庫県立龍野北高等学校・・・・・・・・・・ 4 5	<大分県>
兵庫県立播磨特別支援学校・・・・・・・・ 4 6	大分県立佐伯鶴城高等学校・・・・・・ 6 5
<奈良県>	大分県立高田高等学校・・・・・・・・・・ 6 6
奈良県立御所実業高等学校・・・・・・ 4 6	<宮崎県>
DMG森精機株式会社・・・・・・・・・・ 4 7	宮崎県立都城農業高等学校・・・・・・ 6 6
<島根県>	野口遵頭彰会・・・・・・・・・・ 6 7
邑南町教育委員会・・・・・・・・・・ 4 7	<鹿児島県>
<岡山県>	日置市立土橋中学校・・・・・・・・・・ 6 8
玉野市立荘内小学校・・・・・・・・・・ 4 8	徳之島町立手々小中学校・・・・・・・・・・ 6 8
岡山県立津山商業高等学校・・・・・・ 4 9	鹿児島県立川内商工高等学校・・・・・・ 6 9
<広島県>	<沖縄県>
竹原市立荘野小学校・・・・・・・・・・ 4 9	久米島町教育委員会・・・・・・・・・・ 7 0
三次市立布野中学校・・・・・・・・・・ 5 0	那覇市立銘苅小学校・・・・・・・・・・ 7 0
広島県立福山工業高等学校・・・・・・ 5 1	北大東村立北大東中学校・・・・・・ 7 1
<山口県>	沖縄県立美咲特別支援学校はなさき分校・・・ 7 1
萩市立椿東小学校・・・・・・・・・・ 5 1	<仙台市>
山陽小野田市立埴生中学校・・・・・・ 5 2	仙台市立仙台工業高等学校・・・・・・ 7 2
山口県立防府商工高等学校・・・・・・ 5 3	仙台市立三条中学校・・・・・・・・・・ 7 3
<徳島県>	仙台ロータリークラブ・・・・・・・・・・ 7 3
吉野川市立飯尾敷地小学校・・・・・・ 5 4	<千葉市>
吉野川市立鴨島第一中学校・・・・・・ 5 5	千葉市立鶴沢小学校・・・・・・・・・・ 7 4
徳島県立池田高等学校・・・・・・・・・・ 5 5	千葉市立高洲第三小学校・・・・・・ 7 4
<香川県>	<川崎市>
三豊市教育委員会・・・・・・・・・・ 5 6	川崎市立小田小学校・・・・・・・・・・ 7 5
香川大学教育学部附属	川崎市立川崎高等学校附属中学校・・・・ 7 5
坂出中学校PTA（松韻会）・・・・・・・・ 5 6	川崎市立川崎高等学校・・・・・・・・・・ 7 6
<愛媛県>	<京都市>
宇和島市教育委員会・・・・・・・・・・ 5 7	京都市立静原小学校・・・・・・・・・・ 7 6
松山市立久米中学校・・・・・・・・・・ 5 7	京都市立東山総合支援学校・・・・・・ 7 7
	<福岡市>

福岡市立博多工業高等学校PTA・・・・・・・・77

<熊本市>

熊本市立長嶺小学校・・・・・・・・78

<北海道> (種別：学校) 北海道留萌高等学校

推薦理由

本校は、普通科、電気・建築科、情報ビジネス科の3学科を有する地域の中心的な役割を担う高校であり、市内の各企業や団体等から活動支援を受け、地元食材を用いた商品開発や、市内の小・中学校と連携して、小学生向けビジネス体験型イベント「キッズビジネスタウン」をはじめとする「北海道ふるさと・みらい創生推進事業」の様々な取組など、外部機関と連携した学習活動をとおして、地域の将来を担う人材を育成するためのキャリア教育を実践している。

キャリア教育の全体計画に基づき、「課題研究」や「ふるさと創生学」、「総合的な探究の時間」、「総合的な学習の時間」を柱に学科・教科横断的に実践する校内体制の構築を図るとともに、外部機関との連携においては、「留萌の未来を支える人材育成会議」（民間支援組織）との一体的・継続的な支援体制の構築や、留萌市(地元若者人材育成事業)における地域ビジネス創出事業を活用した地域活性化に関する講演や事業を実施している。

具体として、地元食材を用いた商品開発など「ビジネスの手法を用いた地域課題の解決」、地域の可能性を広げる「ビッグデータの活用によるデータ分析」、「キッズビジネスタウン」による仮想地域社会での実践と検証、「ものづくり」とおして地域課題の解決を目指す「一体的な地域貢献活動の研究」を行い、校内における発表会のほか、学校ウェブページやSNS等を用いて随時成果を発信するとともに、全国高校生SBP交流フェアにおける発表、新聞各社、ラジオ局による活動報告等を実施している。

以上、地域の産業や課題を考え、地域ビジネスの創出を学びながら、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付け、地元に着目し地域の未来を担う人材を育成するためのキャリア教育を実践している学校であるため推薦する。

<青森県> (種別：学校) 田子町立上郷小学校

推薦理由

当該校は、よりよい人間関係を築きながら自己肯定感を高めるとともに、郷土のよさを知る児童の育成というキャリア教育の全体目標のもと、将来の生活や社会について考える機会となるよう、身近な地域の産業や文化にふれる様々な活動を長年行っている。

具体的な取組は次のとおりである。

【具体的な取組】

- 1 米作り体験 (平成2年度～)
 - ・学校田において、田植え、稲刈り、脱穀の作業を地域住民の協力を得ながら実施している。
 - ・年末には、協力者である住民を招待して収穫感謝祭を行う。
- 2 そばうち体験 (平成25年度～)
 - ・そば栽培が盛んな地区へ出かけ、地域住民の指導を受けながらそば打ちを体験し、理解を深めている。
- 3 企業見学 (平成25年度～)
 - ・地元のケーブルテレビ局やスーパー等の企業を訪問し、職業への意識を高めている。
- 4 地域伝統文化継承 (平成2年度～)
 - ・地域に伝わる神楽を、関係者から指導を受けながら「上郷子ども神楽」として全校児童が継承している。
 - ・成果は学校行事や地域の祭りで披露している。
- 5 社会的自立をめざす自然体験学習 (昭和56年度～)
 - ・地域のスキークラブが運営するスキー場において、クラブ員から指導を受けながら技術や体力の向上と社会的自立に向けた態度の育成を目指している。
- 6 地域へ開かれた学校 (昭和47年度～)
 - ・行事写真だけでなく歴代の入学式や卒業式写真も掲示し、地域住民が来校を楽しみにするような校内環境を整備している。
 - ・学区内の全戸へ学校だよりを配付し、情報を提供している。

小規模校であるが、児童は地域の方々との協力のもと、豊かな自然を生かした数多くの体験活動に取り組むことで郷土のよさを感じるとともに、自分だけではなく仲間のよさを認め合い、互いに協力し合う姿勢を身に付ける

ことで、組織的・系統的なキャリア形成を行っている。

<青森県> (種別：学校) 十和田市立三本木中学校

推薦理由

当該校は、キャリア教育の目標を達成するための啓発的体験活動の一つとして、総合的な学習の時間を活用し、毎年連続5日間の職場体験（通称「トライやるウイーク」）を長年（令和元年度で19年目）に渡り実施している。職場体験の取組は以下のとおりである。

【具体的な取組】

1 キャリア教育の目標

(1) 思いやりの心を育みながら、将来の夢や目標を明確にもたせる。

(2) 啓発的体験活動を通し、希望の進路実現に向けて努力できる態度とスキルの育成に努める。

上記の目標(2)の「啓発的体験活動」として、職場体験を3年次の7月第1週（5日間）に実施している。

2 適切な検証改善

総合的な学習の時間の主任、職場体験担当者、三学年所属職員が中心となって「職場体験」を計画・実施し、実施後は次年度へ向け、全職員で反省・改善に当たる、いわゆる「PDCAサイクル」に沿って運営している。

3 事前・事後指導を含めた職場見学、職場体験

総合的な学習の時間で、各学年の発達の段階に応じて段階的に、次のような学習活動を行っている。

(1) 1学年…校外学習（職場訪問）

十和田市についての学習（講話）

(2) 2学年…十和田市のPR活動（修学旅行にて）

(3) 3学年…十和田市内の事業所などでの職場体験

4 他校種や地域・産業界との連携・協力

(1) 小学校との縦の連携

学区内の小学校3校（南小・北園小・三本木小）も、職場体験の事業所となっている。小学校では、学級便りや学校便りでの様子を発信している。

(2) 地域の事業所と連携

市内等99カ所の事業所（①含む）で中学生の受け入れが可能である。卒業生や保護者も含み、多数協力している。

5 組織的・系統的な運営

(1) 準備期間（4月～6月）の3ヶ月間、全職員で分担の上、事業所との連絡や調整、打ち合わせ、事前指導を組織的に行っている。

(2) 各学年で重点を決め、系統的に能力の育成を目指している。

・1学年：自己を見つめる力

・2学年：動く・生かす力の育成

・3学年：創り出す力の育成

当該校の取組は、管内の学校に広く周知されることにより、職場体験を5日間実施する学校も少しずつ増えてきているとともに、地域・産業界との連携を図ることで、組織的にキャリア教育に取り組んでいる。

<青森県> (種別：学校) 弘前市立東目屋中学校

推薦理由

当該校では、総合的な学習の時間における「学校農園活動」を中心に、体験的な学習を充実させることにより、生徒のキャリア形成を推進している。

具体的な取組は次のとおりである。

【具体的な取組】

子どもたちに身に付けさせたい能力や態度として、①人間関係形成・社会形成能力、②自己理解・自己管理能

力、③課題対応能力、④キャリアプランニング能力の4つの能力を掲げ、全校体制で取り組む農園活動を通して、郷土への愛着や誇りと郷土について発信しようとする意識をもたせ、将来、社会の中で自分らしい生き方ができるように「たくましさ、判断力、正しい情報を選択する力」を育てるキャリア教育の推進に努めている。

(活動内容)

(1) 農園活動

枝拾い、ガイダンス・木決め、人工授粉、摘果、草刈り、反射シート敷き、葉取り、収穫、市場見学

(2) リンゴ新聞

日々接するリンゴに対して、個人新聞を作成することで、1年間の作業や学習のまとめとする。

1年テーマ【偉人・文化】リンゴづくりで功績のあった先人を知る。

2年テーマ【産業】リンゴの流通経路を考える。

3年テーマ【人々への思い】弘前に関わる人々について知る。

(3) その他

修学旅行リンゴPR、贈答用リンゴ発送、ジュースラベル作成、雪室リンゴ設営・掘り出し

全校生徒がリンゴ栽培を体験する中で、3年生が修学旅行の機会を生かし、収穫したリンゴを配布し、地域のPRをするなど、生徒が地域産業に触れながら段階的に基礎的汎用的能力を身に付けることができる取組となっている。

昭和22年以来、地域に支えられ受け継がれてきた学校農園は、現在5種類、約50本のリンゴの木が植えられている。地域と連携した指導体制を構築することで、充実した体験活動を展開することができ、学校・地域が一体的・組織的にキャリア教育に取り組んでいる。

<宮城県> (種別：学校) 利府町立利府中学校

推薦理由

利府町立利府中学校では、学校教育目標に「夢や希望をもち、未来を切り拓くことのできる生徒の育成」を掲げ、「みやぎの志教育」の一環として、生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けた取組を行っている。平成21年度からは、5日間の職場体験学習を中心に、他校種や地域と連携し、組織的・系統的にキャリア教育を推進している。

【1年】

2年生が主催するキャリアシップ発表会に参加し、各事業所の様子や、働くことの大変さ・楽しさ等について学ぶ機会としている。生徒は地元の企業を知り、職場体験のイメージを持つことができている。

【2年】

- ・利府町内の農林業、製造業、建設業、販売業、飲食業、美容業、福祉、教育、医療等のカテゴリの中から希望の業種の事業所において、5日間の職場体験学習を行っている。
- ・体験学習を実施する前に、生徒自身が履歴書(自己PR、希望する部署、体験学習の目標等を記入)を作成して各事業所との打合せを行っている。生徒自身が働く姿をイメージしながら自己を見つめ直す機会としている。
- ・体験学習後は、活動を振り返って新聞を作成してキャリアシップ発表会を開催し、事業所の方々・保護者・1年生等に対して、ポスターセッションを行っている。

【3年】

地域貢献の一つとして、長期休業中に生徒が小学校を訪問し、小学生への学習サポートを実施している。

近隣の高校、小学校、支援学校との交流事業も多く、児童会と生徒会が合同であいさつ運動、いじめ撲滅アピールなどを実践している。

このような学習活動を通して、人や社会との関わりの中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を探求する生徒の育成に取り組んでいる。

【学校の概要】

当該校は、昭和23年度に宮城県柴田農林高等学校の分校として、宮城県柴田郡川崎町に「農業科」が設置された。昭和38年度からは「普通科」に改編し、平成20年度より、1学年1学級となった小規模校である。

【学校の背景】

当該校がある宮城県柴田郡川崎町は、仙台市の南の近郊でありながら、蔵王山麓に属する山岳丘陵地帯と河岸段丘の発達した山間盆地に区分できる自然豊かな地域である。

川崎町は、慶長遣欧使節団を率いてヨーロッパまで渡航した支倉常長のゆかりの地である。町は、伝統文化を活かしつつ、地域の教育施設の充実を図るなど、質の高い人材の育成を目指している。また、産業面においては農林業を支えながら、新たな地場産業の発掘と企業誘致を進めている。近年の少子化による人口減少と高齢化が進む中で、当該校への地域の期待は大きく、その果たす役割は大きい。

【取組の方針】

当該校は、本県の「志教育」の3つの視点である、人と『かかわる』、よりよい生き方を『もとめる』、社会での役割を『はたす』を、川崎校の「か・わ・さ・き」のことばに込め、少人数の学校として、『小さな学校だからできることがある！小さな学校にしかできないことがある！』を掲げ、地域との連携を重視しながら教育活動に取り組んでいる。

また、少人数学校の特色を活かしながら体験の機会の場を多く設定し、充実した学校生活となるよう支援している。

【主な取組】

1 [か：かかわりあいを大切に、良い人間関係を築く川校生]

(1) ホームルーム合宿

1学年の4月に、集団生活をとおして、より良い人間関係を構築するとともに、高校生活への適応を図ることを目的とし、宮城県本吉郡南三陸町の「志津川自然の家」で行っている。カッター漕艇、東日本大震災被災者による「語り部による学びのプログラム」も実施している。

(2) レクリエーション大会

球技大会、運動会を兼ねた学年対抗のレクリエーションである。小規模校であるが故に、ひとり何役もの活躍の場が設定されている。生徒が主体となり、実行委員を縦割り運営することで、集団活動において、お互いにルールを守ることで組織は成り立っていることを理解させ、協調性を養い集団の一員であることを自覚させることをねらいとしている。

2 [わ：わかるまで粘り強く努力し、困難に立ち向かう川校生]

(1) 習熟度別学習

国語、数学、英語において習熟度別授業を展開している。また、学び直しや補習、大学進学を目指す生徒への個別指導など、各自の実力に合わせてきめ細かな指導を行っている。

(2) 進路講話

専門の講師を学校に招き、希望する各分野に分かれ講話と模擬授業を行っている。それぞれの進路について見通しを持って、具体的な事柄を学習できるよう支援している。

3 [さ：先々まで見通し、自らの生き方を考え行動する川校生]

(1) 卒業生と語る会・社会人講話

社会人となった卒業生の取組やアドバイスを、在校生に聞かせることによって、在校生が自主的に進路を選択し、希望する進路を実現できるよう支援している。

(2) インターンシップ・校外学習

少人数の利点を活かし、将来自分が就職を希望する職種にできるだけ近い職場を企業と連携しながら選定している。その結果、自分の適性の確認ができるなど、充実したインターンシップとなっている。このことが、3年次の職業選択に繋がっている。また、事前・事後の学習を充実させ、職業観・勤労観の育成に努めている。

学校に配置されている「連携コーディネーター」によるきめ細かな進路相談、本人の希望にできるだけ沿った形での進路選択が、近年、離職率の低下に繋がっている。

4 [き：郷土を大切にし、自らの役割をすすんで果たす川校生]

(1) ボランティア活動

川崎町が企画する様々なイベントに、川校生がスタッフとして参加している。このことは、川崎町が掲げる協働によるまちづくりの推進に関わることができるとともに、生徒の自己肯定感・自己有用感を育む貴重な機会ととらえている。

(2) 奉仕活動

全校生徒による町内の清掃活動は、「ファーストペンギン」の精神に則り、生徒会自ら企画した活動で、平成25年より始まった。町内唯一の高校の生徒として、「学校の枠を超えて地域に飛び出し、地域に貢献できる川校生を目指そう」と生徒会が提案したのが始まりである。

また、1学年による、川崎町内の福祉施設での清掃活動を毎年行っている。

(3) 異種校との連携授業・交流

イ 川崎町立川崎第二小学校との交流

1学年の生徒と川崎第二小学校の3・4年生と合同で、東日本大震災後に建設された防潮堤（避難丘・千年希望の丘）で植樹活動を行っている。高校生と小学生がペアになって植樹を行い、次の世代へと語り継ぐ大切さや、「自分たちが出来る、未来の人々の命を繋ぐ継続的な活動」について考える機会となっている。

また、秋には、当該校の本校である柴田農林高校が所有する「演習林」で、森林の植生についても、小学校と共同で授業を行っている。水資源の源流をなす当該地域にとっては、自然を教材とした重要な授業と考えている。この事業については、公益財団法人「鎮守の森プロジェクト」と、川崎町の支援を得ながら実施している。また、当該校は普通科でありながら、農業科目が設定されており、その選択授業の一環で、地元の幼稚園と、作物の作付けを行う交流活動が行われている。

ロ 宮城県立支援学校岩沼高等学園川崎キャンパスとの交流

当該校は県内で唯一、同じ校舎内に特別支援学校の分室を設置している。対面式、学校愛護デー、避難訓練等の学校行事を合同で行い、異校種の生徒との交流を図ることで、「思いやりの心」の醸成につなげている。

当該校が所在する川崎町を中心として、自然・産業・伝統文化という資源の継承と発展に、当該校の参画が期待されている。また、これまでの実践を踏まえ、未来志向でキャリア教育や志教育に取り組んでいる。

<秋田県> (種別：教育委員会) 潟上市教育委員会

推薦理由

潟上市では、「自他のよさに気付き、夢と希望のある生活や将来を作り出す力の育成」を目指したキャリア教育の充実を、学校教育の方針の大きな柱として位置付けてきた。平成19年度から実施している「潟上市キャリア・スタート・ウィーク推進事業」では、教育委員会学校教育課を事務局として、各中学校長、学校関係職員、PTA代表者、公共職業安定所長、市商工会代表者、市産業建設部産業課長、協力事業所の代表者で構成された実行委員会を立ち上げ、職場体験の場や機会の開拓及び円滑な実施に向けての支援、職場体験の充実のための取組を行ってきた。実行委員会は年3回開催し、学校と地域の関係機関等で、事業の趣旨に沿った連携の在り方について協議し、より効果的なキャリア教育の推進を図ってきた。

○「潟上市キャリア・スタート・ウィーク推進事業」について

1. 事業のねらい

地域において多様な年齢、立場の人や社会や職業に関わる職場体験とその事前・事後の学習活動を通して、自分と社会についての様々な気付きや発見をすることで、一人一人の生徒が将来に夢や希望を抱き、その実現を目指そうとする意欲的な態度を育てる。

2. 事業の概要

(1) 対象 潟上市立中学校3校の生徒（実施する学年は各校で決定）

(2) 期間 連続5日間（原則）

(3) 体験先 原則として各中学校区域の事業所

(4) 事業の流れ

①事業所への受入依頼、受入可能事業所のリスト作成（教育委員会）

- ②職場体験先の決定、体験先との連絡、打合せ（生徒、学校）
- ③事業所・保護者向けアンケート作成（教育委員会）
- ④職場体験、事業所巡回（生徒、学校、PTA、教育委員会）
- ⑤職場体験まとめ、体験発表会（学校）
- ⑥アンケート結果の集計・分析（教育委員会）

3. 事業の成果

事業開始から12年目となった平成30年度は、96事業所の協力を得て、285名の中学生が職場体験を行うことができた。生徒の感想やアンケートの記述から「体験を通して社会を知った」「家族について改めて考える機会となった」「自分自身を見つめ、将来や生き方を考えるきっかけになった」等、充実した体験となったことがうかがえた。実行委員会で学校・家庭・地域・事業所が本事業の趣旨を共有し、よりよい職場体験となるように協議しながら連携を深めることで地域社会全体で生徒の人間形成や社会的自立を図る取組となっている。

<秋田県>（種別：学校）大館市立早口小学校

推薦理由

当該校は、大館市が目指す「ふるさとキャリア教育」の趣旨を踏まえ、「自尊・自立・貢献」のふるさとキャリア教育を通して、ふるさとへの愛着と誇りを深めるとともに、地域の課題や願いに気付き、主体的にその解決に取り組む児童の育成を目指している。特に、「はつらつプロジェクト（以下、プロジェクトをPJと略す）」では、児童が思いを実現するために話し合い、地元団体等との連携を図ったり地域・保護者の協力を得たりして進める活動を通して、将来の地域社会を担うための企画力、実践力、チーム力の育成に努めている。

1. 「はつらつPJ」の取組

「羽州街道に門を置く学校」事業として平成5年より続けている「早口川の徒渡り（江戸時代の大名行列の再現）」や平成10年に始めた「秋の大冒険（歩いて地域のよさを知る活動）」などの特色あるふるさと教育に「自尊・自立・貢献」のテーマの下にキャリア教育との意味付けや意義付けをし、地域・保護者の大きな協力を得て継続している。また、平成23年の東日本大震災後に始めた「復興支援農園活動」では、児童が作物を育てて販売し、気仙沼市立大島小学校には8年間、熊本や北海道にもその収益を義援金として送る活動を続けている。

今年度は、それらを「はつらつPJ」として児童主体の活動に移行し、子どもたちの思いや力を引き出し、主体的に育む活動としての工夫改善を図っている。4～6年生においては、一人一人が自ら担当プロジェクトを決め、年度当初の年間計画を自分たちで考え、チームでプロジェクトを実施してきた。その成果や失敗体験・振り返りは、次の挑戦への意欲につながるとともに、自分たちの成長を実感させる大切な学びとなっている。

2. 活動を進めるための組織

①児童の組織：1・2年「ふれあいPJ」、3年「つながりPJ」、4年「あったかPJ」、5年「応援PJ」、6年「ふるさとPJ」として、それぞれのリーダーを中心に、関係機関や地域・保護者の指導、支援を得て実施している。

②学校：ふるさとキャリア教育主任や「はつらつPJ」担当者を中心に、児童の主体性・実践力・チーム力等を高めるねらいを共通理解し、地域等との連携を図りながら、全校体制で指導・支援に当たっている。

3. 活動の成果

全国学力・学習状況調査や自校で行っているアンケートから、社会への参画意識や自己肯定感の高まりが見られた。また、「はつらつPJ」やよりよい学校生活のための話し合い、道徳における学び合いが充実してきている。さらに、失敗を恐れず、自分たちで考え、課題を解決していこうとする意欲につながっている。

<秋田県>（種別：学校）美郷町立美郷中学校

推薦理由

美郷中学校では、ふるさと・キャリア教育を教育活動の柱に据え、目指す生徒の姿である「心ひとつに～笑顔がいっぱい やる気がいっぱい 根気がいっぱい」の実現に向けた取組を通して、ふるさと美郷への思いや自分

の生き方を語ることができる生徒の育成に取り組んできている。総合的な学習の時間では、ふるさと・キャリア教育と大きく関わる「美郷プラン」(資料参照)を作成し、この「美郷プラン」に示した各学年のテーマを踏まえ、3年間の系統的、計画的な学習活動として展開している。また、美郷町教育委員会が町内で働く方々の働く喜びや将来の夢をまとめた資料「みさと働きびと」を活用した体験活動により、地域の方々の生き方を通して、様々な角度から地域のよさや課題、地域への関わり方を考える場を設定することにより、キャリア教育の充実を図っている。

○第1学年の主な実践

- ・「親子で考える職業」をテーマに、保護者をゲストティーチャーとして招いて行った対話集会(7月)
- ・「みさと働きびと」のメンバーで、劇団わらび座の役者である高橋真里子さんとの対話集会及び観劇(10月)
- ・「みさと働きびと」のメンバーである保護者数名を招いて行った「みさと働きびと職業講座」(11月)

○第2学年の主な実践

- ・町内48か所の事業所(内13か所が「みさと働きびと」の職場)で行った3日間の職場体験学習(9月)

○第3学年の主な実践

- ・「みさと働きびと」のメンバーであるマジシャンのブラボー中谷さんを招いて行った「みさと働きびと進路講座」(7月)
- ・姉妹都市である東京都大田区で行う美郷のよさを発信する活動(9月)
- ・「みさと働きびと」のメンバー6名を招いて行った「みさと働きびと進路講座」(11月)

<秋田県> (種別: 学校) 湯沢市立山田中学校

推薦理由

山田中学校では、「未来につながる三つの力」「思いやる力」「思いを寄せる力」「思い入れる力」の育成を柱に据えた学校経営を展開している。特に総合的な学習の時間の充実を図り、地域の人的・物的資源を生かした起業体験等を通じた「思い入れる力」の育成は、ふるさと湯沢への深い思いを育むとともに、「発信する力」「課題発見・設定の力」「課題解決の力」「関わる力」「自己を見つめる力」の育成を意図したものであり、地域を担う人材を育成するためのキャリア教育に組織的かつ積極的に取り組んでいる学校として推薦する。主な取組は次の通りである。

【平成30年度の取組】

- ・「ようこそ先輩SP講話」山田の魅力発信と模擬会社の設立について:湯沢市議会議員 高橋大輔氏(本校OB)
- ・YAMACHU コーポレーション(模擬会社)設立→社長等役員の決定と会社組織とリーダー(部長)等の決定
- ・商品開発と連携先(地元の事業所、会社、飲食店等)との契約
- ・地元野菜等を使った商品の販売・販売経路の確保(青年会議所、醸造組合、道の駅等との連携)
- ・湯沢市長部局からの要請により、湯沢市役所にて市長、副市長等に活動報告(学習のまとめ)

【令和元年度の取組】

- ・学習のねらいの確認と新組織、新役員の決定
- ・地元事業所、会社、飲食店等に花のプレゼント活動(挨拶回り)
- ・「ようこそ先輩SP講話」湯沢市の活性化について:地元の若者で組織されている「湯沢ストリート村」の方々(高橋大輔氏、半田晋氏、藤田一平氏)
- ・新たな商品開発と連携先との契約(ナンカレー:相川ファーム、コーヒー大福:御菓子わかさ、地元産の酒米を使ったアクセサリー:アクセサリーづくりボランティア)
- ・地元ラジオ局での広報活動
- ・青年会議所主催イベントであるグリーンマルシェで販売活動
- ・今後、学校祭、地元の雪祭り等での販売活動及び湯沢市の事業である「軒先シェアリング」の活用を計画している。

<山形県> (種別：学校) 村山市立戸沢小学校

推薦理由

1 (概要)

村山市立戸沢小学校では、子どもたちの郷土理解を深め、そして地元地域への愛着と誇りを培い、ふるさと戸沢を愛する心をもった地域人材を育成する「キャリア教育」を積極的に推進している。

35年前、『太陽と大のなかよし戸沢の子』というスローガン誕生をきっかけに、「一人ひとりが夢（キャリア）に向かっていのちを輝かせる」教育に力を入れている。近年は、「徳・知・体+つなぐ」を指導の重点とし、未来につなぐ将来のキャリア形成に向けた夢を持った生き方を学ぶとともに、地域に誇りを持つ子どもの育成を行っている。具体的には、母校出身の先輩に話を聞く「母校訪問」を約30年近く継続し、また、地域の主たる産業である稲作（米）・果樹（りんご・さくらんぼ）・野菜（里芋）の農業体験学習や販売実習の継続実施、地域のことば（＝方言）による地域への愛着形成など、特筆すべき特徴的な取組みの数々が実践されている。

2 (具体的な取組み)

【約30年の実績をもつ『母校訪問』の継続開催～先輩のキャリアに学ぶ～】

・各界で活躍している母校出身の先輩を講師に招き、話を聞く「母校訪問」授業を平成4年度から開催している。（NHK「課外授業 ようこそ先輩」は平成10年4月スタート）国語の教科書に載った「長屋王木簡の発見」の著者で、当時、奈良国立文化財研究所主任研究員の寺崎保広さん（現 奈良大学教授）を学校に招いて話を聞いたことがきっかけで始まった。それ以後、世界や県内外で活躍している先輩のみならず、市内で活躍している数々の先輩を継続的に招いている。いわばキャリア形成のためのモデリング学習といえる。このように長期に継続して実施している学校は、全国的に見ても稀有な事例であろう。

【農業体験学習と販売実習～地域の主産業（米・りんご・さくらんぼ）～】

・本地域は、稲作、そしてりんご、さくらんぼ、里芋の一大産地である。農協青年部や農家の協力を得て、田植え、稲刈り、果樹等の収穫販売の体験学習を行っている。

【方言と地域学習を通じた郷土愛醸成～「さんなね七条」と地域学習推進】

・地域に根ざした言葉である方言（「方言番付」の作成）や方言での教育法「さんなねものはさんなねなだ」（＝「さんなね七条」の作成）及び地域を深く知る「地元学習（地域学習）」を通して、郷土愛を醸成している。

<山形県> (種別：学校) 山形県立山辺高等学校

推薦理由

山形県立山辺高等学校は、食物科・福祉科・看護科（専攻科）の専門学科を設置する高等学校としての特性を活かし、各科の職場実習の他に、地域との連携を緊密に図った地域連携事業等を重点的教育活動と位置づけ、キャリア教育総合実践プログラムに基づき、生徒が地域の課題と向き合い、自立、協働できる職業人となるための資質・能力・態度を育て、地域を担う人材育成を目標としたキャリア教育を推進している。

○ 主な取組

1 地域連携事業

地域連携事業は①在宅福祉等の普及と向上、②健康・生きがいづくりの推進、③ボランティア活動の活性化を3つの柱とする。①では高齢者宅への個別訪問や高齢者用食品開発、②では地域の高齢者集会「お茶のみサロン」や地元小・中学生への食育活動、③では施設・幼稚園訪問や健康・福祉フェアへの参加などに取り組んでいる。食物科は食事や菓子提供、福祉科は健康体操やレクリエーション、看護科はマッサージなど各科の特色を生かした活動で自らのキャリアを高めるとともに、他科とともに取り組むことで、視野の広がりや協働の姿勢を学んでいる。日々の学びと実社会とのつながり、地域の課題解決に向けて果たすべき役割等を実感することで自らのキャリア形成が図られ、進路選択、職業選択にも好影響を与えている。

2 看護科地域医療体験セミナー

山形県が行っている地域の看護師定着率の向上を目指す県内就職支援事業を活用し、計画的な体験セミナーに取り組んでいる。県内各地の病院に協力いただき、高校1年次～専攻科1年次までに山形県内4地域、専攻科2年次には講演会を開催し、5年間で県内各地域の特性や課題を学ぶ。この取組み以降、一時期は41%まで落ち込

んだ県内就職率が、近年は70%台を維持できるようになった。

以上のとおり、地域と連携しながら、学校の教育活動全体を通して系統的・体系的なキャリア教育に取り組む好事例である。

<福島県> (種別：教育委員会) 喜多方市教育委員会

推薦理由

平成18年に国の構造改革特別区域として、内閣総理大臣より農業特区の認定を受け、小学校に全国初の教科としての「喜多方市小学校農業科」を設置し、翌年より「農業科」の授業がスタートした。平成23年には、市内すべての小学校において農業科がスタートし、「総合的な学習の時間」で実施している。一年を通して、一連の農作業を実体験することを目指し、90人近くの農家が協力している。農業を通して、豊かな心や社会性、主体性の育成を目指している。また、子どもたちが「地域の農家や自分の祖父母と農作業やたべものについて話をする機会が増えた」「地域への愛着が高まった」など、さまざまな効果が現れている。平成25年には第42回日本農業賞・特別部門第9回食の架け橋賞「大賞」を受賞している。

<福島県> (種別：学校) 会津美里町立本郷中学校

推薦理由

会津美里町は、会津盆地の南西部を占め、肥沃な土壌をいかして稲作を中心とした農業が行われている地区である。東北最古の伝統工芸品である会津本郷焼や、あやめの名所としても有名な伊佐須美神社、法用寺、中田観音といった寺社・仏閣が多く点在している。2005年(平成17年)10月1日、大沼郡会津高田町・会津本郷町・新鶴村が合併して、会津美里町が発足した。

会津美里町立本郷中学校は、生徒数151名の学校で、各学年2クラスの中規模校である。会津本郷町の地場産業で全国的にも有名な「本郷焼」の窯元を学校に招き、窯元による直接の指導のもと、生徒全員が作品づくりをしている。その後、担当した窯元が持ち帰り、焼いて完成となる。できあがった作品は、次年度のせと市で販売する。販売は生徒会役員が中心となって活動し、会場の清掃や作品の陳列販売、会計、包装と役割を分担して行っている。今年は作品づくりの様子掲示なども行った。会場作成後には、実際に販売等のシミュレーションを行うなど、お客様への対応の仕方を確認する。当日は午前4時から最後の準備を行い、4時半頃にオープンする。せと市は、毎年8月の第1日曜日に行われる本郷町のイベントであり、陶芸教室で生徒が制作した作品や陶芸部が部活動で制作した作品を販売する活動を通して、愛校心や郷土愛、コミュニケーション能力の育成を目指している。毎年完売し、売り上げは生徒会の予算に組み入れられている。地域の行事に中学生が参加することは大きな意味があると同時に、下級生が先輩の動きを見ることで、次年度以降の生徒による主体的な活動につなげている。陶芸教室や部活動での作品づくりから「せと市」での販売までの一連の取り組みは、学校としての伝統・特色にもつながっていくものである。

<福島県> (種別：学校) いわき市立泉北小学校

推薦理由

◇ 新学習指導要領の基礎的・汎用的能力を高めることで社会で生きる力を育むという理念のもと、主として「間接的キャリア教育(授業や日常生活、特別活動)を通して教育目標の達成に迫る」をスローガンに、職員が一丸となってキャリア教育を推進している実践である。

○ 学校経営ビジョンへの位置づけ

学校経営ビジョンには、基礎的・汎用的能力を育てる手立てが随所にちりばめられており、キャリア教育が全教育活動の骨格をなすよう工夫された実践である。

○ 学習指導案への位置づけ

日常生活や日々の授業の中で具体的な基礎的・汎用的能力を示しながら実践していることが特徴的である。学習指導案にキャリア教育を位置づけて指導することで教職員を育てながら児童の基礎的・汎用的能力を高めることに成功している実践である。

○ 学校経営者自身の基礎的・汎用的能力向上へ向けた啓発の実践

経営者の資質・能力向上のためには、経営者自身が自ら基礎的・汎用的能力を向上させることが必要であることを推薦校の取り組み事例等を参考に県小学校長会研究部会等対外的に「提言書」という形でキャリア教育の重要性を啓発している実践である。

○ 特別活動や社会教育（家庭教育）との連携を意識した「運動会漫画プログラム」の制作

学校教育活動が社会と繋がることで教育効果は向上するという基本姿勢を学校行事（運動会）のプログラムを漫画で読むプログラムとしたことで、児童のモデルであるべき保護者や地域の大人の意識向上に成功している。また効果を検証してそのエビデンスをもとに他校にもその活用を促し地域全体での取り組みにまで発展させていることは、市内においては、他に類をみない実践である。更に、校内の各種行事も基礎的・汎用的能力の伸張を目標に計画・実践されている。

○ RVPDCA サイクルによるキャリア教育の実践方法の改善

キャリア教育推進を含めた教育活動全体の評価・改善が日常的（意図的・計画的）に行われている。挨拶、掃除、靴揃え等の望ましい生活習慣を形成する上でも、それらの行動様式の中に基礎的・汎用的能力が活かされていることに教師自身が評価を通して気づき、質の高い教師集団を育てていくことを見通した実践である。

◇ キャリア教育の評価を行い、課題を見だし、間接的キャリア教育に多面的なアプローチを試みている。また、キャリア教育の推進の過程において外部へのアンケートや内部評価等のエビデンスに基づいて検証されている実践である。

家庭や地域、域内を越えた教育界にもキャリア教育の必要性を啓発している点などからキャリア教育を進めてみたい学校にとってよき手本（よき教材、よき見本）となる実践である。

<茨城県>（種別：学校）銚田市立銚田南中学校

推薦理由

本中学校では、生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、特に「自己理解・自己管理能力」（不得意なことや苦手なことにも前向きに主体的に取り組む力）と「キャリアプランニング能力」（自分の将来について明確な目標を立て、その実現のための方法について考えたりすることができる力）の向上をねらいとして、生徒に「身に付けたい力」を設定した。本校生徒の課題である「自己理解・自己管理能力」で身に付けたい力を「最後までやりとおす力」と「物事に進んで取り組む力」、「キャリアプランニング能力」で身に付けたい力を「見通しをもって行動する力」として、キャリア教育で目指す資質・能力を明確にした。そして、キャリア教育の視点を踏まえた取組を、各研究部（マネジメント部、授業実践研究部、環境・記録部、調査研究部）や学年毎に組織的・系統的に進め、実践している。

第1学年では、地域に対する理解と絆を深めていくことをねらいとして「故郷～地域の絆」をテーマに、地域の環境や伝統、産業や職業について探究学習を行っている。その際、アントレプレナー（起業家）教育の視点を取り入れ、銚田市の特長を生かして、銚田市での起業について考える学習を行っている。銚田市での旅行プランの企画や銚田市の特産物を生かした商品の開発等工夫を凝らしたものを生徒が考えている。このアントレプレナー教育の視点を取り入れることにより、生徒一人一人の主体的な学習への取組、創造的な思考による自己発想及び工夫、協働的な学習態度の育成を図っている。

第2学年では、「地域職業人体験」をテーマに「未来をつくる起業家育成事業」として講師の先生を招き社会人としての生き方を学んでいる。さらに、東京・鎌倉宿泊学習での企業見学や、地域での職場体験学習を行うことで、進路の視野を広げ、職業への新たな気付きを深める学習を行っている。活動後には、職場体験で学んだことを新聞にまとめるだけでなく、1年生対象に報告会を行うことで、学んだことを深めつつ1年生が次年度への見通しをもてるようにしている。

第3学年では、1、2学年での取組を踏まえ、自己の将来に目を向け、進路について主体的に考えることができるよう、学級活動や学校行事等を中核としたキャリア教育を実践している。特にキャリア教育が進学指導に偏ることなく、人間としての生き方の自覚を深め、生徒一人一人の主体的な進路選択につながるよう、他者との関わりの中で自己の個性を発揮するという視点のもと、「目的・目標設定用紙」を活用し、プロセスを重視した取組を行っている。

その他の取組として、生徒がボランティア等で校外の各行事（小学校あいさつ運動、幼稚園・小学校の運動会

の運営協力ボランティア、幼稚園訪問等)に参加し、交流を深めることを通して、園児・児童の先輩、さらには地域の一員としての自覚を高め、思いやりの心を育てている。そして、様々な人々との交流や体験活動を通してできる主体的な活動の場を意図的に設定し、継続性や接続の円滑化を図ることで、キャリア教育を推進している。

以上のように、生徒に「身に付けたい力」を明確にし、各研究部や各学年で職場見学や職場体験等の取組を行ってきた結果、「自己理解・自己管理能力」、「キャリアプランニング能力」を高めることができた。不得意なことや苦手なことを避けるのではなく、前向きに主体的に取り組んだり、自分の将来について明確な目標を立てその実現のための方法について具体的に考えたりすることのできる生徒が学校全体で増えているのは大きな成果だと言える。今後も生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力を育成するため、各小学校や地域、企業等との関係機関との連携を深め、組織的・系統的にキャリア教育を実践していく。

<茨城県> (種別：学校) 大子町立大子中学校

推薦理由

少子高齢化が進んでいる本町の状況や、都市部から離れた環境で十分な職業選択が困難な実態を踏まえ、キャリア教育を充実させる必要がある。これを打開し持続可能な町づくりを進めるためには、小中学校はもとより高等学校まで連携したキャリア教育の推進が不可欠である。

当校は、キャリア教育を核として授業改善や学校行事等の見直しを図るとともに、進路指導・生徒指導の改善に取り組んでいる。

1 キャリア教育を生かした学校改善を図るための具体的な計画

- (1) グランドデザインに示された具体的なキャリア教育の視点とその共通理解・実践
- (2) 学校評価指標におけるキャリア形成の明記と教員評価におけるキャリア教育実践の評価観点設定
- (3) 学校改善プランに示したキャリア教育の視点での授業改善策の明記と研修の推進
- (4) 総合的な学習の時間と道徳科の内容の見直しと指導計画の改善
- (5) 町の行政や教育委員会、町内の小中学校長や高等学校長の理解を得ての実践と資料の蓄積

2 担任や学年担当が行うキャリア教育の具体化

- (1) 学級活動(3)の計画的な実施と相互研修による授業改善
- (2) 将来を考えた生徒指導と進路指導の確認と実践
- (3) 学校行事の目的の明確化と事前・事後指導の工夫・ファイル化

3 保護者や地域の理解と協力を得るための取組

- (1) キャリア通信の発行(毎月3号程度)によるキャリア教育実践の発信
- (2) 小中一貫して行う教育の計画と実践(大子中学区の幼・小・中の連携の強化)
- (3) PTA総会や学年懇談、入学式・卒業式における本校のキャリア教育の発信や評価

<茨城県> (種別：学校) 茨城県立水戸農業高等学校

推薦理由

ほとんどの生徒が非農家出身で、入学後に本格的な農業を初めて経験する中、全日制では、先進農家研修、北海道農業実習、種子島農業実習などのファームステイ型の研修を実施し、定時制では、近隣のブドウ園で日帰り型の研修を実施している。農業を学びたい生徒が農業へ興味・関心を高められるように、農家で研修に積極的に取り組んでいる。農業を通して地域・産業界との連携・協力を主体的に図り、組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる学校として推薦いたします。

1 先進農家研修

(1) ねらい

食農教育推進事業の一環として、県内の先進農家に宿泊し、農業体験をすることにより、農業への関心や意欲を喚起し、青年農業者の育成を図る一助とする。

(2) 取り組み状況

地域の先進農家に宿泊して、農家で生活しながら農作業を体験する。昨年度は、9月12日～14日の2泊3日、12月5日～7日の2泊3日のいずれかの日程で、1・2年生の18名が参加した。事前指導では、宿泊生

活の注意点や目的を明確にして意識を高め、事後指導では、感想をまとめて冊子にしている。今年度は、10月8日～10日の2泊3日及び12月上旬で実施する予定である、受入農家の選定には、地域農業改良普及センターの協力をいただいている。

2 北海道農業実習

(1) ねらい

北海道の大規模酪農家、畑作農家にて農業体験実習を行い、勤労精神を養うとともに、北海道の風俗文化に接し健全なる心身の育成を図る。また、北海道農業実習をとおして得られた経験を今後の農業教育に生かす。

(2) 取り組み状況

今年度が39回目で、8月19日～25日の6泊7日の日程で、1・2年生5名が参加した。受入農家の高齢化などもあり、参加生徒数を5名程度に制限している。生徒は、北海道の大規模農業を体験して、視野を広げてその後の農業学習に取り組んでいる。清水町と連携して実施している。

3 種子島農業実習

(1) ねらい

種子島の農畜産業の専業農家にて農業体験実習を行い、勤労精神を養うとともに、種子島の風俗文化に接し健全なる心身の育成を図る。また、将来の農業後継者育成事業の一環として就農従事者の育成を目的として、種子島農業実習を通して得られた経験を今後の農業教育に生かす。

(2) 取り組み状況

今年度が4回目で、7月30日から8月8日の9泊10日の日程で、1～3年生14名が参加。畜産農家や野菜農家でのファームステイだけでなく、宇宙科学技術館、精糖工場の見学なども実施。鹿児島県中種子町と連携して実施している。

4 定時制農業科の就業体験実習（那珂市ぶどう園実習）

(1) ねらい

農家等での研修を受けることにより、働くことや生きることへの関心・意欲を高め、進路や職業について意識の高揚を図るとともに、農家の方々と話し合うことでコミュニケーション能力を高める。

(2) 取り組み状況

学校近くのぶどう園で、7月10日～12日の3日間（午前9時～午後4時）の日程で、1年生5名が参加した。生徒は、露地ぶどうの袋掛け作業などを行った。袋掛け作業は人手が必要なので、受入農家にも利点があり、学校と受入農家が ウィンウインの関係で長年にわたり実施している。

<栃木県>（種別：学校）栃木県立真岡北陵高等学校

推薦理由

真岡北陵高等学校は農業学科を母体とし商業・福祉を加えた5学科を有する創立112年を迎える総合選択制専門学校である。平成29年から「課題研究」の内容を大きく変え、地域の未来を創造する人材育成を目指す学習プログラムを「ペンタゴンプロジェクト」と名付けて実施している。地域の課題から自分の将来を考え社会で活躍できる資質・能力を身につけて将来地域の発展を支える人材を育てる地域密着型のキャリア教育に取り組んでいる。

1. 地域探求型課題研究活動

1、2年生では市内小学校の児童や福祉作業所の通所者を対象にした出前授業体験、地元自治会や商業施設、老人介護施設などと関係機関と連携した実りある体験活動を経験させることで、自分と他者との心身の異なりを理解させ思いやりの心を育成し地域社会の一員として自覚を深めさせる。また、二宮尊徳がいた国指定史跡内の「報徳田」で江戸時代に近い形で米作りを経験させることで、地域の人々との交流を図り、相互理解を深める。

3年生では「課題研究」の授業を通して、身近な地域問題や将来の環境問題について学科に応じた意見・抱負をまとめるプロジェクト学習に取り組む。たとえば、周辺地域の「高齢化」という課題に対して「高齢者の避難・防災」をテーマに災害ボランティア講座を開催するとともに、本校が地域の避難所として市から指定されていることから、模擬避難所の運営活動を高齢者を招いて実施した。これらの実践から地域の課題を発見・分析し、計画を立てて解決に取り組み、自分と社会との関わりを考え自らの進路実現へ向けて努力するという

力を養う取組を推進している。

2. 起業体験に係る活動（商品開発活動）

身近な地域の課題解決のため、地域の資源を生かした商品開発に取り組んでいる。農業系学科では、2020年真岡市開催予定の「全国いちごサミット」に向けたいちご杏仁豆腐やいちごパン等の商品開発に取り組んだ。また、全学科でそれぞれの学びを生かして伝統工芸品「真岡木綿」をバッグやポーチに組み込んだ商品を開発した。これらの活動は、活動すると問いが深まり、問いが次の活動を生み、地域の人々の叱咤激励が活動を持続させる。また、社会との関わりの中で夢を志に高め未来を高める活動は、自己肯定感を向上し、地域の人との触れ合いでロールモデルとの出会いや郷土愛、社会貢献意識の醸成に繋がるとともに、キャリア教育で育成すべき「意思決定能力」を育んだ。

<群馬県>（種別：教育委員会）玉村町教育委員会

推薦理由

玉村町は平成31年3月に教育大綱を策定、教育振興基本計画を改訂し、「夢叶える教育のまち たまむら」をスローガンにキャリア教育を学校教育の柱とし、町全体で取組を行っている。具体的には、平成30年度の教育研究所において、冊子「玉村町のキャリア教育」を作成し、玉村町として、各学校・園が進めていく方向性を示した。内容としては、①玉村町共通の系統的なキャリア教育の目標の設定（発達段階に応じた基礎的・汎用的能力の明確化）②各校におけるキャリア教育全体計画の見直し ③各校におけるキャリア教育年間指導計画及び別業の見直し ④授業実践及び授業改善 について示している。

また、全体研修会において、全教職員対象に将来を見据えた教科指導の在り方についての研修を実施し、町をあげて幼小中12年間を見通したキャリア教育の推進を図っている。

さらに、地元企業と連携しながら、中学校の職場体験学習と県立玉村高校のインターンシップを進め、地元の高校も含めた情報の共有を行っている。

今年度の教育研究所においては、キャリア教育の視点を取り入れた教科指導の在り方についての研究を進め、研修員全員が公開授業を行い、その成果をまとめて町内各学校・園に発信する予定である。

幼稚園1園、小学校5校、中学校2校という規模を生かして、玉村町教育委員会と学校・園が協働しながら、実践研究を進め、現場の教師とともに作り上げたキャリア教育を町全体で推進していくことで、玉村町の学校教育の方針で示した「自立する力」「共生する力」の育成を図ろうとしている。

以上の取組を踏まえて、本教育委員会が表彰にふさわしいと考え、キャリア教育優良教育委員会として推薦するものである。

<群馬県>（種別：学校）沼田市立薄根中学校

推薦理由

○取組状況

薄根中学校では、家庭や地域との連携を深め、長年にわたり、地域の教育力を生かした体験的活動に取り組んできた。時代の変化に応じたキャリア教育の充実が求められるようになったことを踏まえ、既存の活動を改めてキャリア教育の視点で見直し、各学年ごとに行っていた体験的活動を意図的に関連づけ、系統的な指導ができるように改善した。生徒の社会的・職業的自立に必要な能力を育成していく上で、大きな成果を得ている。

なお、平成28年度群馬県中学校進路指導研究協議会や平成29年度第43回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会において、研究主題を「自己有用感を高めるキャリア教育の推進～地域と連携した活動を通して～」とし、取組の成果について発表した。特色ある、主な取組については以下の通りである。

【取組①：資源回収活動（人間関係形成・社会形成能力）】

年3回、全校生徒を挙げて取り組んでいる。地域別の縦割りグループで活動することで、3年生が中心となり事前の班編制、行動計画を立てるなど、リーダーとして活動できるようにしている。当日は、生徒と保護者で校区を巡り、地域に住む人とふれあいながら、資源を回収している。回収した資源については、回収業者に引き取ってもらい換金化し、花いっぱい運動の活動資金に当てている。

【取組②：花いっぱい運動（自己理解・自己管理能力）】

資源回収活動で得られた収益で、花の種を購入し、地域の人材の協力を得ながら、種まきから行っている。育てた花の苗は、全校生徒とその保護者により、プランターに移植する。地域に住む80歳以上のお年寄りの家庭を訪問し配付するとともに、沼田市内の各施設に配付し、施設を訪れた多くの市民の心を癒やしている。

【取組③：幼小中連携活動（課題対応能力）】

年2回薄根幼小中連携推進会議を行うなど、利根管内でも、以前から連携が進んでいる地域である。教育課程部会が中心となる取組では、教科等において幼児・児童・生徒間の交流が活発に行われている。中学生が小学生や幼稚園児との関わりの中で、自分の成長について考えるとともに、相手の気持ちを考え、相手に合わせた言葉遣いや行動ができるよい機会となっている。

【取組④：職場体験学習（キャリアプランニング能力）】

取組①や②を中心とした地域と連携した体験的活動において生徒が学んだことを実践する場として、5日間の職場体験を行っている。事業所で働く人々と触れ合うことで、地域の産業のよさを発見したり、仕事のやり甲斐に気付いたりするなど、地域への愛着や誇りを深める機会となっている。また、体験後に行う発表会では、自分にはどんな活動が向いているのか、職場体験でどんなことができたのか振り返りを行い、自己の肯定的理解を深めることにつながっている。

以上の取組を踏まえて、本校が表彰にふさわしいと考え、キャリア教育優良校として推薦するものである。

<群馬県>（種別：学校）群馬県立玉村高等学校

推薦理由

群馬県教育委員会は、本校を平成21年度から「ぐんまチャレンジハイスクール」に指定しており、先進的な取組を行う新しいタイプの高校として位置付けている。ぐんまチャレンジハイスクールでは、「興味・関心に応じた様々な体験的な活動ができる学校」「基礎的基本的な学力を着実に身に付けられる学校」「社会に出てから役立つ資質・能力が身に付けられる学校」をコンセプトとした取組を推進しており、本校は「自分のキャリアを高められる魅力ある高校」を目指した教育活動として、具体的に以下のような取組を行っている。

1 地域や地元企業との協働によるインターンシップの推進

- (1) 玉村町教育委員会が、町内における「インターンシップ受入可能な事業所リスト」を作成し、町内の2つの中学校と玉村高校に提供している。このリストを基に受入先を決め、2年生全員がインターンシップに取り組んでいる。
- (2) 校内でインターンシップ実施後に行う報告会では、下級生を含む生徒に加え、町教委の職員や地元企業の方々、学校評議員も参加している。学校設定教科「教養表現」をはじめ他教科と連携し、分かりやすい報告を行うための指導を行っている。

2 地域課題の解決に取り組む探究活動「玉探」の実施

「総合的な探究の時間」における探究課題として、1年次では「玉村町の探究」、2年次では「玉村高校に関わる探究」、3年次では1、2年次の探究を踏まえた「個人の課題研究」を実施し、学校を含めた地域全体を対象とした探究活動として「玉探」と名付け、学校や地域、社会における自分の在り方生き方を考えながら全ての生徒が探究を進める取組を実施している。

3 地元企業関係者やPTAによる模擬面接

3年生の就職希望者に対して、地元ライオンズクラブと連携し、企業の関係者等が面接官となり、生徒の模擬面接指導を行っている。また、PTAは、3年生の就職希望者と進学希望者に対して、模擬面接指導を複数回実施している。

4 学校設定教科「教養表現」における、人間関係形成・社会形成能力等の育成

本校における取組の核として設定している教科「教養表現」において、人間関係形成能力の基礎となる、社会で求められるマナーについての学習や、ビジネスにおける言葉遣いや文章表現についての学習を行っている。

5 手帳を活用したキャリアプランニング能力の育成

見通しを持って課題や行事などに取り組む習慣を持たせるなどの自己管理能力を育成させるために、全生徒に手帳を持たせ、教員がチェックし、フィードバックを行うことで生徒の主体性を目指す取組を行っている。

6 先輩からのアドバイスの実施

年度当初に、上級生が下級生に対して、ICT機器を利用して、学校生活全般や学習方法、修学旅行やインターシップなどの行事についてアドバイスを行っている。下級生が本校の1年間の生活の見通しを立てられるようにするとともに、アドバイスする側の生徒の成長も促すことをねらいとしている。

以上の取組を踏まえて、本校が表彰にふさわしいと考え、キャリア教育優良校として推薦するものである。

<群馬県> (種別：団体) 前橋市立駒形小学校PTA

推薦理由

6年生の総合的な学習の時間「未来へはばたこう！」で実施しているキャリア学習プログラムを、平成29年度よりPTA本部が中心となり企画・立案・運営している。

このプログラムは、家庭・地域連携による取材型キャリア学習プログラムで、PTA本部が依頼した地域の企業や事業所の社員に対して、6年生児童が仕事の魅力や大変さ、やりがい等について取材し、自己の将来設計を考え、職業や社会の仕組みについて学ぶ機会となっている。

<プログラム当日の流れ>

- ・5・6校時を使い、学校の体育館を会場としてプログラムを実施。
- ・事前に依頼した9名の講師から、班ごとに話を聞く。
 - ①会社の紹介や講師自身の仕事内容の紹介
 - ②現在の職業に就くまでの経歴
 - ③職場での自分の役割、社会における自分の仕事の役割や意味、社会への貢献について
 - ④金銭以外のことで感じている働く意義ややりがい
- ・違う講師から同様に3回話を聞く。
- ・最後に班ごとに質問したいことを考え、講師に質問取材をする。
- ・後日、取材したことをもとに「駒形職業新聞」を完成させ、班ごとに発表することで共有する。

この学習プログラムは、新学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」につながる実践であり、児童の職業理解を深め、キャリア形成を支援する上で大きな役割を果たしている。また、地元の企業・事業所と協働して実施することで、児童の地域理解を促すことにもつながっている。

以上の取組を踏まえて、本PTAが表彰にふさわしいと考え、キャリア教育優良PTAとして推薦するものである。

<埼玉県> (種別：学校) 狭山市立狭山台中学校

推薦理由

進路指導・キャリア教育「ハローワーク狭山台」

狭山台中学校では、次のような内容で進路指導・キャリア教育の一環として「ハローワーク狭山台」という教育活動を十年以上継続している。この取組では、各方面で活躍されている様々な職業の方々を講師として招き、働くことの大切さや喜び、その職業に就くための経路、中学生へのメッセージなどを講話していただき、働くことの大切さや望ましい勤労観・職業観を身に付け、生き方を学ぶ機会となっている。

<具体的説明>

原則、毎年10月の第2土曜日に学校公開として実施。全校生徒に対して20を越える講座(講師の方)を準備。生徒は希望により講座を選択する。1講座50分単位で、生徒は2講座を選択する。最初に全体会を体育館で実施、その後、生徒が教室を移動して受講する。

授業展開例として、(1)担当教員による講師紹介 (2)どんな仕事内容なのか (3)どういう経路をとればその職業になれるのか (4)楽しいこと・辛いこと (5)今の中学生に職業につくことについてのぞむこと (6)中学生からの質問などを担当教員が講師の方と協力して授業を進行する。事前指導として「なぜ働くのか」の学習、講師の方への仕事や進路に関する質問などの準備、また受講後には、感想と合わせ、講師の方へのお礼の手紙を書いている。

成果として三点あげられる。まず、生徒にとって講演でなく「講座」であることがとても有益である。その道

のプロから目前で学ぶ機会が貴重な体験となっていることは受講時の表情や事後感想からもうかがえる。また、教職員にとっても外部の方を講師に招聘する際に、校外の方との交渉であったり接遇であったり、同じ一社会人としての在り方を再発見するチャンスにもなっている。さらに、講師の方々よりいただく感想も概ね好評である。異業種交流の場、保護者を含めた地域交流の場としても可能性が広げられる取組と感じている。

<千葉県> (種別：学校) 成田市立西中学校

推薦理由

平成29年度より、全教育活動における「キャリア教育」の研究を進めてきている。5つの研究部を組織し、「キャリア教育」の視点を日常の教育活動に取り入れている。全教育活動を通じて、「キャリア教育」を実施していくことは、新学習指導要領でも求められている。

また、今年度11月に「第45回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会千葉大会」において、これまでの研究について実践発表、授業公開を行って今後の取組について検証することが予定されている。

<具体的な取組>

1 「研究主題」

「将来への希望をもち、自立的に自己の未来を切り拓くことができる生徒の育成～全教育活動における基礎的・汎用的能力の育成をめざして～」

2 「研究組織」

- | | |
|------------------|-------------|
| (1) 教科指導研究部 | (2) 特別活動研究部 |
| (3) 総合的な学習の時間研究部 | (4) 道徳研究部 |
| (5) 生徒活動研究部 | |

3 「研究の進め方」

生徒の実態をアンケートから把握して、どんな能力を伸ばしていくのかを検討し、研究の方針を決定し全教育活動において、研究部ごとに仮説を設定し、明確なねらいをもって、研究を進めている。

また、どの研究部もキャリア教育は系統的な学びと捉え研究を進めている。

年間2回の研修会を開催し、検証した中で指導の工夫・改善を行っている。

4 「研究の成果」

「基礎的・汎用的能力調査」(H30 4月・12月、H31 4月実施)の結果から、基礎的・汎用的能力が育成されている。

以上のような取組や成果を評価し、優良学校として推薦する。

【ホームページ】 https://www.edu.city.narita.chiba.jp/jhs-nishi/career_education.html

<千葉県> (種別：学校) 横芝敬愛高等学校

推薦理由

職業観の育成及び自立心の涵養のため、日常の学校生活の範囲内で行える学習会やガイダンス、進路講演会等の行事から学校外の自主的活動であるインターンシップと段階を踏み3年間を見通し、系統的にキャリア教育を実践している。各行事に関しては、特に地元との連携を重視している。

また、卒業するまでに全員がインターンシップを経験している。

<具体的な取組>

1 「進路体験学習会」

1年次の秋に、学校内で県内の大学・専門学校・地元企業の方を講師とした「進路体験学習会」を行う。

2 「進路見学会」

1年次の冬に、県内の大学・専門学校・地元企業から計5コース程度を設定し行っている。

3 「インターンシップ」

2年次に、学年全員対象のインターンシップでは、50超の地元企業や横芝光町の協力を得て3日間行い、地元への就職にもつなげている。

4 「就職面接練習」

3年次の就職面接練習の際には、講師として地元企業の採用担当者を招いている。

5 「成果について」

上記の取組をとおり、更に地元青年会議所等とも連携を図った結果として、平成27・28・29年度の3年間にわたって進路決定率100%を達成している。地域社会を担う人材を育成し、かつ育成した人材を地域社会に送り出すことができている。

以上のような取組や成果を評価し、優良学校として推薦する。

<千葉県> (種別：学校) 千葉県立夷隅特別支援学校

推薦理由

小学部、中学部、高等部を有し、卒業後の自立を見据えた小学部段階からのキャリア教育支援の在り方を研究テーマとし、教育課程の編成や指導方法等についての研究を進め、児童生徒のキャリア発達を目指し、3年間の実践を進めてきた。卒業後の進路を見据え、郷土愛を育むために酒米づくりや菜の花プロジェクトなど地域参加が特徴ある取組の一つである。

<具体的な取組>

1 【校務分掌とキャリア教育を関連させた学習活動の工夫】

各学部教員のキャリア教育に関する共通理解を図るため、校務分掌組織を活用し、縦割りのグループで話し合いを実施。生活年齢を意識した系統性のある授業計画を立て、具体的な支援ができる略案を作成。

2 【「なぜ・なんのために」「何を」「どのように」を大切にした授業実践】

(1) 「できた・できない」という評価ではなく、一人一人のキャリア発達を促す支援。

(2) 「本人の願い」を把握し、自己肯定、自己有用感を高める支援。

3 【地域との協働をとおりして】

(1) いすみ市が主催しているプロジェクトへ参加したり、地域の人材を招聘した授業を具体化し、地域との連携が充実。

(2) カリキュラム・マネジメントを進め、地域のゴミ拾いなど、年間を通した地域での活動を計画し、児童生徒一人一人が、自己肯定、自己表現、自己決定できるようにしている。

(3) 地域で実施する中・高等部による作業製品販売会では生徒が自己有用感、達成感を味わえる活動を展開。

(4) 校内清掃検定を小学部段階から実施し、高等部生徒は、身に付けた技術を生かし近隣施設の清掃を行っている。

(5) 高等部では、生徒の適性を踏まえた実習を実施している。小学部段階から卒業後を見据えた進路指導ができるように小学部担当教員も対象とした進路学習会の実施。

以上のような取組や成果を評価し、優良学校として推薦する。

【ホームページ】 <https://cms2.chiba-c.ed.jp/isumi-sh/>

<東京都> (種別：教育委員会) 瑞穂町教育委員会

推薦理由

自治体の特徴に合わせた、職場体験事業を実施することで、生徒一人一人に望ましい勤労観・職業観を身に付けさせるとともに、教育課程の中でふるさと学習「みずほ学」として位置付けて推進していることから、本表彰に推薦する。

1 教育課程に明確に位置付けた「ふるさと学習「みずほ学」の推進

職場体験学習を推進するために、教育課程上に職場体験学習を位置付けるだけでなく、ふるさと学習「みずほ学」の一環として、原則瑞穂町内での職場体験を実施している。生徒は、職場体験学習を行う前に、ふるさと瑞穂町について様々な場面で学習していることで、自分の町に愛着をもち、活動をすることができている。また、瑞穂町内で実施することで、事業所の全面的な協力を得ることができ、5日間の職場体験学習を実施している。

また、ふるさと学習「みずほ学」では学習を「知る」→「関わる」→「する」の段階で分け、生徒の発達段階にあった学びを提供している。事前学習で事業所のことを「知り」、5日間の体験で「関わり」、職場体験学習実

施後に次のふるさと学習「みずほ学」の場面で自分たちでできることを「する」学びを行っている。

2 町部局と連携した職場体験学習の実施

町各部局で生徒の受け入れをすることに加えて、農業・工業・商業の事業者との連携においては産業課の協力を得ている。また、教育委員会部局においても受け入れと同時に、受け入れを効果的にするために、プログラムの改善（学校へのフィードバック）を行っている。このことにより、各事業所に依頼するだけでなく、よりよい職場体験学習の実施に向けた有機的な連携を進めている。

<東京都>（種別：学校）学校法人淑徳学園 淑徳 SC 中等部高等部

推薦理由

本校は普通科の女子高校でありながら、生徒へのキャリア教育の一環として、昨年度から「食と農業プロジェクトチーム」を立ち上げ、食育に関する様々な取り組みを実施。昨年は岩手県にある「ふれあい果樹園」と連携を行い、りんごの木のオーナーとなりりんごを栽培し、家庭科の時間を使い栽培したりんごを使い調理を行った。今年度の5月には中学1年生から高校1年生までの本校生徒が、新潟県にある新潟食糧農業大学へ行き田植え活動を実施。（新潟食糧農業大学とは教育的連携を行っている）10月には稲刈りを行い、収穫した米の商品名やロゴマークの作成などを生徒が主体となり実施する。また一部の米で甘酒作りを行い、地元自治体や商店街とも連携し販売するなどの、6次産業化へのチャレンジも開始している。

5月の田植えでは、田んぼに着くと新潟食糧農業大学の先生から田植えの説明を受け、田植えを開始した。スムーズにどんどん苗を植えていく生徒もいる一方、田んぼに入ることさえ時間を要する生徒がいるなど様子は非常に様々であった。生徒だけでなく、本校の教員も校長を始め一丸となり田植えを行った。現在本校では、新潟食糧農業大学から頂いた米を生徒会の生徒がおにぎりにし、本校の学校説明会で受験生に振舞うといったことも定期的に行っている。合わせて家庭科の授業時間を使い、おにぎりの具のコンテスト大会を実施。優勝者のおにぎりは、10月末に行われる本校文化祭などでしこ祭にて、来場者に振舞われる。

現在本校では新潟食糧農業大学の指導のもとブルーベリーの栽培も行っている。本校校舎4階にあるオープンスペースとなっていたウッドデッキを使いブルーベリーを栽培する。収穫したブルーベリーはジャムにし、地元自治体や商店街に流通させるだけでなく、JICAを通じて発展途上国への援助となるような流通を行う予定である。本校は女子校であり、女性の職業としての農業を意識したキャリア教育の可能性を探る目的で本プロジェクトを実施した。新潟食糧農業大学から指定校推薦を頂いたことを始めとし、今後は進路選択の一つとして農業を選択する生徒が増加していくことを目指している。

【ホームページ】 https://www.inter-edu.com/special/ssc/features/rensai3_2019/
https://www.inter-edu.com/special/ssc/features/rensai1_2019/

<東京都>（種別：学校）東京都立葛西南高等学校

推薦理由

「生徒の数だけ夢がある！全方位型の進路指導体制」をテーマに本校の特色である多様な進路を実現するため、様々なキャリア教育の取り組みを三年間を通して行っている。また就職希望者が例年多い実情もあり、高校入学後早くからキャリアの取り組みにより、民間就職希望者の内定率100%を実現している。

1学年入学当初から、適性検査、「総合的な学習・探究の時間」におけるキャリアガイダンスをはじめ、「職業理解プログラム」の実施、「インターンシップ」では1学年生徒全員が2日間校外で職業体験を行う。また実施にあたり、国際ロータリークラブ2580地区、江東区地域振興部等と連携・協力をはかり、毎年100を超える事業所が受け入れを行っている。また進路実現の一助として、リクルート社の「スタディサプリ」を活用し、授業の補てん、進学に向けての活用を行っている。

2学年では、「体験的進路プログラム」と称し看護師・保育士・介護士の体験、上級学校訪問をはじめ、分野別進路ガイダンスや3年生による進路体験発表会、社会的・職業自支援教育プログラムを活用した進路ガイダンスなど具体的な進路決定に向けた取り組みを行っている。また随時、公務員試験対策講座、看護医療模試、学力模試など積極的活用している。

3学年では、実際の進路実現に向け、「総合的な学習の時間」では進路分野別に14クラスに編成し、それぞれ
の分野に特化した指導を展開している。また「卒業生による進路体験発表会」では卒業して1年になる卒業生を
講師として招き、それぞれの体験談を自分の進路活動に生かす取り組みを行ったり、社会保険労務士を招き、社
会人としてのルールや法律、社会保険制度について学ぶ「社会人になるための基礎講座」といった卒業後に向け
たプログラムも実施している。

就職指導については、マナー・身だしなみの指導を軸に、ハローワークのジョブサポーターとの連携を密にし
た就職指導、面接指導も複数企画し、きめ細かいサポートを行っている。また、様々な事情を抱える生徒に対応
するため、YSW派遣の活用など外部機関との連携も積極的に行っている。

<東京都> (種別：学校) 東京都立第五商業高等学校

推薦理由

スローガン『人づくり夢づくりの商業高校(まなびや)』のもと、生徒の夢や希望進路の実現に向け、次のよう
な様々な特色ある取組を組織的、計画的に推進している。

- (1) 地域商店街(富士見台商店街等)やNPO(くにたち富士見台人間関係キーステーション)、国立市内にある
一橋大学等と連携した取組を通じて、地域の特性を踏まえた実践的な学びを推進
- (2) 国際ロータリークラブと連携したインターンシップ事業や日本政策金融公庫主催「高校生ビジネスプラン・コ
ンテスト」への応募、文化祭での「五商ショップ」等の取組により、現実のビジネスについての学びを深め、今
後、社会人として求められる実践的な資質・能力を育成
- (3) 東京都教育委員会の商業教育コンソーシアム東京からの支援を受けて企業の経営戦略、マーケティング等の実
際を学び、ビジネスリーダーとして必要となる資質・能力を育成
- (4) ボランティア部を中心に、国立市社会福祉協議会と連携した各種のボランティア事業に参加し、地域に貢献す
る教育活動を実施
- (5) 各種検定等の資格取得を通じた進路実現に力を入れる(8年連続就職内定率100%)とともに、三年間の大学
進学指導計画による専門学科からの大学進学に特化した指導を実施

<東京都> (種別：学校) 品川区立宮前小学校

推薦理由

1 模擬選挙を通した主権者教育

将来の地域を担う人材としての意識を高めるために、市民科の時間を中心として、立正大学、明るい選挙推進
協議会と協働し模擬選挙を実施している。

- ・事前学習として、まず「こんな街にしたい」というテーマで話し合いを行い、自分の立場や考えを深めて明確
にする。また、立候補者(立正大学学生)の演説を聞き、立候補者の主張と自分の考えを比較・検討し、どの
候補者に投票するか考えを深める。
- ・実際の選挙会場を模した環境で、立候補者を選ぶための投票活動を行う。
- ・事後学習として、振り返りの話し合い活動を行う。

2 学びを生かしたキャリア教育

本区では、キャリア教育推進の一環として、公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本による経済体験学習
プログラム「スチューデント・シティ」(SC)を実施している。本校ではSCで得た学びをさらに深めるため、SC
で体験し学んだことをまとめ、保護者・地域の人々に向けて発信する「宮前SC」を実施している。

- ・事前学習として、お金やモノ・サービスの流通を通した「共生社会」の概念や、限られたお金・資源でよりよ
い生活を実現するための意思決定の仕方などを学ぶ。また社会の一員として必要な責任感やコミュニケーション
の仕方を学ぶ。
- ・実際の街を再現した「スチューデント・シティ」の中で、市民の一人として労働や消費活動を行い、利益を追
求する活動を通して、事前学習で学んだことを体験活動の中で実感として深める。
- ・事後学習の発展として、学校公開で「宮前SC」を本校体育館で実施し、保護者や地域の人々を宮前SCの街の
人に見立てて、経済活動を再現する。

3 地域人材を活用した「しながわドリームジョブ」

将来の職業選択の幅を広げたり、働くことの意義を学ぶために、地域で働いている方々からお話を伺う取組をしている。

- ・事前学習として、自分の好きなこと（志向）と得意なこと（適性）について考えを深め、将来就きたい職業について話し合う。
- ・地域人材を「ドリームジョブマイスター」として招き、自分の職業の内容ややり甲斐、働く上で大切なこと等についてお話をしていただき、自分の将来の職業や生き方について具体的に考えることができるようにする。

4 地域に貢献する人材の育成

毎年実施される「区民祭り」の出店にボランティアとして3年生～6年生の希望者が参加し、地域へ貢献することの意義を体感している。

- ・「区民祭り」のスタッフとして参加し、様々な店で手伝いや労働をすることで、主体的に地域に関わる意識を育てる。

5 職場体験を通じた将来設計

職場体験を通して、働くことへの関心を高め、自分の役割を見付け進んで活動に取り組むことができるようにしている。

- ・事前に地域の協力施設に出向き、お世話になる職員の方々に挨拶をするとともに、自分が担当する仕事の内容や役割について学ぶ。
- ・職場体験を通して、自分の役割に責任をもって取り組む。

<東京都>（種別：学校）北区立明桜中学校

推薦理由

1 取組主題

「キャリア教育を中心とした学力向上」を研究主題とし、近隣の小学校4校と共に一人一人の社会的・職業的自立に向け、その基盤となる能力や態度、及び自立した社会人として生きる力を育む授業スタイルづくりを目指して授業研究を行い、キャリア教育を推進した。

2 取組方法

本校とその母体校となる近隣の4校と共に12の教科・領域分科会において、年間3回の小・中連携の授業研究と事前検討会を行う。

3 分科会

○国語 ○社会 ○算数・数学 ○理科 ○英語・外国語 ○保健体育 ○道徳 ○特別支援
○芸術・技術系 ○総合的な学習の時間 ○特別活動 ○養護

4 授業研究の視点

○小・中の学びのつながりを意識したキャリア教育の実践に向けた基礎的研究とする。

○キャリア教育の視点を明確にする

授業の中で育成を意識した『キャリア教育の視点』

- ・人間関係形成・社会形成能力
- ・自己理解・自己管理能力
- ・課題対応力
- ・キャリアプランニング能力

5 研究の方向性

2015年から5年計画で「キャリア教育を中心とした学力向上」に取り組み、2019年は考察・拡充の年になる。

この取組では、授業の中でキャリア教育の視点を意識するということに主眼をおいて、小学校と共に継続して指導を行ってきた。

小学校の6年間と中学校の3年間の学びの連続性の中で、生徒が自己の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けることができるような、キャリア教育を推進してきた。

<神奈川県> (種別：学校) 神奈川県立菅高等学校

推薦理由

【キャリア教育実践プログラムについて】

- 神奈川県では、キャリア教育のより一層の充実に向けて、すべての県立高校において、学校全体での計画的な推進を念頭とした「キャリア教育実践プログラム」を策定し、それに基づいて各校でキャリア教育に取り組んでいる。
- 当該校では、入学から卒業までの3年間を見通したキャリア教育実践プログラムがしっかりと確立されており、目ざす目標を明確に示し、その実現へ向けた年間指導計画がきめ細かく策定されている。
- 育みたいキャリアの諸能力と各取組場面での支援・サポートのポイントが捉えやすく示されており、職員が認識を合わせ統一した指導を展開できるプログラムとなっている。

【特徴的な取組について】

- 当該校では、キャリアの諸能力と教科学習の関わりや各行事の関わりを詳細に設定し、生徒一人ひとりのキャリア形成について適切に指導できるように工夫がなされており、3年間の発達段階に応じて系統立てられたキャリア教育のプログラムが計画されている。
 - 例えば、インターンシップの推奨と同時に1年次における社会人講話の実施、高大連携における単位認定、ボランティア活動の推進、ハローワークとの連携による就職ガイダンスやジョブフェアへの参加、ファイナンシャルプランナーによる保護者・生徒向けの講演・勉強会の実施など、外部の企業等とも連携して、多様な進路を支えるキャリア教育を実践している。
 - また、朝読書や授業と連携した学び直しの補講等もキャリア諸能力の育成と関連付けて計画されており、また、年次に応じた効果的な内容で年間を通した計画として「総合的な学習の時間」及び「総合的な探究の時間」に組み入れられて実践されており、特徴的な取組として注目できるものである。
- 以上のような取組を通し、着実なキャリア教育の推進に努めていることから、当該校をキャリア教育優良学校として推薦する。

<神奈川県> (種別：学校) 横浜女学院中学校高等学校

推薦理由

横浜女学院中学校高等学校のPTA・後援会の会員の中で、今後社会に出る女性のために先輩社会人として有益な講義を年10回程度開催している。

目的として、以下の3点を掲げている。

1. 実社会に役立つ知識の取得と具体的な現状の紹介
2. 生徒個々の進路選択へのきっかけづくりと学習意欲の向上
3. 保護者の直接的な教育活動への参加を通しての親子の相互理解

この講義には生徒のみならず保護者の参加も歓迎し、出席者のアンケートをとり、その成果を共有し次回講義に活かせるようにしている。

<新潟県> (種別：教育委員会) 佐渡市教育委員会

推薦理由

佐渡市では、郷土愛を軸にしたキャリア教育の推進を目指し、佐渡市教育大綱や学校教育の重点に位置付け取組を推進している。また、佐渡市学校教育におけるキャリア教育グランドデザインを作成し、保育園・幼稚園から小学校、中学校、高等学校まで連続した取組を進めている。

1 「自分と佐渡のみらいを考えよう～みらい'sノート」を活用した小学校の取組

「自分と佐渡のみらいを考えよう～みらい'sノート」を作成し、佐渡市のすべての小学校に配布し、外部指導者による出前授業の実施や教職員向けの研修会を実施している。出前授業は、モデル校を設けて実施し、今年度で全小学校が実施となる。みらい'sノートは中学校にも引き継ぎ、継続して活用している。また、子ども参観日等を実施し、保護者や地域の大人の職場を見学し、佐渡を基盤に生きる大人とかわり、職業意識の醸成を通し

て郷土愛を育んでいる。

2 「～佐渡の未来を担う人を目指して～課題解決型職場体験ガイド」を活用した中学校の取組

「～佐渡の未来を担う人を目指して～課題解決型職場体験ガイド」を作成し、佐渡島内の事業所の協力を得て、課題解決型職場体験に取り組んでいる。生徒は事業所から出されたミッション（課題）解決に向け、主体的に取り組む、仕事の面白さや醍醐味を学び、勤労観や職業観を育んでいる。今年度は県立佐渡中等教育学校を含め、全中学校で取り組み、事業所の数も103事業所に増えた。課題解決型職場体験ガイドによる取組により、生徒は、佐渡で活躍する大人とのつながりを実感できている。

3 佐渡を知り、愛し、誇りとする「佐渡学」の取組

佐渡の子どもたちが地域の伝統や歴史について学ぶ「佐渡学」の取組を全小中学校で実施している。地域の方を指導者に、佐渡に伝わる民謡や能、鬼太鼓などの伝統芸能や金山、トキ学習などを教育課程に位置付け、郷土のよさに触れ、愛着を育む取組を進めている。また、その取組の発表会を開催し、地域の方々に発信してきた。

<新潟県>（種別：学校）三条市立大島中学校

推薦理由

三条市立大島中学校は、3年間地域の教育資源を生かしたキャリア教育を教育課程の中核に据え、すべての教育活動において実践した。生徒の学習意欲・学力の向上や良好な人間関係を実現し、教職員の授業力や教育活動に対する意欲の向上等、学校の教育改革に確実に成果を上げている。

1 教育活動全体における道徳性と関連づけた基礎的・汎用的能力の育成

学校におけるキャリア教育全体を、直接職業や進路について学習する直接的キャリア教育、職業や進路とは直接的に関係しないが基礎的・汎用的能力を日常の授業や学校行事等で育成する間接的キャリア教育、さらに、あいさつや言葉遣い、身だしなみなど、人として生きるために必要な基礎・基本となる日常的キャリア教育として3つに分類した。特に、授業等の間接的キャリア教育においては、授業のユニバーサルデザイン化を目指し、すべての授業で5つ共通指導項目を設定し、それぞれ5つの身に付けたい力（基礎的・汎用的能力）と道徳性とを関連付けて指導した。

2 生徒のキャリア発達を促す、自己の生き方を考えるポートフォリオと生徒・保護者・職員の共通アンケートの実施

生徒の過去、現在、未来の自分を考えるポートフォリオを作成し、生徒、保護者、職員の共通アンケート調査から5つの身に付けたい力（基礎的・汎用的能力）の定着を評価し、教育活動の改善に生かした。

3 地域の教育資源を生かし、地域と連携・協働した3年間のストーリーのある総合的な学習の時間の構築

1年生で地域の良さを学び、2年生で地域の特色を生かした商品を開発し、3年生で模擬店舗にて販売、そして、自分の将来、地域の未来を考えるとというストーリーのある総合的な学習の時間を実施した。授業では、地域の事業所や高等学校、PTAや学校運営協議会と連携・協働した活動を行った。

4 キャリア教育を軸としたカリキュラム・マネジメント

地域の産業や資源、人材等を活用し、郷土への愛着と地域貢献をキーワードに、これまでも行われているエネルギー教育、食育、環境教育、防災教育、金融教育等の活動をキャリア教育の視点で見直し、すべての教育活動をキャリア教育として捉え、カリキュラムの工夫・改善を図った。

<新潟県>（種別：学校）新潟県立佐渡中等教育学校

推薦理由

同校は、“未来を創る力”を育てる総合的な学習（探究）の時間として『佐渡未来学』を設定し、そこから波及した「中等生PROJECT」の実践により、生徒の主体的な活動と学びを生み出すキャリア教育を実践している。

○ 佐渡未来学

6年間の総合的な学習（探究）の時間を系統的にデザインし、社会に開かれた教育課程を目指して、地元の佐渡について学ぶとともに、校外の社会人や大学生などとの関わりの中で、佐渡中等版社会人基礎力“未来を創る力”を育成した。内容は「佐渡学探究」と「キャリアデザインゼミ」に分けられる。

①佐渡学探究：前期課程にSDGs、能楽、地元の産業について探究活動を行う。後期課程には、興味・関心、進路にかかわる分野においてフィールドワークを行い、自身の未来について探究する。

②キャリアデザインゼミ：地域・社会・海外・上級学校との関わりを通じて、社会に開かれた学びの場を設定し、よりよい社会を創り出す人材を育成する。

これらの活動を通して地元である佐渡で、本気の大人と出会い、「何かやってみたい」「自分にもできることがあるかもしれない」という想いが生まれ、生徒が有志で活動するきっかけとなった。

○ 佐渡を豊かにする「中学生 PROJECT」

地域貢献の想いを抱いた有志生徒が、地域の人と共創し、新たなものを創り出し、主体的に地域課題を解決する活動を行った。「アイデア創出→ビジョン設計→ビジネス設計→プレゼンテーション→アクション→活動報告」という1年間のプロセスを通じて、アイデア・想いをカタチにした。この取組をとおして、生徒と地域住民が相互に影響し合い、地域の未来を切り拓くための生徒の主体性を育成した。

<富山県> (種別：学校) 入善町立上青小学校

推薦理由

校区にある国の天然記念物「杉沢の沢スギ」を、地域の人と共に守っていくために自分ができることを考え、実践している。地域の中で自分の役割と責任を果たすことや働くことの大切さを学んでいる。

○ 文化財愛護少年団としての取組 (5・6年生)

- ・昭和52年から受け継がれてきた文化財愛護少年団の団員となり地域の人と一緒に沢スギの愛護活動に取り組んでいる。
- ・沢スギの枯枝集め等の清掃活動やスギの植樹を行っている。
- ・地元の福寿会の方から沢スギに関する話を聴いている。

○ 沢スギを題材とした系統的な学習「沢スギの日」の設定 (全学年)

「沢スギの日」と称して、各学年が地域の文化財「沢スギ」を教科横断的な視点で教材化し、生活科や理科、総合的な学習の時間の学習を行っている。また、沢スギに関連した校外学習を実施している。

- ・(1年生) 生活科：自然の物を使った遊び
- ・(2年生) 生活科：沢スギ探検、自然材を使った工作
- ・(3年生) 総合的な学習の時間：沢スギのひみつ調べ、自然材を使った工作
- ・(4年生) 理科：沢スギ林の自然観察
- ・(5・6年生) 総合的な学習：文化財愛護少年団としての活動

○ 環境整備作業へのボランティア活動

沢スギ林の普及のため、町が主催している環境整備の呼びかけに応え、ボランティア活動に積極的に参加し、働くことの大変さを実感するとともに、充実感、満足感を得る中で、ふるさとを愛する心を育てている。

<富山県> (種別：学校) 南砺市立福光中学校

推薦理由

四つの基礎的・汎用的能力(人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力)をバランスよく育成するため、各領域との関わりを明確にし、キャリア教育を学校の教育活動全体を通じて計画的、組織的、継続的に行っている。

○ 系統性と学年間の関連性を意識したキャリア教育

(1学年)「13歳のハローワーク」

- ・PTAや地域、ものづくり企業と連携し、講師を招いて直接話を聞くことにより、様々な職業について知り、仕事への関心を高めている。
- (2学年)「課外授業講師講演会[富山経済同友会]」「マナーアップ講座[富山県社会保険労務士会]」「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」
- ・職業に関する課題(働く意義、働く喜びや苦勞等)を見付け、追究活動を行っている。
- ・保護者や地域の事業所と連携し、5日間、学校外で職場体験活動や福祉・ボランティア活動等に参加すること

で、規範意識や社会性を高めている。

(3学年)「進路説明会」「オープンハイスクール」「進路相談」

- ・興味・関心や能力、適性に応じ、目的意識をもって主体的に進路を選択していく力を育成している。

○ キャリア教育の視点を取り入れた「総合的な学習の時間」

(1学年) テーマ 「郷土に生きる ～南砺市のこれからのを考える～」

- ・産業、福祉、観光、人口、子育て、スポーツ等から課題を設定し、他市や他地区と比較しながら郷土のよさを捉え、今後の郷土、南砺市について考えている。

(2学年) テーマ 「社会に生きる」

- ・「働く意義」や「働く喜びや苦勞」等、職業に関する課題を見付け、追究活動を行っている。職場体験「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」の事前学習、体験活動、活動のまとめ、事後発表会を行っている。地元企業50事業所と連携している。

(3学年) テーマ 「共に生きる」

- ・障がい者福祉、高齢者福祉、郷土、環境等をキーワードに、「～と共に生きるためには」という視点から、各自が課題を設定し追究活動を行っている。

<富山県> (種別：学校) 富山県立氷見高等学校

推薦理由

普通科、農業科学科、海洋科学科、ビジネス科、生活福祉科からなる総合制高校として、各科が共同し、地域や自治体等と連携した地域課題の解決に向けた取組みや、学校全体によるキャリア教育を積極的に行っている。

1. 地域課題の解決に向けた各科及び各科共同の取組み

普通科では、探究活動として富山大学や氷見市教育委員会と連携し、国の天然記念物である淡水魚イタセンパラの生息を確認する実験を行い、イタセンパラの存在を確認する方法について研究している。

生活福祉科では、氷見市障害者サポートグループNPO法人b-ライフと連携し、交流会を実施している。また、地域特産物を使った商品開発にも取り組んでいる。

海洋科学科では、地域と共同で、アマモの植生やワカメ栽培を研究している。また、漁業環境や生態系の保全活動にも取り組んでいる。

農業科学科では、地域と連携し、特別栽培米(コシヒカリ)の栽培や海浜植物(ハマボウフウ)の保存・増殖活動に取り組んでいる。また、名城大学と共同で、農業被害が深刻なイノシシ肉の加工に関する研究を進めている。さらに、海洋科学科・ビジネス科と共同し「イノシシ肉のカレー缶詰」を試作した。

ビジネス科では「チャレンジショップ氷見高」を設立し、地元飲食店とのコラボレーション商品や農業科学科が育てた野菜、海洋科学科が開発したイワシの缶詰等の販売を通して、仕入れや流通の仕組みについて学習している。

2. 学校全体での組織的・体系的なキャリア教育

「総合的な探究(学習)の時間」に、1年次には自己発見のための「HIMI学」、2年次には進路探究のための「キャリアガイダンス」、3年次には進路実現に向けた「キャリアデザイン」を開設し、3年間を見通した進路実現をサポートするキャリア教育を実践している。

専門学科4科による合同のインターンシップ報告会を実施しており、各自の体験を振り返ることをはじめ、他科の体験を聞き合うことを通して幅広い職業観や勤労観を養うキャリア教育を進めている。

<石川県> (種別：学校) 石川県立輪島高等学校

推薦理由

【学校の概要および教育目標】

普通科3クラス総合学科1クラスの1学年4クラスからなる学校であり、グローバルな視野を持ち、地域に貢献できる自立した社会人(グローバル人材)の育成を目指す。

【地元企業や自治体等と連携し、地域課題の解決に取り組む】

輪島市には「自然や文化、人、観光」について、市外へ発信したい多くの魅力があることをいかし、生徒たち

が今できることは何かを考え、輪島市活性化プロジェクトを立ち上げ、以下の活動を行った。(総合学科3年生35名)

① 輪島市の特産品等のPRや販売

- ・輪島朝市に高校として出店して販売
学校で開発した商品「いしるくつきい」「塩大福」等の販売。
- ・輪島ふるさとCMの制作
輪島市役所企画課と連携し、北陸朝日放送主催第17回ふるさとCM大賞に出品するため動画の撮影から編集・ナレーションを行い30秒のCMを制作した。制作したCMはモバイルプロジェクターを活用し、イベントで放映した。
- ・LINE@を利用したメールマガジンの配信
輪島市観光協会と連携し、LINE@を利用した観光客向けの情報発信。
- ・全国朝市サミットでの発表、販売、生徒交流
- ・能登空港における地元特産品の販売ボランティア
- ・観光ガイドの取組(高校生による英語での輪島市の観光案内)
- ・輪島の特産品を商品としたガチャガチャの制作
輪島朝市組合と連携し、輪島朝市を代表する商品の仕入れ、価格交渉等を行い、ガチャガチャを完成させた。

② 商品開発

- ・輪島市オリジナルフレーム切手「輪島にこい♡」の制作による輪島市のPR
輪島の魅力を伝えられるようなタイトルや写真を選びオリジナルフレーム切手を制作した。また、切手の説明文、POP広告の作成を行い、生徒自らが企業等にアポを取り、販売協力の依頼を行った。
- ・オリジナル商品の開発
「里山・里海みそ汁」(H29)、「ぎんばさパウンドケーキ」(H28)を開発。

<福井県> (種別:教育委員会) 福井市教育委員会

推薦理由

当該教育委員会学校教育課は、平成24年度より福井市キャリア教育連絡協議会を立ち上げ、市内各経済団体と連携してキャリア教育の推進に取り組んでいる。

1 キャリア教育コーディネーターの配置

地域や企業と学校を結び付ける役割を果たすための専門的な知識と技能を兼ね備えているキャリア教育コーディネーターを委嘱している。福井市キャリア教育プログラムの実施においては、キャリア教育コーディネーターが中心となって、学校と各種経済団体、企業をつなぎ、スムーズな運営がなされている。

2 福井市キャリア教育連絡協議会への参加団体の拡充

福井市キャリア教育連絡協議会には、現在、(公社)福井青年会議所、福井商工会議所青年部、福井市教育委員会事務局学校教育課、福井市商工労働部しごと支援課(H26～)、福井経済同友会(H26～)、ふくい担い手づくりプロジェクト(H28～)、キャリア教育コーディネーター(H28～)、小中学校代表の校長各1名(H28～)、福井市未来づくり推進局女性活躍促進課(H30～)が参加している。平成31年度はキャリア教育コーディネーターを1名増やし、2名に委嘱した。

なお、福井市キャリア教育連絡協議会は、平成30年度、第8回「キャリア教育推進連携表彰」において最優秀賞を受賞している。

3 福井市キャリア教育プログラムの実施

発足当初は、職場体験学習の学校からの要請と企業からの提供をつなぐ活動が中心であった。平成29年6月より、「福井市キャリア教育プログラム」を開始し、各経済団体、企業の社員等が、教育支援者として学校を訪問し、学校の教科等の学習内容と地域の企業の人づくり・ものづくり等を結び付けた授業を支援する制度を立ち上げた。当該教育委員会では、これまで各経済団体が単独で実践してきたこれらの支援を、「福井市キャリア教育プログラム」として一覧表にし、市のイントラネットを活用して常に情報を更新、提供し、授業や行事等で活用しやすいようにまとめている。

福井市キャリア教育プログラムの活動実績は、平成29年度は小中あわせて27校(164学級)、平成30年度は

小中あわせて63校(210学級)と年々活用が広がっている。

<福井県> (種別: 学校) 敦賀市立気比中学校

推薦理由

当該校は市街地に位置する全校生徒約400人の中規模校である。校区にはJR敦賀駅が含まれ、駅前商店街等、古くから市の中心地として栄えてきた地域である。しかし近年、商店街は以前ほどの活気はなく、2023年の北陸新幹線敦賀延伸を目前に、駅前の活性化は市全体の課題ともなっている。そこで、当該校では、市新幹線まちづくり課等の自治体と連携してふるさと敦賀のまちづくりに参画すべく、「北陸新幹線まちづくりプロジェクト(HMP)」を立ち上げ、取り組んでいる。3年間を通して一つのテーマに取り組むことにより、地域と連携しながら、ふるさとに関心を持ち、ふるさとの良さを積極的に発信していこうとする未来の地域を担う人材を育成している。

1 1年生の取組

1年生では、「北陸新幹線の敦賀開業に向けて、私たちにできることは何か」という共通課題を設定し、敦賀市の観光PRに目を向けている。敦賀の観光資源を知ることに加え、県内他市の観光資源を、本市にも生かせる部分はないかという視点で見学している。また、北陸新幹線の工事現場視察等を通して、新幹線延伸後の生活の変化や利便性についても学習している。1年生のまとめとして、福井市の中学校と遠隔授業システムで交流し、福井市との比較も考慮しながら、敦賀市の良さも再認識している。

2 2年生の取組

2年生の春には、すでに北陸新幹線が開通して賑わいを見せている金沢への校外学習を実施している。金沢市役所職員からまちづくりのヒントを学ぶとともに、金沢市を活性化成功に導いたポイントやPRの仕方を学習している。また、金沢市内の観光客に敦賀市のイメージアンケート調査を実施し、現状把握に役立てている。秋には、京都で敦賀のPR活動を実施することで、受信から発信へと活動の幅を広げている。また、京都でも金沢と同様のアンケート調査を行い、金沢の調査と併せて、次年度の修学旅行において、より充実したPRにする一助としている。

3 3年生の取組

3年生では、関東地方への修学旅行をプロジェクトの総まとめと位置づけ、旅行先の東京で、敦賀市のPR活動を実施している。PR活動時には、手作りPRチラシの入ったポケットティッシュを配布している。外国人観光客も多いため、英語によるPRをする機会ともしている。また、復路は、実際に北陸新幹線乗車を含めたスケジュールとし、数年後の敦賀開業への具体的なイメージを喚起している。

<福井県> (種別: 学校) 福井県立三国高等学校

推薦理由

三国高校は今年度、創立111年目を迎える伝統校である。地域の人口減少が進む中、地域から求められる人材を育成する学校として、地域課題探究の教育プログラムを地域組織や大学と協働して立ち上げ、総合的な探究(学習)の枠を活用し3年間を見通した活動を行っている。

1 課題探究の取組み

①1学年ー『空き家活性化プロジェクト』

東京大学やUDCS(アーバンデザインセンター坂井)と協力し、地元の祭りの来場者から「三国の魅力」を聞き取るなどの現状分析に基づき、生徒自身が町家プランを作成することで、主体的に課題を発見していく力を伸ばしている。さらに優れたプランを選び、地元の菓子店や料理店の協力を得て、プランに基づく空き家を使ったカフェなど4店舗を実践的に開いた。

②2学年ー『地域の未来について提言を行う』

アズAS☆(あわら坂井創造推進協議会)と連携し、まちづくりや女性活躍などに取り組む市職員など10名の講師による授業を通じて、今後の坂井市について考察している。さらに、3学期にはSDGsの目標である「住み続けられるまちづくりを」をテーマにした課題研究も行っていく。

③3学年ー『取組みのまとめ』

1年次から続ける活動内容について、ポートフォリオを作成している。

2 坂井市議会への提言

生徒らが市内の現状を把握する中で自らが見つけた課題についての解決策を市議会に提案・発表する「坂井市高校生議会」に参加している。

3 職業探求講座

1、2年生を対象に、様々な職業に就く社会人から講話を聴く「職業探求講座」を開催している。

4 インターンシップ

2年生を対象に、地元の企業等でインターンシップを実施している。

<福井県> (種別：学校) 福井県立丹生高等学校

推薦理由

丹生高校は、福井型中高一貫教育校として、丹生郡の4つの中学校と連携した教育を行っており、ふるさとの活力と発展に貢献できる資質、能力の育成を目指している。特に中高連携クラスの卒業生は、約8割が町内に居住し、越前町の活性化に大きく寄与している。

1 中高一貫教育におけるキャリア教育

中学3年生から高校3年間の計4年間を見通した中高一貫教育のキャリア教育を以下のとおり実践している。

① NYU探究

中学3年生から地域に関することを題材として研究を始めており、高校では発展的に、まちづくりや町の活性化について地域住民（地域コミュニティ運営委員会）と意見交換を実施している。今年度はフィールドを県外にも求め、兵庫県の高校と連携し、まちづくりに関する研修や調査を行っている。（今年度から名称をNYU研究からNYU探究に変更）

② 外部団体と連携した活動

ふるさと教育の一環として、小さな親切運動越前支部と連携し、地域おこし協力隊をゲストティーチャーとして学校に招き、特別授業を行っている。授業では生徒とゲストティーチャーが意見交換を行い、越前町の未来のまちづくりについて考察している。

2 先輩と語る会

2年生の進路ガイダンスとして、丹生高校出身の大学・短大・専門学校等の進学者および社会人を講師として迎え、高校時代の過ごし方、進路決定までの経緯、在学中の学校や職場の状況等について話を聞き、意見交換をしている。

3 職場見学やインターンシップの実施

地元の企業と連携しながら、普通コースの1年生全員が、12月上旬に職場見学を行っている。また、2年生の就職希望者は、7月下旬に3日間の就業体験を行っている。

<山梨県> (種別：学校) 山梨県立笛吹高等学校

推薦理由

1 取組の概要

学校の特性や普段の学習成果の有用性を発現する場を創生し、生徒の社会適応力の養成を図るため、研究主題を「社会参画意識を育む地域連携」ー笛吹市との包括連携協定の取組をとおしてーとし、学校所在地笛吹市との間に平成29年4月に包括連携を締結した。

協定の目的は「豊かで活力ある地域社会の形成と地域振興に向けて地元笛吹市と高校が協力し、魅力あるまちづくりの推進に取り組むと同時にふるさとを愛し、未来を担う人材の育成に努めること」である。年度初めに全校集会を開いて包括連携の趣旨説明をして事業案を募り、毎年複数事業（H30年は15事業、H29年度は16事業）を展開した。

また平成30・31年度は山梨県教育委員会から高等学校キャリア教育研究指定校の指定を受け、上記の研究結果を県内高等学校のキャリア教育充実を図るため、実践発表会等を通じ広く周知に努めている。

2 具体的事業活動について（H29～R1年度の主な取組事業のテーマ。単年度実施事業と2～3年間継続事業を

含む。)

- (1) 地域の産業振興の担い手となる人材の育成及び支援に関すること
①本校農場生産物の台湾輸出・販売実習 ②耕作放棄地の再生と活用の取組 ③J R東日本協同企画「やまなしフェア2019」④ドローンを活用した調査活動
- (2) 地域の特産品等を活用した商品開発に関すること
⑤笛吹市の特産果実を用いた商品開発 ⑥サンショウ（山椒）を笛吹市芦川町の地域特産品にする取組
- (3) 生徒及び教職員による地域研究や実習等の受け入れに関すること
⑦笛吹市の観光情報コンテンツの作成 ⑧芦川町スズラン自生地の保全と個体増殖の確立の取組
- (4) 両者が有する知的・人的資源の交流及び物的資源の相互活用に関すること
⑨笛吹市男女共同参画推進イベントへの参加 ⑩笛吹市内の小学生への技術指導・交流（サッカー・陸上）
⑪季節を楽しもう～クリスマスアレンジメントの作成配布～ ⑫俳句出前授業 ⑬TOKYO2020 機運醸成事業
笛吹高校運動部「ウェイトトレーニング教室」 ⑭小学校生活科担当教諭の農業研修会 ⑮「学校を花で飾ろうプロジェクト」市内小中学校への飾花活動 ⑯こどもたまり場プロジェクト「夏休みこども農園」 ⑰翠櫛太鼓部による市内イベント活動 ⑱笛吹市民まつり「ハロウィンカボチャ」プロジェクト ⑲高校球児による少年野球教室 ⑳小中学生との英語教育交流事業

3 事業推進のための研修会等

- 「笛吹市との包括連携を考える集会」（全校生徒対象）
- キャリア教育推進研修（職員対象）

【ホームページ】<http://www.fuefukih.kai.ed.jp/>

<山梨県>（種別：学校）山梨県立高等支援学校桃花台学園

推薦理由

1 取り組みの概要

桃花台学園は軽度知的障害のある高等部生徒に対する教育の充実を図り、社会的自立及び参加を促すため、県内唯一の高等部単独の特別支援学校として平成27年度に開校した。職業教育の充実を図るため専門学科の産業技術科を設置し、地域や企業と連携しながら、人としてあるべき姿を培うとともに、意欲的に社会参加する力の育成を目指している。平成30年度末卒業生の就労先は一般就労が9割を超えている。

2 具体的活動について

<産業技術科における3つのコースの取り組み>

産業技術に関する基礎的・基本的な知識と技能の習得を図り働く意欲や態度を身につけるとともに、状況に合わせて主体的に行動し、働き続けられる人材の育成を行っている。コースは「食品加工」「農業生産」「環境メンテナンス」の3つがあり、会社に見立てた組織の一員として、様々な業務に取り組むよう学習を展開している。1学年ではそれぞれの専門教科の基礎を横断的に学び、3学期にコース決定を行い、2・3学年は継続して各コースでの学習を積み上げている。また、1学年では「接客・オフィスアシスタント」、2・3学年では「ビジネス実務」の学習を行い、流通・サービスにかかわる学習を継続して行い、スキルアップを図っている。

<桃花ダイスキマーケット・地域の取り組み>

コースの生産物や製品を地域や保護者等に販売・サービス提供する「桃花ダイスキマーケット」を年8回実施している。うち11月は秋の大収穫祭として実施している。お客との関わりを通して、実践的な技能や態度を養うとともに、生産から販売・消費までの流通について学ぶ機会としている。

県内の農業現場での実習や地域の公民館、駅等の清掃活動、公園の植栽管理など地域の資源を生かした実習を行い、社会貢献できる人づくりを行っている。

<就労に向けての取り組み>

企業への就労を目指し、日々の学習や現場実習等を通じて生徒自らが進路を選択し「豊かな生活」が送れるように、生徒一人一人に応じた段階的かつ継続的な進路指導を行っている。就労に向けては、1学年の6月に複数の職場見学、10月に教師と一緒に様々な仕事を体験する2週間の職場体験実習、1月に1週間の現場実習を実施している。2学年では、6月と10月に各2週間の現場実習を実施している。3学年では6月と10月に2学年よりも1週間長い3週間の現場実習を実施し、就労に向けた指導支援を行っている。また企業や支援機関との

連携・協力体制を整え、卒業後の職業生活・社会生活へのスムーズな移行に努めている。

【ホームページ】 <http://www.toukadai.kai.ed.jp/>

<長野県> (種別：学校) 長野県長野養護学校

推薦理由

長野養護学校高等部朝陽教室は、「作業学習を中心とした働く力の育成と充実感の体験」「卒業後を見通した進路指導と支援および自立への準備」等をめざして、平成22年度に開設し、卒業後は、一般企業等への就労および社会自立を目指して、キャリア発達を促す特色ある教育に取り組んでいる。

1 地域と連携し、勤労に対する意欲や態度、社会性を育む作業学習

農耕活動（野菜作り）、園芸活動（花の栽培）の作業学習を行い、地域での販売活動とともに、近隣店舗での植え込み作業や定期管理を行っている。このような学習を通して勤労に対する意欲が向上し、場に応じた態度や自信が身につく、さらに職場でのコミュニケーション力等の社会性に関わる力も向上している。

2 福祉活動についての理解や人権の尊重を学ぶ福祉学習

高齢者施設での清掃や事務作業補助を行い、施設職員から勤労に対する意欲や技能を学ぶとともに、利用者と過ごすことを通じて相手を尊重したコミュニケーションの取り方や支援のあり方といった、支援者の基本的な姿勢について考え、「人権の尊重」についてより深く理解する機会となっている。

3 学年に応じて段階的に自らの進路について考えていく機会となる現場実習

1年次の前期（6月）には、校内実習で、意欲や態度、技能などの基本的な学習をし、自らのキャリアデザイン形成のきっかけ作りをしている。1年後期（11月）と2、3年生（前後期）は地元企業等での現場実習を行い、より具体的に生徒が自ら卒業後の進路選択について考える機会としている。企業等で働くことだけでなく、家庭生活や通勤等、社会人として生活していく様々な場面について自らの姿を振り返り、新たな目標を立てていく機会となっている。

4 就労に関わる技能修得の意欲を高める技能検定やアビリンピック

長野県特別支援学校技能検定やながのアビリンピックに参加し、就労に関わる技能修得に取り組む機会の一つとしている。ながのアビリンピックでは、平成30年度、フラワーアレンジメント部門で金・銅、喫茶サービス部門で金を受賞。令和元年度はフラワーアレンジ部門で金・銀・銅、喫茶サービス部門で金・銅、オフィスアシスタント部門で銀の各賞を受賞した。

<長野県> (種別：学校) 長野県北部高等学校

推薦理由

北部高等学校では、平成8年から「総合的な探究（学習）の時間」に「地域授業」という時間を設定し、地域と連携したキャリア教育を推進してきた。平成31年3月には飯綱町、令和元年5月に信濃町と包括連携協定を結ぶことで、生徒が直接的に地域課題の解決に取り組むことのできる環境を整備した。その上で、自治体と連携した地域創生の実現に向け、「地域に貢献する力の育成」をキャリア教育の中核に位置付けている。

1年次の「地域授業」では、地域の伝統・産業等の体験や実習に重点をおき、地域の方が講師となって、リンゴ栽培（摘花～収穫・加工・販売）、点字・手話・福祉・鍛冶屋・そば打ち・演劇・シールド生産等を実施している。授業を通し「生徒自身のあり方・生き方」を考える契機としながら、自己理解や自己有用感を向上させ、コミュニケーション能力を身に付けさせるとともに、体験内容を振り返る時間の中で、地域課題についても考えさせている。

2年次の「地域授業」では、1年次の学習を基に、地域課題の解決方法を考える学習へステップアップするために、「ボランティア」「自然」「郷土料理」「歴史（企業体験を含む）」「保育」「スポーツ」の6テーマに分かれ授業を行う。地域の理解を深めながら探究学習を行い、課題解決に向けた実践活動を行うことで、地域における自分の使命や役割を実感することで、キャリア発達を促している。

さらに、年度末に「地域授業発表会」を開催して、1・2年生ともに1年間の成果報告を発表することで発信力を向上させ、地域の講師や地元関係者を招待して評価していただくことで、探究学習を深めている。また、各

学年で報告書を作成しており、1年生は新聞形式の発表資料も作成することで表現力を高め、これらの成果物はポートフォリオ等として蓄積し、3年次の進路実現に活用する。

令和2年度入学生から教育課程を変更し、学校設定教科「地域貢献」（仮称）を新設することからも、地域を担う人材育成を「探究的な学び」と連動させ、キャリア教育を推進している優良学校として、顕著な功績が認められると判断し、推薦します。

<岐阜県>（種別：教育委員会）美濃市教育委員会

推薦理由

1 取組の概要

美濃市では、生徒一人一人が学校生活及び地域社会における自己の生き方を見つめ、将来に対する進路意識を高めるキャリア教育の推進に向け、「ふるさと美濃」での職場体験学習を行っている。美濃市教育委員会が中心となって、平成18年度に「美濃市キャリア教育推進協議会」を設置し、平成25年度からは職場体験の事業所の確保をキャリア教育推進協議会が中心となって行っている。職場体験の事業所の多くを美濃市内に設定することが、「ふるさと美濃」を見つめ直し、地域社会における自己の生き方を見つめる機会となっている。

2 取組の具体

(1) 地域で職場体験活動を推進する美濃市キャリア教育推進協議会の設置

- ・市内におけるキャリア教育の基本計画の作成
- ・職場体験学習の目的や趣旨の説明
- ・事業所の円滑な受け入れについてのシステム作り
- ・推進地域に対する指導や助言等

(2) 教育委員会を中心とした「ふるさと美濃」での職場体験学習の推進

- ・市の産業課や経済団体等の協力を得て、紹介された事業所を学校に提示
- ・受入れ事業所紹介票の配布、保険契約、事業所リストの作成、意識調査等
- ・協議会や各事業所からの意見を基にした体験内容の工夫・改善

(3) 職場体験後の協議会における報告会の実施

- ・生徒対象の意識調査に基づいた、学校としての成果と課題の明確化
- ・受け入れ事業所からの意見集約
- ・キャリア教育推進協議会での報告、今後の方針についての検討

3 取組の成果

職場体験を通して、仕事の喜びや楽しさ、厳しさを感じることができた。「仕事のやりがいや自己の成長の原動力である」、「地味な作業だが役に立っている」といった感想からも、働くことの様々な価値に気付いている様子が見えてくる。

また、各事業所からの生徒の評価がキャリア教育推進協議会に確実に届く。評価の内容には褒め言葉が多数ある中、今後の課題についても明記されている。働くことの価値に生徒が気付いたり、事業所から様々な評価を得られたりすることは、キャリア教育を進めるにあたってとても有意義である。

<岐阜県>（種別：学校）高山市立松倉中学校

推薦理由

1 取組の概要

松倉中学校では、1～3年生まで同じ事業所での継続的なかわりを通して、「働くことの意義や価値ある生き方」を学んでいくプログラムを計画した。地域の110事業所と連携し、生徒と地域の結びつきを深める「郷土教育」の柱として位置付けている。この活動を「まつくら寝屋子プログラム」と呼んで、「生き方（なりたい自分づくり）＝キャリア教育」と共に、故郷への思いや見方を深め、将来の高山を背負う人材の育成を図っている。

2 取組の具体

- ・1年次 春：高山研修・・・職業講話、班別事業所訪問、地域ボランティア

- 夏：寝屋親決め・・・3年間お世話になる事業所を決める
- 秋：職場見学・・・2年生が職業体験をしている様子の見学
- ・2年次 春の職業体験1～2日間、秋の職業体験2～3日間
- ・3年次 春：東京研修・・・大企業見学、中小企業訪問
- 秋：福祉施設訪問・・・合唱やダンスなどのパフォーマンスを披露
- ・全学年 夏：同じ事業所でお世話になっている生徒と一緒に訪問する
- 1年：職場見学の打ち合わせ、2年：職場体験の打ち合わせ
- 3年：東京研修の報告
- 冬：年賀状の送付、故郷についての地域課題を話し合う

各事業所の担当者が、自らの生き方や職業観を語ったり、生徒の悩みを聴いたりしながら、3年間で強い結びつきを構築する。

3 取組の成果

事業所では生徒の行動について評価をする。生徒はその評価から、成果や課題に目を向け、次の研修までに課題を解決しようと日常生活を高め、実社会で通用する力を身に付けようとしている。

1～3年生と一緒に事業所訪問する際、異学年の仲間とのつながりを作る機会も設けている。このような取組を通して、「人間関係形成能力」が育ってきている。

<岐阜県> (種別：学校) 高山市立宮中学校

推薦理由

1 取組の概要

宮中学校では、全学年で10年以上にわたって、高山市内、名古屋、東京など幅広い地域において、体験を重視したキャリア教育を進めている。また、厚生労働省主催の「マイスタープロジェクト」に3年間取り組んだ。全校生徒、保護者が共に対話を重視しながら職業体験を行うことで、家族を巻き込んでのキャリア教育を進めた。

2 取組の具体

1年生においては、市内の事業主の方からの講演会や職場見学を行い、「知る」の視点から職業観を養っている。

2年生においては、「体験する」を重視して職場体験を2日間実施した。1年生の経験を踏まえて、高山市内の企業において実施している。さらに、名古屋の企業での研修を行い、都市部の事業所での職業体験によって地域の事業所との違いを見付けるなどして、働くことの意義をさらに深めている。

3年生においては、「確かめる」をキーワードとして、修学旅行の際に企業や職人の技を学び、2年生よりさらに深い学びにつなげている。東京ならではの仕事や都市部で働くことの大変さやプロの生き方などを学んでいる。

3 取組の成果

2年生の職場体験においては、自分から事業所にアポイントメントをとるようにしたことで主体的な学びにつなげられた。また、仕事の喜びや苦しみなどを感じ、進路選択に役立てられた。

身近な地域から幅広い地域まで体験を重視したキャリア教育に取り組むことで、自分の地域のよさを再認識し、地域への愛着やあこがれをもつ生徒が多くなった。

家庭においてもキャリア教育についての関心が高まり、保護者と共に職業や進路について話題にする機会が多くなっている。

<岐阜県> (種別：学校) 岐阜県立土岐商業高等学校

推薦理由

1 取組の概要

当校は、めまぐるしく変化・進化する経済社会に対応できる人材として、ビジネスの諸活動に関する基礎的・基本的な知識や技術の習得に加え、特にマーケティングや会計に関する専門性や国際経済に関する知識を

身に付けさせることを学校目標としている。その目標を達成させるべく、キャリア教育の一環として、学年ごとに継続的な取り組みを実施している。

2 取組の具体

- 土岐商WEPの実施（ウェップ、職業体験実習を意味する「work experience placement」の略）（1年生全員が2月に実施）

平成12年度から継続して取り組んでいる。

【平成30年度の実施状況】

- (1) 研修生徒数 1年生全員（200人）
 - (2) 実施期間 平成31年2月5日(火)～2月7日(木)
 - (3) 研修先 80事業所（製造業、小売店、金融機関等）
 - (4) 事前指導 実習事業所の下調べ、事業所事前訪問
 - (5) 事後指導 自己評価、礼状の作成、クラス発表会
- 2年生進路ガイダンス（2年生全員に向けて10月に実施）
校内企業説明会、大学模擬授業、専門学校分野別説明会の3分野に分かれて実施。外部講師の活用
 - 労働条件セミナー（3年生全員が1月に受講）
労働関係法令の基礎知識を身に付けさせる
 - 卒業生と語る会（1、2年生全員に向けて6月に実施）
卒業後2年以上の卒業生（令和元年度は就職者6人、進学者5人で実施）を招き、質問形式で現状や心構えを語る。
 - 中長期インターンシップ（2年生希望者5人が参加）
本年度、「地域産業の担い手育成総合戦略事業」の指定を受け、その一環として、日常業務に携わる実践的な中長期インターンシップを8日間の日程で実施した。通常の2～3日程度の体験的な就業体験に留まらず、生徒のキャリア形成支援のさらなる取組みとして行った。
 - (1) 研修生徒数 2年生希望者（5人）
 - (2) 実施期間 令和元年7月1日(月)～5日(金)・7月16日(火)～7月18日(木)
 - (3) 研修先 光洋陶器株式会社（土岐市泉町久尻）
 - (4) 事後指導 アンケート、礼状の作成、報告会

3 取組の成果

系統的で計画的な指導により、生徒自身が在学中にやるべきことを認識し、充実した学校生活につながっている。生徒の感想に「世界中の様々な人と関わると、世界観も変わってくると感じた。」「生きていることや周りに感謝しながら前向きに歩こうと強く思った。」とあるように、社会との関わりに気づき、自己の希望する進路の実現につながっている。

<岐阜県>（種別：団体）岐阜県立岐阜高等学校PTA

推薦理由

1 取組の概要

当該校では平成8年度より、総合的な探究の時間を活用して、生徒の人生観や職業観の育成を図ることを目的として、PSセミナー(Parents-to-Students Seminar)の名称でPTA本部役員が選出した講師による講演会を継続実施している。

2 取組の具体

- ・1年次生を対象に総合的な学習(探究)の時間で実施
- ・講師依頼や計画、運営などは、PTA会長をはじめとするPTA役員と当該校渉外部の協働により実施
- ・岐阜県教育週間に併せて、地域の人や保護者の方にも開放

3 取組の成果

講師が高校生についてや働くことについて、常日頃思っておられることを語っていただくことで、生徒の進路選択決定の一助になっている。「『相手を理解しようとすることで見えないものも見えてくることがある』ことを意識して、もっと人間性を高めたい」「苦手なことにも逃げずに取り組むことや、『好きな事を大切にすること』

ことは成長する上で大事にしたい」という生徒の感想にもあるように人生観や職業観の醸成に大きく貢献している。

<静岡県> (種別：学校) 三島市立德倉小学校

推薦理由

推薦校では、学校教育目標「心豊かな子の育成」を目指し、キャリア教育の目標を「自分や友達のよさ・個性に気付き、自分の生活や周りの環境に関心をもつ」「仕事についてよく考え、将来の夢や希望を抱くとともに、その夢や目標に向かって努力する態度を育てる」として、全学年で系統的・発展的に取り組んでいる。また、キャリア教育を通して育成を目指す資質・能力を具体化・共有化し、総合的な学習の時間を中心として、学校の全教育活動を通してその育成を目指している。

平成30年度からは、特に、キャリア教育とプログラミング教育の横断的な実践の研究に取り組んでいる。

6年生は、キャリア教育の一環として毎年修学旅行でキザニアに行き、様々な職業体験を行っている。事前に、働く意義や役割、自分の将来について考える活動を行った上で、体験活動を位置付けてきた。昨年度からは、これらの取組に加え、「未来の仕事に役立つロボット」を考え、プログラミングする活動を行っている。

具体的には、修学旅行の職業体験の際に「どのようなことが改善されれば仕事が楽になりそうか」という視点を持って体験し、修学旅行後に未来の仕事に役立つロボットの開発(教育版レゴ マインドストーム EV3 を使用)に取り組んだ。授業は、市が委託している民間企業(株式会社Z会)のサポートや、地域ボランティアによるメンター(元教員や教職課程を履修する大学生中心)の協力を得て行い、最終的には完成したロボットの発表会を行った。

学習の成果として、「将来自分の就きたい職業をイメージできたこと」と「これからの職業の中で、ロボットが人間に代わって仕事を行っていくことについて学んだこと」の2点が挙げられる。

また、他学年においてもプログラミング教育を行うことで、キャリア教育の「人間関係形成・社会形成能力」と「課題対応力」の育成を図っている。そのため各教科等の学習の中で、「思考の可視化」や「少人数グループでの活動」、「試行錯誤が起きる課題設定」、「結果・成果の明確化や再現」を意図的に組み込んだ授業を展開している。低学年では、ICT機器を使用しなくても「順次処理」や「繰り返し」、「条件分岐」を意識した活動を行うことで論理的思考力を育てている。また、3年生から5年生では、地元企業の出前授業やサポート事業を活用し、プログラミング体験をしながら論理的思考力を身に付ける学習を行っている。

推薦校の取組は、キャリア教育を学校の全教育課程の中に系統的・発展的に位置付け、既存の学校行事等を効果的に活用しながら実践するとともに、「キャリア教育とプログラミング教育の横断的な実践」に重点を置いた単元開発を行っているという点で評価することができる。キャリア教育とプログラミング教育を関連付けることで、目的意識を明確にした活動を行うことができるだけでなく、将来の自分の職業を意識した活動を展開している。また、実践に当たっては、民間企業や地域ボランティアの活用など、外部機関との連携を積極的に行っている点も評価することができる。

以上の理由から、三島市立德倉小学校をキャリア教育優良学校として推薦する。

<静岡県> (種別：学校) 菊川市立菊川西中学校

推薦理由

推薦校では、学校教育目標を「自ら高め 礼儀正しく たくましく」とし、「たくましく」においては『挨拶』『清掃』『礼儀・マナー』を徹底し、社会に役立ち、自己の目標に向かって粘り強く取り組むことができる強い意志をもつ生徒の育成」を目指している。また、この学校教育目標に基づき、「地域に誇れる学校、地域が誇れる学校」づくりを目指している。

これらの目標を達成するための教育活動として、推薦校では、「ふるさと菊川の持続可能な街づくりとからめて、自分の生き方・働き方を考える。」「子どもたちがふるさと菊川に魅力を感じ、ふるさと菊川を持続可能な街にするために、大学等で学んだのちに、地元菊川で活躍できる人材となり得るよう育成する。(ふるさと志向力の育成)」という二つの目的を設定し、総合的な学習の時間を活用して系統的・発展的に学校全体でキャリア教育(推薦校では「キャリア郷育」と呼んでいる)を推進している。

各学年の具体的な取組の概要は、次のとおりである。

【1年生】

- ① 菊川市探訪…パーマカルチャー(永続可能な農業をもとに永続可能な文化を築いていくためのデザイン手法)の視点で4月に市内を探訪し、テーマ学習に向けて課題を見つける。
- ② はたらく喜び講座…菊川市内外から招いた講師による講演会や講座を生徒が受講し、働くことの楽しさや意義を学ぶ。

【2年生】

- ① 職場体験…市内の企業を中心に職場体験を行い、ふるさと菊川の魅力を感じるとともに、自分の生き方・働き方を考える。
- ② パーマカルチャーの視点で考える菊川西中学校…実際に調査をして中学校区の課題をとらえ、解決策を考え、発表会を行う。
- ③ ふるさと未来塾…市教育委員会社会教育課が主体となって、ふるさと志向力の向上のために、市内の企業や官公署の方を講師として派遣する。

【3年生】

- ① 「菊川市への提言」…菊川市の未来を考え具体的な街づくりについて校外で観察や調査活動を行い、市役所などに出向いてICTを活用して提案する。
- ② 自己実現へ向けて(進路選択)キャリア形成

以上の教育活動を行った結果、生徒がふるさと菊川の魅力を再確認したり、地域が抱える問題に向き合い解決策を考えたりするなど、主体的に地域に参画しようとする力が育っている。また、これらの活動を行う中で、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成が図られている。

キャリア教育の視点から、育成を目指す生徒の姿を明確にし、地域の人や物を活用しながら、学校全体で系統的・発展的な教育活動を展開している点が評価に値すると考える。

以上の理由から菊川市立菊川西中学校をキャリア教育優良学校として推薦する。

<静岡県> (種別：学校) 静岡県立伊東高等学校城ヶ崎分校

推薦理由

静岡県立伊東高等学校城ヶ崎分校は、分校となる以前から一貫して、校訓に「不撓不屈」を掲げ、自立と共生の心を育成することを教育目標とした、1学年定員40人の全日制普通科の高等学校である。

同校では、平成14年に全国で初めて特別支援学校高等部を併置し、以来「共生・共育」に積極的に取り組み、また、タブレット等のデジタル機器を積極的に活用した作品制作を行うアートコースの設置や個を大切に温かみのある少人数教育等を特色としている。

こうした教育活動に加えて、卒業後も地域社会を担う人材として必要な、たくましく自立できる力を育むため、卒業生、地元行政、地元企業、大学等との連携により、系統的なキャリア教育を展開している。キャリア教育については、「基盤となる能力や心の成長を図ること」「職場と関わる場面を設定し働くスキルや意欲を高めること」「地域貢献を通して自己有用感を育てること」の三つの柱を設定しており、生徒は、これらの目的に沿った活動を通して、自己肯定感を高め、大きく成長するため、学校の取組は保護者や地元中学校、地域社会から大きな信頼を得ている。

【具体的な取組】

1 基盤となる能力や心の成長を図る活動【ソーシャルスキル・トレーニング講座】

平成27年度から静岡大学の小林朋子教授の協力を得て、1・2年生を対象に年間4回実施している。生徒の実態に合わせたターゲットスキルの決定と指導案の作成を行い、モデリングやロールプレイを通してソーシャルスキルの向上を図っている。平成30年度よりレジリエンス育成にも取り組み、同教授が「ジャパンレジリエンスアワード2019」にて準グランプリ・教育部門金賞を受賞した教育実践も行っている。

【行政、病院等と連携した心の教育プログラム】

1年次には保育実習事前研修講演会を実施し、乳幼児期における愛着の大切さについて学ぶ。2年次には伊東市民病院助産師による思春期講座を行い、男女の性差や異性との適切な関わり方を考える。3年次には伊東市子育て支援課と連携して親性準備教育を実施し、乳幼児と触れ合う体験から家族の在り方や子育てについて学んで

いる。

2 働くスキルや意欲を高める活動【行政や地元企業、卒業生と連携した進路プログラム】

1年次は、社会人インタビューを含めた職業調べ及び報告会を実施し、働くことや働き方について考え、2年次は、夏季休業中の3日間程度全員が市役所、病院、地元企業等の協力を得て、インターンシップを行っている。事前指導及び事後指導を通して、目的と意図を明確にさせることで、実社会に即したキャリア形成につながっている。また、大学・専門学校・企業による進路説明会とともに、卒業生による進路講演会を全校生徒対象に実施している。

3 地域貢献活動【美術部の取組】

「まんが甲子園」において三回優勝するなど、全国レベルでの活躍や入賞歴は、地域に広く知られており、伊東市や伊東自然歴史案内人会等からの様々な制作依頼に応えることで、アートによる地域貢献を行っている。伊東市からは、市制70周年ロゴマーク、伊東かるたの原画、オリ・パラのぼり旗デザイン等多くの依頼を受け制作を行った。中でも、全国高校デザイン選手権準優勝を果たした「まくら投げのすすめ」のアイディアは、枕投げの競技化により伊東市の活性化を目指すというもので、実際に伊東市により大会化され、観光の核となっている。また、空き店舗や鉄道ガード下へのペイント等地域の要請を受け、高校生のアートの力で地域の課題を解決するという新たな取組も始めている。

注目すべきは、作品を制作するうえで、テーマや課題の背景を調査し、自分の生き方や将来と関連づけている点であり、アートを通したキャリア教育といえる。

これら一連の取組は、生徒を理解し、個々の成長を促す教育活動であるとともに、地域・社会と連携したキャリア教育であり、表彰に値する。

<愛知県> (種別：教育委員会) 小牧市教育委員会

推薦理由

小牧市教育委員会は、子供たちに、現在の自分自身を見つめ、自己の将来や就きたい職業、生き方を考えさせることで、社会的・職業的自立の基盤となる能力や態度を育成することが重要であると考え、愛知県のキャリア教育事業に参加し、キャリア教育を推進している。

○ 中学校でのキャリア教育

2年生の職業体験を中心に、1年生のガイダンス事業、3年生のプレゼンテーション事業など、全学年で継続的・系統的にキャリア教育を進めている。これらのことから、生徒たちは働くことの大変さややりがい、喜びを感じ、将来の進路について考えることができている。また、規則正しい生活や健康管理の大切さも意識し、現在の自分の生活に生かそうと努めている。

○ 小学校でのキャリア教育

高学年を中心に、農業体験や物作り体験、各分野の達人を招いた職業講話などを行っている。成長が著しい時期に、社会的自立・職業的自立に向けて、その地盤を形成することにつながっている。

○ 地域と連携したキャリア教育の実施

平成30年度愛知県キャリアコミュニティプロジェクトの研究委嘱を受け、「地域から学び、将来の夢や希望の実現につなげる生徒の育成」をテーマにしたキャリア教育を、3中学校を対象に実施した。地域の人材を積極的に活用し実施したため、生徒たちには、地域の人々への関心や信頼感を高め、それぞれが責任を果たしながら社会を築いていることに気付かせることができた。また『オール1の落ちこぼれ、教師になる』と題した宮本延春先生の講演会を実施し、生徒の「自分の能力を社会のために役立てていきたい」という思いを高めさせることができた。

○ 「小牧市キャリアパスポート」の作成・活用

今年度「小牧市キャリアパスポート」を作成した。これを各校の実情に合わせて編集し、来年度から一人に1冊配布して活用する。学年や行事ごとに子供たちは目標を立てて行動し、自己の成長を振りかえることになる。これを継続的に行うことで、小中学校9年間を見通したキャリア教育に努めていく。

<愛知県> (種別：学校) 知立市立八ツ田小学校

推薦理由

1 テーマ

自ら考え、自ら取り組み最後までやり抜く子—地域と共に育つキャリア教育—

2 体験活動

(1) いのちの教育

4年生が、7・9・11月の3回、NPO法人ママの働き方応援隊の方々に「赤ちゃん先生」として、赤ちゃんをあやしたり、幼児と遊んだりする体験を行った。さらに、お母さん方から出産や子育ての体験談を聞き、命の大切さを考える機会となった。また、9月に「オギャー体験」として、保健センター職員や助産師さんから命の誕生の仕組みを写真やイラストで説明していただき、生命の不思議さについて学んだ。その後、実物大の赤ちゃん人形を使って、赤ちゃんの抱き方指導を受けたり、重さを体感したりした。これらの活動を通して、「2分の1成人式」で、保護者に児童一人一人から感謝の気持ちや自ら成長したことなどを伝えたり、はがき新聞にまとめ下学年の教室に掲示したりした。

(2) 学区防災訓練

5・6年生が、10月に地域の方々と共に1日ばかりで様々な防災活動を行った。地域の方々には炊き出しを、市の職員の方々には給水車による給水、濃煙テント体験、防災倉庫開放などを行っていただき、子供たちは普段できない体験を行うことができた。訓練の最後に、学校と地域、大人と子供、それぞれの立場から意見や感想が出され、防災意識を高めるとともに地域との交流の場となった。

3 成果と課題

赤ちゃん先生を終えて、「お母さんが産んでくれたから、ぼくたちがいる。自分の命を大切にしたい」などと感想に書いた児童が何名かいた。4年生では家庭で赤ちゃんとおふれあう機会が少ないので、小さな命を大切に扱うことで「いのち」について目を向けさせ、自分だけでなく、みんなの命も大切にしたいという気持ちを高めることができた。

学区防災訓練を終えて、「ハンドケアをしながら地域の方といろいろ話した。ハンドケア後のゲームでは、地域の方との距離が縮まったと感じた」「6年生として5年生に分からないことや次にどうすればいいのかわかるだけ教えてあげたり、助けてあげたりすることを意識した。災害が起きた時、先生がいないかもしれないし、パニックになってしまう時もあるので、6年生がしっかりしないといけないと思った」などと、自分の立場や役割について自覚し、自ら行動する大切さに気付いた児童が多かった。

最後に、「いのちの教育」や「学区総合防災訓練」では、地域の方とともに活動することによって、児童たちの心の中に自ら考え行動する大切さが生まれてきている。このような意義ある活動を来年度以降もぜひ継続して取り組んでいきたい。

<愛知県> (種別：学校) 南知多町立日間賀中学校

推薦理由

1 日間賀サミットの開催

○ 生徒が住む島の現状と将来像を考えて、地域との関わりの中で自らの将来を主体的に選択することができるように、平成28年度より日間賀サミットを開催している。

○ 参加者は中学生・小学生・漁協・観光協会等の島内機関の関係者からなる。島の子どもと大人が一同に会して「今後の島のこと、島をよくすること」について話し合いを行う。大人や子ども関係なく、島をよくするためにできることは何かを話し合い、島民全体で実現させていこうとしている。

2 修学旅行における大学生との交流と日間賀島のPR活動

○ 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部の協力で、大学生との交流活動を行っている。当該学部は旅行業界への就職を目指した学部であり学生による浅草寺の案内を体験した。人に分かりやすく伝えることや聞き手を引き付ける話し方などを学ぶことができた。

○ 東京駅の高速バス乗り場で、日間賀島のPR活動を行った。日間賀島観光協会の協力も仰ぎ、バス乗り場の待合室で生徒の自作のPR資料をもとに、日間賀島のよさを多くの人に伝えることができた。また、外国人の訪

日旅行者にもPRすることができた。

3 漁業体験活動

○ 島の周りの海からどんな魚が獲れるのか、魚を獲るためにはどのような苦労があるのか、漠然とした職業観から、自立的な社会観と職業観を身に付け、郷土を愛する気持ちも育む目的で取り組んでいる。

○ 漁協と観光協会、PTAの協力と連携のもと、釣り船からの漁やたこ漁、潜水漁などを体験している。保護者が漁師という家庭もあるが、実際に漁を体験したことがない生徒がほとんどである。また、職業経験だけでなく、島の産業を支える場面を実際に体験できる活動である。

<愛知県> (種別：団体) 岡崎市立六ツ美中部小学校 父母教師会

推薦理由

六ツ美中部小学校では「おやゼミ」と題する行事がPTA主催で行われている。キャリア教育の一環として、毎年地域の方や保護者を講師に招いて、子供たちに将来の夢や希望をもたせることを目的に、15前後の講座を設けているものである。

講座は、仕事に関わるもの、趣味(ライフワーク)に関わるもの等に大きく分けられ、1年生から6年生までの子供たちが、自分がやってみたい講座を選び、毎年楽しみに受講をしている。

講師は、9月頃から地域の回覧版を使用して募集をかけた後、保護者による声掛けをしたりして広く募集をしている。

当日は、PTAの役員や委員も講師のサポートをするなどして、積極的に会や講座の運営に携わっている。授業参観日を利用しているので、多くの保護者が、日常生活や学校生活では見られない子供たちの姿をみることができ、好評である。

<三重県> (種別：学校) 四日市市立下野小学校

推薦理由

当該校は、田園の広がる農村的な地域と、古くからの団地や新興団地のある地域が融合した、四日市市の北西部に位置している。地域からは「地域の学校」として受け入れられ、多くの協力に支えられている。学校教育目標として「今を考え、未来をえがく子どもの育成」を掲げ、自己を見つめ、自尊感情や自己有用感を培い、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方や夢を描き実現しようとする子どもの育成を目指している。

1. 日常の教育活動におけるキャリア教育

研修主題を、学び合いを基盤とした「主体的に問題を解決しようとする力の育成をめざして」とし、子どもたちの確かな学力と自己有用感の育成に取り組んでいる。取組では、グループやペアでの活動を効果的に活用し、子どもたちが自然に周りのなかまに関わり、主体的に問題を解決しようとする力を身に付けることができるようにしている。特に、自ら課題を発見(課題対応能力)し、その解決に向けて主体的・協働的に探究できる力(自己理解・自己管理能力)を育むために、「一四日市モデル問題解決能力向上のための5つのプロセス」を活用した授業づくりを進めている。教室には、子どもたちがこのプロセスを意識して学習に取り組めるように「学びの5だんかい」を作成して掲示するなどの工夫をしている。

どの取組も、各学年における「めざす子どもの姿」と「具体的な手立て」を共有し、高学年での最終的な姿を意識し、子どもたちの力と照らし合わせながら進めている。

2. 「地域学習」を中心に据えた系統的なキャリア教育

子どもたちの「将来を生きる力」を育むために、学校づくりビジョンを学校・保護者・地域で共有し、地域の教育力を活用した「開かれた学校」を推進している。特に「地域人材の活用」に力を入れ、地域で活躍している人を講師として招いた取組や地域の特長を活かした体験活動を通して、専門的な知識や技能だけでなく、地場産業への理解を深めるとともに、様々な職業や生き方があることを学ぶ力(キャリアプランニング能力)の育成を進めている。取組の中で、子どもたちに「学びの5だんかい」を意識させることで、学んだ内容から地域の課題を見つけ解決する力をつけさせていきたいと考えている。

低学年では、地域を身近に感じるために、地域のNPO団体や老人会の方と遊びを通じた触れ合い活動や、地域の施設を訪問し、仕事について話を聞く活動などを行っている。この活動が、地域の特長への気づきと、今後上

学年で行う学習へのきっかけとなっている。

中学年では、地域資料館の見学や、自治会長を講師とした昔のくらしや道具の使い方の学習、育てた大豆から昔の石臼を使ってきな粉をつくる体験などを行っている。さらに、地域のNPO団体の方を講師に招き、地域で作られている竹炭を使った工作体験を通して、地球温暖化防止対策について考える環境学習につなげている。

高学年では、キャリアアドバイザーとJAの職員の方とともに、「セコイア米づくり」を通して「農業」という仕事を学習し、収穫した「セコイア米」の販売を地区の文化祭で行っている。この活動を通して、自分の生活や身近な職業について考えさせている。また、地域の介護施設や椎茸栽培農家の方を講師として講演をしていただき、自分の将来の仕事について視野を広げ、「働くこと」の意義についての理解を深めている。

各学年での取組のまとめとして、「下野子どもまつり」で地域の方から学んだことや体験したことを、ポスターセッションや紙芝居、新聞、体験ブースなどを使って発表している。保護者や地域の方の前で発表することで、基礎的・汎用的能力の育成を目指している。

3. これからの取組

今年度からは地場産業の一つである「下野の梨づくり」について、学校園を使った全校での取組を行っている。キャリアアドバイザーと梨農園の方の協力の下、土壌づくりや苗木定植、梨農園から聞き取った内容の交流など、収穫までの流れを学年の段階に合わせて役割を分担し、当該校独自の活動として位置付けていこうとしている。この活動を軸とした総合的な学習の時間の見直しを図り、「学びの5だんかみ」を意識することで、より効果的な教育活動を目指すとともに、将来に生きるキャリア教育につなげていこうとしている。

<三重県> (種別：学校) 紀北町立赤羽中学校

推薦理由

当該校は、紀北町の北西、山間部に位置している。昭和の終わり頃から生徒数が激減し始め、平成27年度には全校生徒が20人を下回った。平成29年度に隣接の赤羽小学校との合同学校運営協議会が設置されたことを機に、小中学校9年間を見通して、子どもたちがこれからの未来をたくましく生き抜く力をつけられるよう、赤羽小学校と共に、特色ある学校づくりに取り組んでいる。

(1) 小中連携による取組

赤羽小中合同学校運営協議会を軸として、小中学校共通の学校教育目標を設定し、「9年間を見通した子どもたちの学びと育ち」について研究・実践をしている。その中で、小中学校の授業交流として、当該校の教職員が、小学校に出向き、年間を通して授業を行っている。特に英語については、グローバルな視点を持った地域人材の育成や生徒の可能性を広げることを目的に、9年間の系統性を持った独自のカリキュラムを共同作成し、学期に1回中学3年生が小学校の高学年の外国語活動に参加したり、小学生に英語劇を披露したりしている。中学生の活動の様子は、小学生にとってキャリアモデルとなるなど、小中連携による取組が地域の子どものキャリア形成につながっている。

(2) ふるさととつながる組織的・系統的なキャリア教育

① 地域における組織的なキャリア教育の取組

地域と小中学校が合同で取り組む行事では、地域の方とキャリア教育目標などを共有し、地域全体で子どもたちの成長を見守っていただいている。毎年5月初旬には、地元の漁業協同組合の協力のもと、赤羽川への稚鮎の放流や、赤羽川の水質調査を行っている。この取組は、郷土を流れる川を題材に、地域の環境問題について考えさせる機会となっている。また、和太鼓と篠笛の演奏に全校体制で取り組み、毎年、地元の祭などで披露している。40年前に伝承が途絶えた校区の「中桐神楽」を地域の方の協力のもと復興させる取組を通して、生徒は他者との協働の意義を学ぶとともに、ふるさとを誇る意識を高め、自身の将来と地域の未来を関連づけて考える機会としている。この取組では、上級生が下級生に篠笛や太鼓の技術を教えることで、自尊感情や他者への貢献意欲の醸成にもつながっている。

② 系統的なキャリア教育の取組

1年生では、ふるさとに誇りと希望が持てる生徒を育てることをねらいとして「地域の身近な職業調べ」や「上級学校調べ」を行っている。調べたことを保護者に発信することで、表現する力の育成にもつながっている。2年生では、地元事業所への「職場体験学習」を20年以上前から途切れることなく行っている。この取組を通して、地域の方とともに仕事をする中で、自分の「生き方」について考え学ぶ機会となっている。3

年生では、さらに具体的に「上級学校調べ」を行っている。過疎地域の中学生にとって、卒業後の進路として、地元の学校、自宅から通学可能な地域の学校、寮や下宿に入らなければ通えない学校のいずれかの選択を迫られることになる。卒業生（高校生）から進路講話を聞く取組も含め、3年間のキャリア教育でつけた力を活かし、自分の将来と真剣に向き合う姿がみられている。

(3) 行政と連携した取組

① 「地域おこし協力隊」による地域学習

昨年度、役場企画課の「地域おこし協力隊」による地域学習を行った。都会からの移住者で構成する「地域おこし協力隊」の視点を通して、地域と都会の各々の特色・魅力・違いについて話し合った。地域に目を向け、地域の魅力を見直し、将来の地域や仕事について前向きに考える機会となった。

② 「夢先生(ユメセン)」による『夢の教室』

紀北町の中学校では、紀北町教育委員会の紹介で「夢先生(ユメセン)」(有名スポーツ選手)による『夢の教室』を開催している。この取組は日本サッカー協会(JFA)が設立した「こころのプロジェクト」の一環で、プロのアスリートたちが児童・生徒と夢について語り合う「夢トーク」を行っている。生徒は、最後に「夢シート」を記入し、それに対する「夢先生」からの生徒一人ひとりへのメッセージが、夢に向かって努力する励みになっている。

③ 水産スクールへの参加(1年生)

令和元年度から、役場農林水産課による「水産スクール」に1年生が参加し、地元基幹産業である漁業にも関心を持たせるようにしている。1日目(8月6日)は紀伊長島市場にて夏牡蠣の洗浄体験、2日目(10月中)は牡蠣の稚貝の観察を行う。洗浄体験をした1年生は、紀北町が漁業の町であることを改めて認識し、漁業に興味、関心を寄せていた。

これらの行政との取組の中で、子どもたちが地域の発展に向け、自分に何ができるか考え実行していくことにつなげていきたい。

<三重県> (種別：学校) 三重県立久居農林高等学校

推薦理由

当校は、農業学科(生物生産科、生物資源科、環境情報科、環境土木科)と家庭学科(生活デザイン科)1学年240名が在籍する、110年をこえる歴史と伝統のある地域に根ざした専門高校である。生徒が将来の生き方を考え、その実現に必要な資質や能力を身につけることができるよう、あらゆる教育活動をキャリア教育の視点でとらえ直し、就職・進学だけでなく、その先の職業生活や社会生活を見通した組織的・系統的な取組をすすめている。

(1) 地域を担う人材育成

生徒の進路希望や興味関心に応じて専門的な指導をきめ細やかに行うため、240人の生徒を9つのコース(食品、植物、動物、環境保全、ガーデニング、土木・機械、食生活、衣生活、リビングコース)に編成し、少人数教育を実践している。各クラスでは、体験・課題解決学習を通して、自らの生きる力の育成や社会に役立つさまざまな資格取得を目指している。また、少人数教育により高まった「農業」「家庭」の専門性を生かし、クッキーやジャム、マーマレード、金柑シロップなど農産物を加工して地域のイベントで販売するなど、将来、地場産業の支えとなるスペシャリストの育成に取り組んでいる。

(2) 「わくわく農林塾」を通じた基礎的・汎用的能力の育成

管理職のリーダーシップの元、平成22年度から地域交流の一環として、全てのコースで、地域の保育所・幼稚園・小学校・中学校等との交流「わくわく農林塾」に取り組んでいる。「わくわく農林塾」では、「人に伝えることにより、自分の学んだことの理解を深めること」と「子どもと接することで、他者への配慮やコミュニケーション能力を育むこと」をねらいとして、各コースで生徒が学んだ専門知識や技術を生かして先生役となり、地域の園児・児童・生徒や一般住民にその内容を教える活動を実践している。生徒は、児童等に日ごろ学んでいることの魅力に気づいてもらいたいとの思いから自分たちが何をすればよいのかを真剣に考えて取り組んでいる。この活動については、「事後アンケート」等を活用し、各コースで生徒の変容や身についた力の検証を行っている。また、活動の様子がマスコミに頻繁に取り上げられており、当該校の教育活動に対して地域の理解が広がりつつある。生徒は自分たちの活動が評価されたことで自信を持ち、さらなる学習意欲の向上につながっている。この

取組を通して高校生と地域の子どもの結びつきが強固になっており、小学生の時に高校生の指導を受けた児童が、当該校での学びに魅力を感じて当該校に入学して児童を指導する立場になるなど、交流した児童のキャリア教育にもつながっている。

(3) 「インターンシップ」の取組

当該校では、地域の商工会議所と連携し、「インターンシップ」を農業・家庭全学科で実施している。特に家庭学科（生活デザイン科）で、2年次生徒約80名全員が実習を行っている。生徒は卒業後の進路を意識し、地域の病院や介護施設で管理栄養士や介護職など将来進む可能性のある仕事や職業に関連する活動を試行的に体験している。また、農業学科では、日ごろの学習で身につけた知識や技術を活かすことのできる職場で実習を行い、チェーンソーや高性能機械の操作方法などの技術指導をしていただいている。体験を通して、関連産業への興味・関心がさらに高まり、地元の数少ない林業関係の仕事に就職した生徒もいる。

「インターンシップ」の事前指導や事後指導に、進路指導部やホームルーム、学科・コースの教職員が連携し、きめ細やかな指導を行うことで、学校全体が一体となった組織的な進路指導にもつながっている。

これらの取組により、就職においては就職内定100%を継続して達成しており、進学においては国公立大学の農業系の学部合格する等の成果があがっている。

今後も、すべての教育活動をキャリア教育の視点で整理し、1年次から組織的・系統的なキャリア教育の推進をすすめていき、3年間で職業観や勤労観を確立させ、生きる力を身につけさせたいと考え、取組をさらに継続していく予定である。

<滋賀県>（種別：教育委員会）愛荘町教育委員会

推薦理由

1 “AISHO「志シート」未来へのかけはし”を活用してのキャリア教育

愛荘町は、「志をもち、共に未来を拓く人づくり」をテーマに、高い志に裏打ちされた確かな夢の育成を目指して様々な取組を行っている。その具体的な実践のひとつに、平成27年に“AISHO「志シート」未来へのかけはし”を作成し、町内の全ての小中学校で活用し、蓄積したシートを小学校から中学校へ受け継いで、連携したキャリア教育を行っている。

児童生徒は、この「志シート」を用いて、学年のはじめに「将来の夢」や「志」「目標」を設定し、その理由と共に、目指すための具体的な努力事項を記録している。年度末には、1年間を通しての振り返りや、みんなの役に立った活動や学習をまとめて蓄積している。シートには、担任からや保護者からの記入欄もあり、児童生徒を励ますようなメッセージを書き込み、学校や家庭で大人からの対話的な関わりを行えるようにしている。

令和2年度から全ての都道府県で実施されるキャリアパスポートについて、県教育委員会が、県内の統一様式や実施方法について検討する際、先行して実施を継続してきた“AISHO「志シート」未来へのかけはし”を参考資料として、また、活用法や児童生徒の様子についての情報を活用することができた。

2 ようこそ先輩授業の開催

高い志に裏打ちされた確かな夢の育成を目指す取組のひとつとして、地域の卒業生を学校に招いて「ようこそ先輩授業」を開催している。町内の小学校において、プロとして活躍している地元出身の演歌歌手による歌の披露や、音楽家によるビオラ・チェロの演奏などをおこない、子どもたちが本物と出会える機会としている。子どもたちは、目の前におられる先輩の輝く姿に引き込まれ、集中して本物を鑑賞することができ、生き方のモデルとして深く心に刻むことができる。講師の方からの「初めは全然できなかったけれど、我慢して繰り返してできるようになった」という話を聞いた6年生児童は、「やっぱり努力は必要なんだ。」などと感想に書いている。このような機会の積み重ねで、多様な大人のモデルとの出会いを重ね、子どもたちが自分の人生を切り拓く際の道標としていけると思われる。

3 夢と志を育てる職場体験

町内全ての中学2年生が5日間の職場体験を行い、地域の職場で働くことの喜びや苦勞、工夫や努力を体験し、働くことの大切さを理解するとともに自分の生き方の糧とする学習を行っている。また、職場体験と関連付けて、働く人から学ぶ「ものづくり講座」において、瓦、たたみ、宮大工、服製造、建築板金、和菓子、造園等の職人からものづくりの体験を通して学んだり、地域の小売店店長や新聞社の支局長を招いてマナー講座や職業講話を聞いて学んだりする機会を持って学習を積み重ねている。職場体験の前には事前に依頼したり、打合せのため

に訪問したり、礼状を書いたりすることで、社会のルールやマナー、礼儀作法なども学んでいる。生徒は地域の人たちとの出会いや交流を深める中で、将来の夢や希望について考える機会とし、そのために今何をすべきなのかを考え進路選択に具える学習としている。

4 地域人材による指導

地域の方を招いて、様々な立場の方からお話を聞く機会を多く持っている。町立図書館司書による読み聞かせや、栄養教諭からの食育の授業、校舎改築工事に携わる方からの工事への思いなどを聞く学習を行った。子どもたちは大変新鮮な眼差しでしっかり話を聞き、発言する場面では活発に発言しながら学習に取り組んだ。子どもたちは様々な人に出会い、働く人の思いに触れる中で仕事を見つめて、自分の生き方を考えるキャリア教育の学びを重ねることができた。

<滋賀県> (種別：学校) 東近江市立船岡中学校

推薦理由

生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成するため、5日間の中学生チャレンジウィークをキャリア教育の中心に据えて取り組んでいる。外部講師を招いての講話など、計画的な事前学習や事後学習を実施し、体験を充実させるとともに学習を積み重ねることで生徒のキャリア形成につなげている。

1 「マナー講座」の実施

おうみ未来塾「仕事人と語ろう！」グループ事務局の方からの紹介で、現代マナー講師の方を招いて、お話を聞いた。

「なぜ働くのか?」「働くということはどういうことか?」「働くまでに身につけておかなければならないマナーは?」を意識した上で、『挨拶の仕方』や『敬語の使い方』、『返事の仕方』などを、さまざまなエピソードを交えたお話の中から学ぶことができた。

また、自分たちが実際に、受け入れ先の事業所にアポイントメントを取る際に気をつけなければならないことを知り、しっかり踏まえて活動できるように丁寧に教えていただいた。

2 「職業講話」の実施

綾羽高等学校の教頭先生を講師に招いて、高校で行われているインターンシップについての講話を聞いた。先生の勤務地である高校では、インターンシップにより、生徒たちが勉強と仕事の両立を経験している。学校生活と働くことを通して、人間力を高め、生きる力と社会人としての心構えを身に付け、将来自分が活躍するための素地を培っている高校生の前向きな姿や様子を伺うことができた。また、生徒が成長していく過程を見てこられた先生だからこそ分かる、生徒が経験したことを踏まえた、広い視野からの講話を聞き、働くことへの意識を高める機会となった。

3 「職場体験がんばろう集会」の実施

前日集会として「職場体験がんばろう集会」を実施した。これまで重ねてきた学習を踏まえて、職場体験の本番を学年全員で充実させ、成功につなげようと互いの意識を高めた。全体集会の後、事業所ごとに詳細の確認も行うことができた。

4 職場での5日間の体験活動

市内外の事業所で、全ての2年生の生徒が職場体験を行った。地域の方が実際に働いている姿を見ることや、自分自身が5日間の体験をやり遂げることで、働くことの意義を知り職業観を高めて、その後の学校生活や人生設計に役立てることができた。

5 礼状の作成

お世話になった事業所の方へお礼の手紙を書くことで、社会的なマナーを学び、感謝の気持ちを整理して文章で表すことができた。

6 職場体験新聞作り

5日間の体験を新聞にまとめることで改めて体験を振り返り、体験した職業の意義や事業所の方の思い、体験により気づいたことや学んだことを整理する。自分自身の学びを総括すると同時に、体験していない同級生や下級生に伝える内容とする。自分の活動をじっくりと振り返りながら、もう一度働くことについて考える機会となった。

7 職場体験学年発表会

保護者も参観する中で、全てのグループによる発表会を実施した。生徒たちは、自分が体験していない事業所での体験内容も聞くことができ、様々な業種の職業について働くことを学ぶ機会となった。他のグループの発表を聞きながら、相互評価を行った。

8 文化祭での発表会

代表グループによる、文化祭での発表を行った。職場体験で学んだことを全校生徒で共有した。

9 校外学習での体験学習プログラム

海遊館での体験学習プログラム「アカデミープラス」に参加し、飼育係の視点で、働く上で必要になる企画力、判断力、調整力などの5つの能力について学習した。また、水族館のバックヤードツアーを通して、普段は見ることができない設備や施設管理について説明を受けながら見学して学習した。

<滋賀県> (種別：学校) 滋賀県立石部高等学校

推薦理由

「未来に向かって飛躍するたくましい人間の育成」を教育理念として掲げ、心身ともにバランスのとれた「21世紀の担い手」の育成に力を注ぐ学校で、「自ら考え、判断し、行動する力を育む」「人を想い、自己の在り方を考え続ける心を育む」「確かな倫理観と社会性を身につける態度を育む」を教育目標としている。

福祉健康コースがあり、将来、介護福祉士、保育士、栄養士、理学療法士、社会福祉士、看護師、調理師、作業療法士等資格を取り各分野で活躍する人材を育成している。

平成26年から平成28年まで県指定の「キャリア形成支援事業」、平成29年度から令和元年度までは県指定の「次代を担う生徒のキャリア教育推進事業」で就業体験をはじめとするキャリア教育に取り組んでいる。進路先見学、外部講師による指導、講演会の実施を取り入れ、「学びの保障」「育ちの保障」「進路の保障」を3つの柱としてカリキュラムを整理してキャリア教育の推進に取り組んでいる。

1 1年生では全員が保育園、介護施設等の各施設に分かれて体験活動を行っており、すべての生徒に就業体験を実施している。

2 「ビジネススタディ in 石部高校」では地元企業の方を招いてワークショップを行い、生徒は将来の進路選択について考えたり、地元企業等の魅力を知る機会となっている。

3 福祉健康コースの生徒は介護、健康スポーツ、保育の分野に分かれたのち介護福祉士、医師、理学療法士、保育関係、歯科衛生士、障がい者スポーツ講師等の講演やワークショップや介護施設、保育園等における体験活動とおして将来の進路選択につながる学習に取り組んでいる。

4 平成29年度(平成30年1月25日)に湖南省介護保険事業者協議会と連携協定を結び介護人材の育成、介護教育の充実に取り組んでおり、介護職員初任者研修修了のため、専門職による講義や施設への見学等を実施している。

生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成するためインターンシップを積極的に取り入れ、校内においても地元企業の方を招いて生徒が将来の進路選択を考える機会や地元企業の魅力を知る機会を増やすなどキャリア教育の取り組みが充実している。また、湖南省介護保険事業者協議会と連携協定を結ぶなど地域・産業界と連携・協力を主体的に図りキャリア教育を推進している。

<京都府> (種別：教育委員会) 綾部市教育委員会

推薦理由

市の教育の特色の1つに「キャリア教育」を位置づけ、小学校段階から様々な取組を展開することにより、子どもたちに「自分らしい自分の生き方を探求する教育」を推進している。

取組1：小学生を対象とした「ものづくり体験ツアー」

綾部市は人口3万5千人に満たない小さな地方都市であるが、ゲンゼ(株)と日東精工(株)という東証一部に上場している企業の本社が2つもあるほか、オムロン(株)と京セラ(株)という世界でも名の知れた企業の工場が立地している。さらに、京都府綾部工業団地と綾部市工業団地の2つの工業団地があり、現在29社が操業している。こうした市の特徴と現況を子どもたちに知らせ、将来、地元企業で働き、綾部を担う人材を育てたいという願い

から、市の商工労政課が、市内の企業や北部産業創造センターと連携し、毎年、夏季休業中に実施している。昨年度は、市内全10校から小学5～6年生の90名が参加した。

取組2：中学1年生を対象にしたキャリア教育講演会の開催

地元企業との連携を模索する中で、昨年度から開催するようになった。昨年度は、市内の中学1年生約280名が、地元出身の日東精工の若手社員と、京セラ綾部工場の副工場長からの話を聞いた。地元の企業を理解するとともに、自分の将来を考える貴重な機会となった。中学2年生で行う職場体験につなげている。

取組3：すべての教育活動をキャリア教育の視点で捉え直す

令和2年度から小学校で、令和3年度から中学校で全面実施される新学習指導要領の中で、キャリア教育の重要性が謳われている。本市では、キャリア教育を特色の1つとしていることもあり、この機会に、キャリア教育のより推進と充実を図りたいと考えている。「あい未来図プログラム」を教職員に提示し、授業でも、行事や取組でも、キャリア教育の視点を意識する、つまり子どもにはぐくみたい資質・能力をキャリア教育の基礎的・汎用的能力にリンクさせて考える。そのことを教職員、子ども、保護者等で共通理解することで、学ぶことと社会のつながりを意識し、より教育の効果が高まっていくと考えている。詳細については、今後さらに、中学校ブロックで、具体的なプログラムをつくり実践を進めていく。

<京都府> (種別：学校) 京都府立農芸高等学校

推薦理由

京都府立農芸高等学校は、創立37年目を迎える京都府唯一の農業専門高校である。第1学年では生徒全員が栽培・飼育・環境の基礎を学習し、第2学年より農産バイオ科(2クラス6コース)・環境緑地科(1クラス2コース)に分かれ、それぞれの興味・関心・進路希望に応じ、専門教育を深化させている。

平成30年度は、スペシャリストネットワーク京都の取組として、「社会・経済構造の変化に対応する真の職業人(スペシャリスト)を育成」を基軸に据え、農業の専門高校として特色ある教育活動を展開している。また、その教育内容を生かし、地域や外部機関との連携を積極的に進め、キャリア教育を深化させる多種多様な取組を推進している。

主な取組は以下のとおりである。

(1) 農業教育とキャリア形成

各学科・コース、専門部活動での学びが各種大会・競技会等での入賞、資格取得につながり、キャリア形成に寄与している。

- ア 京都府学校農業クラブ連盟大会 意見発表 最優秀
- イ 日本学校農業クラブ全国大会家畜審査競技会(肉牛の部) 優秀
- ウ 若年者ものづくり競技大会「造園」職種 銅賞
- エ 技能五輪全国大会「造園」職種 敢闘賞
- オ 日本菊花全国大会三本立花壇の部 アメリカ領事館賞
- カ 全国造園デザインコンクール 日本造園建設業協会会長賞
- キ 資格取得
 - ・日本農業技術検定3級
 - ・初級バイオ技術者認定試験
 - ・2級造園技能士
 - ・2級造園施工管理技術検定
 - ・3級園芸装飾技能士
 - ・トレース技能検定3級 他多数

(2) 地域連携と地域創生

ア GLOBAL G. A. P. 認証取得とモデル農場としての公開

平成29年度にトマトでGLOBAL G. A. P. 認証を取得し、モデル農場として府内農業者や他府県農業高校の視察を多数受け入れている。

- ・京都府GAPセミナーの開催
- ・GLOBAL G. A. P. 公開審査の受け入れ
- ・京都府立農業大学校視察受入 他多数

イ 農業農村アプレンティスシッププログラムの取組

南丹広域振興局と連携し、土地改良施設などの現場で「ほんまもん」の技術を伝えるプログラムを実施している。

ウ 農芸祭

2000～3000人の地元来場者に、農場生産物の販売実習や学習活動の展示発表などを実施し、日頃の学習の成果を披露するとともに農業の振興にも務めている。

(3) 地域貢献とボランティア活動

ア 地域の環境整備（作庭、花壇作成）

JR 園部駅、福祉施設、保育園などに出向き、花壇の植え付けや作庭を行っている。

イ 地域の清掃活動

生徒会・農業クラブ役員が中心となり、学校周辺の清掃活動を年間を通じて実施している。また、農芸祭前には草刈りも行っている。

ウ 募金活動

被災地支援のための募金活動を生徒会・農業クラブ役員が実施している。

(4) 学校間連携

ア 保・幼・小・中学校の見学受入・出前授業

農場の見学や専門教科の学習を活かした見学受け入れや出前授業を多数実施している。

- ・園部幼稚園、千代川幼稚園、園部小学校、青野小学校 他多数

イ 他府県農業高校との交流

- ・福島県立相馬農業高校（被災地支援交流）
- ・福島県立磐城農業高校（GAP 認証に関する交流）

ウ 高大連携

京都先端科学大学（旧京都学園大学）と食品加工分野を中心に連携している。

エ 国際交流

- ・国立曾文高級農工職業学校（台湾）との交流受入
- ・アメリカ合衆国農業クラブ（FFA）との交流受入

(5) 産学連携

ア 民間企業等との連携

- ・近隣宿泊施設（販売実習、生産物出荷、花壇作成、作庭）
- ・京都府豆腐油揚商工組合（豆腐加工用ダイズ生産、豆腐の商品化）
- ・食品製造企業・料理店（メロン・トマトジェラートの商品化、トマトソース・バジルソースの商品化）
- ・通信機器企業（ウシ出産感知体温センサーの導入）

イ 社会人講師の活用

より専門的な知識を身に付けるため社会人講師による講義や実習を実施している。

特に、平成 30 年度から京都府農林水産部「農と里を支える担い手育成事業」により、農業者を講師に迎え就農セミナーを実施している。

ウ インターンシップの実施

京都府建設業協会の協力のもと、2年農業土木コース全員が関連企業でのインターンシップに参加している。

<大阪府>（種別：教育委員会）茨木市教育委員会

推薦理由

当該市教育委員会は、今年度、大阪府のキャリア教育推進モデル事業の指定を受け、NPO 法人と協働し、市内 1 中学校区（3 小 1 中）において、府内全域で普及するキャリア教育のモデルプランの開発を行っている。

大阪府では、平成 29 年度末に、府域の全中学校区でキャリア教育全体指導計画が完成した。一方で平成 30 年度の全国学力・学習状況調査のアンケート項目「将来の夢や目標を持っている」の肯定的回答の割合が低く、自分の進路を選択し決定する力を育む取組みに課題がみられる。

課題解決のためにはキャリア教育の推進が不可欠と考え、先進事例の開発・発信等により、府域のキャリア教育の充実を図りたいとの考えから、キャリア教育推進モデル事業を立ち上げた。

当該市教育委員会は、府の課題と同様に、児童・生徒の自己肯定感や自己有用感に課題があると考え、市としても小中で連携してキャリア教育の取組みを進めているが、児童・生徒の成長につながる取組みにしていく

ことが課題と考えている。

今回の事業では、市全体で「自分の夢や目標を持ち、それに向かい努力することができる力」、「他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力」の育成等さらなるキャリア教育の推進を図っている。

具体的には、NPO 法人と協働して得たモデルプラン開発に必要なノウハウを生かし、計画的に中学校区研修会等を開催するとともに、学校に対して開発したプランの実践に対する指導助言を行っている。

取組みの成果として、作成されたモデルプランを市内全中学校区で普及を進めるとともに、府域全中学校区への普及に向けて発信していく予定である。

モデルプランの作成の手法やプラン内容を府域に発信することは、事業の成果を当該市だけにとどめるものでなく、府域のキャリア教育の充実に資するものであるため、推薦するものである。

<兵庫県> (種別：教育委員会) 姫路市教育委員会

推薦理由

姫路市教育委員会は、ふるさとを愛し、地域の発展に主体的に貢献する人間の育成を目指し、市立高校生が、播磨の魅力を発見し、小中学生に発信する「ハイスクールアクションプロジェクト」事業においてキャリア教育の取組を推進している。

主な取組内容としては、以下のとおりである。

① 市立高校3校が合同生徒会を毎月開催し、テーマを自分たちで決め、意見交流をしている。また、合同生徒会が企画、運営する「ユニバーサルスポーツイベント」において、障害者スポーツを通じて3校の生徒が交流を図っている。平成29年度から、合同生徒会が中心となり、「市立高等学校生徒会サミット」を毎年開催し、全国の市立高校の生徒会と交流するとともに、各地域の特色をお互いに発信しあう取組を行っている。

② 市立高校が生徒を対象とした、地元企業を見学するバスツアー「地域魅力発見バスツアー」を実施している。このツアーでは、地元企業を見学し、高校生が働く人たちとの懇談を通して、仕事に向かう姿勢や、地域を思う気持ちを醸成している。

また、産業局と連携を図り、地元の企業を紹介する「企業・大学・学生マッチング in Himeji」に高校生が参加することで地元企業の魅力を再発見する機会にしている。

③ 姫路で働く人々に焦点をあて、仕事に対する姿勢や、会社での苦労などを高校生が取材を行い、1枚の動画にまとめたDVD動画「リアルメッセージ」を制作している。また、各市立高校の特色ある取組を掲載した「市立高校だより」を定期的に作成している。これらを市内の小中学生に配布し、市立高校の魅力を発信するとともに、地元企業の魅力を小中学生に伝えている。

<兵庫県> (種別：学校) 兵庫県立龍野北高等学校

推薦理由

本県教育委員会では、全県立高等学校、中等教育学校において、自己の将来の在り方生き方について考え、目標を持って主体的に進路選択できるようにするとともに、生徒に夢を実現する力を身につけさせるため、学習内容や進路に関連した就業体験（インターンシップ）を実施している。また、組織的・系統的なキャリア教育を支援するため「キャリアノート」モデルを作成し、学校における教育を支援している。

兵庫県立龍野北高等学校では「まちを支える人づくり」「スペシャリストへの道」をスローガンに社会に開かれた、明るく楽しく元気な学校づくりを進めている。生徒一人一人が、進路実現に向け、確かな学力・技術を身に付け、生涯にわたり学ぶ目的を見いだせるよう、各学年において組織的・系統的にキャリア教育を実践している。

【取組の内容】

(1) キャリアノート及び進路ハンドブックの活用

県教委作成のキャリアノートを参照にオリジナルのキャリアノートを作成し、1学年から将来の進路目標を設定させ、各学年で身につけるべき能力を示している。また、学校独自の進路ハンドブックを活用し、将来の進路実現に向け、各専門学科に応じた進路指導および在り方生き方教育を進路指導部と各学年が連携し組織的に取り組んでいる。

(2) インターンシップの実施

各学科ともに、インターンシップを実施している。工業科では就職希望者に対して、夏期休業中に就業体験委員会を開き、組織的に進めている。福祉科および看護科においては、現場実習を行い、事前指導として現場担当者から実習の心構えや社会人としての在り方を学習している。就業体験を通して、社会人としての正しい勤労観・職業観の育成を図るとともに、将来の在り方生き方や職業を考える取組を推進している。

(3) 学習成果発表会の実施

地域の方々も参加する「学習成果発表会」で、全校生徒が1年間の学びの成果を発表すると同時にインターンシップの報告も行っている。

(4) 地域拠点型防災訓練

「高校生として何ができるか」をテーマに、専門学科の学びを通して防災教育について考えさせる機会として、たつの市、消防署、警察署、国土交通省、自衛隊、自治会と連携し、地域拠点型防災訓練を実施している。防災訓練を通して、様々な職業人の実際の姿をみることで、職についての理解を深め将来を見通すとともに、学校での学びがどのように社会とつながっていくのかを生徒が理解するキャリア教育の場となっている。

【成果】

- ・全員が体験するインターンシップにより、社会・就職への移行が円滑になっている。
- ・キャリアノートの活用は、本県のキャリア教育推進に寄与している。
- ・自らの学びを発信し、他者の学びを共有することで、新しい価値観の創出につなげ、主体的・対話的で深い学びに向けた教育を推進している。

このように、龍野北高等学校は、産業界・地域との連携を図り、生徒の発達段階に応じたキャリア教育の支援の充実に取り組んでおり、その成果も着実に現れていることから、ここに推薦する。

<兵庫県> (種別：学校) 兵庫県立播磨特別支援学校

推薦理由

平成21年4月、それまでの肢体不自由部門に加え、知的障害部門を併置し、高等部のみの特別支援学校となったことを機に、後期中等教育段階のキャリア教育を充実させ、企業就労等、生徒の進路実現を図ることを教職員一同、共通理解して実践を重ねてきている。

平成26年からの3か年は、兵庫県教育委員会からキャリア教育・就労支援事業のセンター校の指定を受け、圏域就職支援コーディネーターが配置され、地域における特別支援学校卒業生の進路先や現場体験実習受入先を開拓し、各校への情報提供を図るとともに、キャリア教育就職支援セミナーを開催する等、地域におけるキャリア教育の先進校としての取組を進めてきた。こうした取組から、昨年度の知的障害部門卒業生の就職率は100%であった。

今年度も、進路指導部が地域の事業所に情報発信し、本校におけるキャリア教育の取組状況を目の当たりにしていただくことで理解啓発を図る「見てみよう！播磨特別支援の取組」と題した企業見学会を3回実施する予定である。また、現場体験実習の事前・事後指導を丁寧に行い、生徒個々の職業適性等を十分に見極めながら就労へとつなげていく「デュアルシステム」に基づく進路指導も行っている。さらに、校内研究では、生徒自身に自らのライフプランをより明確に持たせる取組を重視している。今年度の研究主題を「卒業後の生活を豊かにする授業実践と支援の在り方について」とし、ワークライフバランスのとれた生活をめざしている。

本校が立地するたつの市は、市内の経済界・行政機関等の月例会を行っており、本校管理職もその一員として加入し、地域における人権教育推進や、販売実習の周知・協力、作品発表の場の提供、肢体不自由部門を中心とするパラリンピックムーブメントの啓発等への協力を積極的に推進している。

<奈良県> (種別：学校) 奈良県立御所実業高等学校

推薦理由

専門高校の特色を生かし、実際の職場や職業に触れる体験をする実学教育を重視するとともに、学校における教育活動と社会を関連付け、社会人として自立する能力や態度を養い、地域産業を担うスペシャリストの育成に向けて、キャリア教育の推進に努めている。

1 奈良県版デュアルシステムの導入

地元企業における企業実習と教育・職業訓練を組み合わせた授業作りに取り組み、高度な専門的知識や技能をもった職業人を育てる実践的な教育・職業能力開発の仕組みを導入している。

この仕組みを導入することで、生徒の進路選択について確かな勤労観・職業観が培われ、働く意義を見失うことなく就職後の定着率向上も期待できる。

2 インターンシップの参加

就業体験を通して勤労観・職業観を養うとともに、社会におけるマナーや協調性の大切さを学び、コミュニケーション能力や主体的な実行力の向上を図っている。

3 地元企業の指導による商品開発

地場産業である製菓企業と連携し、生菓の成分分析といった商品開発手法の技術サポートを受けるなど、実習内容の専門化・高度化を実現している。

4 社会人講師による実習指導

実習などの授業において、社会人講師のもつ専門知識や経験に基づいた熟練の技能に触れ、教室の学びと実践を結び付ける深い学びを展開している。

5 資格・検定への取組

専門的な知識や技能を身に付けた人材「スペシャリスト」を育成するため、各分野で将来的に必要となる資格取得や検定試験への取組を実施している。また、最後までやり抜く力やチャレンジ精神の育成を目指し、講習会を開催するなど、粘り強い指導と支援を行っている。

<奈良県> (種別：団体) DMG森精機株式会社

推薦理由

本企業は、県立工業高等学校の教育活動に対して、専門的な知識や技能を有する技術者を派遣したり、現地学習会を実施したりするなど、ものづくりにおける生徒の実践的能力の育成及び高い勤労観・職業観を醸成に寄与し、地域を担う人材の育成に貢献している。

1 高度な技術系教育の促進

県立工業高等学校の授業において、専門的な知識と技能を有する技術者が講師となり、現場の経験に基づいた設計から製造までの一貫したものづくりについて講義・実習を行うことで、学習内容をより深化したものにした。さらに、教員の技能向上を目的とした現地研修会を実施するなど、奈良県工業教育の充実・発展に大きく寄与した。

2 実社会とつながる教育モデルの構築

本年度は、生徒が将来的に求められる先端的技術を学べるように、教材を含めた奈良県独自の实習カリキュラムを共同開発した。また、本企業による現地学習会を実施したり、企業間の研究会へ生徒を参加させたりするなど、実践的能力及び高い勤労観・職業観の育成につながる取組を行うことで、生徒のキャリア形成を支援するとともに、学校の学びが実社会とつながるような一環した教育モデルの構築に貢献した。

以上、本企業は、工作機器の分野で世界的な企業であるだけでなく、全国に先駆けて、新しい工業系教育モデルを実現した企業であり、本県のキャリア教育の推進に寄与し、地域社会に貢献する次代を担うスペシャリスト育成に多大なる功績をあげている。

<島根県> (種別：教育委員会) 邑南町教育委員会

推薦理由

邑南町教育委員会は、平成28年度から2年間にわたり、「明日のしまねを担うキャリア教育推進事業」委託事業「みんなのまちづくりプロジェクト」事業に取り組んだ。「だれも(大人も子どもも)がふるさとに暮らす一員として、協働の心を持ち、将来を見据えた新たな地域の創造のために、ふるさとのこれまで・今・これからを学び合い、共に活動し合う営みを進める」という邑南町ふるさと教育目標のもと、従来おこなっている「地域課題の解決や地域のよさを発信していく攻めのふるさと学習」にこの事業を位置づけて進めてきた。

【「世界へも羽ばたける力」を育む邑南町のふるさと学習】

「ふるさとの資源（宝）の情報発信、地域課題への取組をとおしてふるさとの未来を展望する」を副題として定めた。

「世界へも羽ばたける力」を、次のように設定した。

- 1 ふるさとを知り、世界的・地球的視野に立った『ふるさと』と『自分』の未来につながる高い志。
- 2 よりよい考えを創りだすために学んだ知識や必要とする新たな情報を集め、異質の考えとも積極的に出会い、豊かな表現力をもってコミュニケーションできる力。
- 3 人とつながり、人をつなぎ、課題解決に向かい続ける意欲。

以上の考えのもと、「総合的な学習の時間」で取り組みたい地域素材をテーマに照らし、各教科でつながりのある学習内容を関連づける作業を行った。また、内容だけでなく、資質・能力ベースでの関連づけも意識した。

邑南町教育委員会の取組は、学校と地域をつなげるサポーターが潤滑油となり、学校と地域が協働で子どもを育むキャリア教育の推進に取り組んだ優れた実践であることから推薦する。

<岡山県>（種別：学校）玉野市立荘内小学校

推薦理由

教育活動全体を通じたキャリア教育の全体計画、年間計画を作成し、校内体制づくりを行うとともに、小中連携と職業体験を効果的に導入し、児童の社会的・職業的自立に向け基盤となる資質・能力の育成と、地元への理解・愛着・誇りを育む教育を推進した。

○ 職業体験フェスタ in 荘内小

玉野市に所在する企業の特徴的な技術や製品を実際に見たり触れたりすることで様々な職種への興味・関心を高めるとともに、企業の方の話の聞いたり、質問したりすることで仕事のやりがいや楽しさ、苦勞や努力、誇りなどを学ぶ「職業体験フェスタ in 荘内小」に平成29年度から取り組んでいる。事前学習では、小中連携の一環として荘内中学校2年生から職場体験で経験した内容を聞く講座を行い、事後学習では、5年生や保護者・地域に向けて発信する「職業体験フェスタ in 荘内小」の発表会を行うことで、将来の夢や目標を持ち前向きに取り組む姿勢が身に付いた。

「職業体験フェスタ in 荘内小」の実施により、小学校と地元企業との連携が始まり、今後の職業体験活動及び中学校での職場体験での協力体制が整った。

○ キャリア教育つながりマップ

育成すべき資質・能力を系統的、教科横断的に身に付けていく過程を明確にし、見通しをもって児童と教員が学習する取組として、「キャリア教育つながりマップ」を全学年ごとに作成し、教室等に掲示することにより、キャリア教育の視点を常に意識しながら学習に取り組んだ。また、職員室に掲示したつながりマップに各学習の振り返りを教員が記入するなどのPDCAサイクルを回すことにより、教科横断的にカリキュラムマネジメントを進めた。

○ キャリアノート

自己紹介カード、めあてカード、反省カード、キャリア教育関連の授業の振り返りカードなどを一つにまとめて保管するためのキャリアノートを作成している。それぞれのカードにはキャリア教育で身につけさせたい4つの力について自身の変容や成長を自己評価できるようにしている。このノートは6年間持ち上がり、中学校に引き継いでいる。今後は、県教育委員会作成の「おかやまキャリア・パスポート」の内容を踏まえ、取組を充実させていく。

○ 児童の変容

取組の結果、キャリア教育アンケート（平成29年10月から平成30年1月の変容）項目の「将来の夢を持っている」では、肯定的な回答が95%から99%に上昇し、「自分の将来の仕事について決めている」では、67%から70%に上昇した。児童の感想には「働く意義や企業の課題や理念を知ることができた」や「体験したことで大人になって早く働いてみたい」という感想があり、取組により児童の働くことへの意欲向上が見られた。また、同アンケート項目の「自分の考えや気持ちを伝えようとしている」ではあてはまると回答した児童の割

合が47%から56%に上昇し、「苦手なことや難しいことでも、自分から進んで取り組む」では、肯定的な回答が81%から86%に上昇した。このことから、コミュニケーション能力やチャレンジ精神、実行力の育成に成果が見られた。

<岡山県> (種別：学校) 岡山県立津山商業高等学校

推薦理由

当该校は、大正10年(1921年)創設の商業高校である。現在は、校是「自彊(じきょう)」の精神に則り、ビジネス教育を担う県北唯一の専門高校として、知・徳・体の調和の取れた、心身ともに健全な人物を育てるとともに、時代や地域の要請に応えることのできる有為な人物の育成をめざしている。

○ 「特別活動」を中核とした体系的なキャリア教育

生徒に身に付けさせたい資質・能力を8つ(①情報収集力②情報分析力③課題発見力④構想力⑤実行力⑥考え抜く力⑦前に踏み出す力⑧チームで働く力)に整理し、販売実習「津商モール」に向けた教育活動を評価・改善する取組を行っている。また、特別活動と各教科・科目を横断した取組や、3年間を見通した体系的な取組によりキャリア教育を推進している。

国立教育政策研究所教育課程研究センター

- ・教育課程研究指定校事業「特別活動」

(第1期：平成28・29年度) (第2期：平成30・令和元年度)

- ・「学校文化を創る 特別活動 高校編 ホームルーム活動のすすめ」

平成30年8月 取組内容の一部はリーフレットに掲載されている。

○ 地域と連携したキャリア教育

地元企業・団体等と、津山和牛や津山産小麦などの地域資源を活用した商品開発や地元津山市を通過型観光地から滞在型観光地へ変化させるためのツアープランを作成するなど、生徒が主体となり地域課題の解決に取り組んでいる。作成したツアープランは、地元企業がPR動画を作成し、Web上で公開されたことで、地元津山の魅力・情報発信につながっている。また、地元企業と連携し、1年生全員が参加するインターンシップを実施している。

その他として、津山市の歴史や文化、観光などに関する知識を問う「美作の国つやま検定」を地元商工会議所等と協働し開催している。問題は、同校商業クラブなどで行う実行委員会が主催し作成している。検定は、津山の魅力を深く知り、次世代に伝えようと平成24年から継続しており、生徒の郷土への理解・愛着を育み、魅力を発信する取組となっている。

<広島県> (種別：学校) 竹原市立荘野小学校

推薦理由

荘野小学校は、「夢とおもてなしの心」をキーワードに、「よりよい人間関係を築きながら、自らのよさに気付く、夢や希望をもって生きようとする意欲・態度の育成」を目指し、キャリア教育を推進している。

全体計画では、「身に付けさせたい資質・能力・態度」を「基礎的・汎用的能力」との関連で整理し、発達段階に応じて具現化した重点目標を設定するとともに、年間指導計画では、学年間の系統性を意識して活動を設定している。また、地域交流センター、社会福祉協議会、協働のまちづくりネットワーク等の協力により、学校と地域が連携・協働して地域の学習材や人材を生かした教育活動を展開しており、社会に開かれた教育課程のモデルとなる優れた実践を行っている。

1 地域と連携して創る「課題発見・解決学習」

総合的な学習の時間を中心に、地域と連携・協力して「課題発見・解決学習」を展開している。平成29年度には、第6学年において、児童自らが発見した地域課題「竹原市を訪れる観光客の増加に対して、荘野を訪れる観光客は増えていない」について、解決策を考え実行した。協働のまちづくりネットワークの協力のもと、発信したい地域の魅力を掘り起こした上で荘野の歴史の魅力を伝えるリーフレット「荘野&田万里てくてくのおと」を作成し、市内外へ発信した。地域と協働した「課題発見・解決学習」を通して、情報収集・探索能力や課題解決能力を育成している。

2 資質・能力の育成を目指した特別活動の取組

児童会による自治的活動、縦割り班で行う清掃活動、中学生が小学生と行う里帰り清掃等、異年齢集団による活動などを積極的に実施し、自他の理解能力やコミュニケーション能力を育成し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めている。平成27年度には、第6学年児童が地域の方と協働して合唱曲「ここは荘野」を創作した。毎年の「学習発表会」において全校合唱を地域へ披露し、地域への愛着や誇りを育んでいる。また、社会福祉協議会と連携して、毎年、一人暮らしの高齢者に児童が育てた鉢植えをプレゼントする「花鉢プレゼント活動」を行っており、様々な人々と関わりながら自らの役割の価値を見出す活動を重ねている。

3 学校間連携の取組

賀茂川中学校区内の小中学校4校が連携し、北部校長会及び北部小中一貫教育担当者会をそれぞれ年間5回実施し、9年間を系統立てた学力向上の取組や小中の学びをつなぐための小小連携、小中連携を充実させている。また、スタートカリキュラムを作成し、幼保小連携教育を推進している。学校間におけるキャリア教育の理解を深めるとともに、中学校卒業時の姿を共有し9年間を系統立てた子供の育ちと学びをつなぐ取組を充実させている。

これらの取組により、平成31年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査では、「将来の夢や目標を持っていますか。」の設問の肯定的回答が100%（全国83.8%）、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」の設問の肯定的回答が100%（全国95.2%）となるなど、児童のキャリアプランニング能力の育成につながっている。

荘野小学校の地域への理解や愛着・誇りを育む取組は、児童のキャリア発達を促す優れた取組であり、キャリア教育優良学校として推薦する。

<広島県>（種別：学校）三次市立布野中学校

推薦理由

三次市では、「ふるさと三次を愛し、誇りに思い、夢をもち学び続ける力と社会の一員として積極的に貢献する志をもった子ども」の育成を目指し、小中一貫教育を進め、小中学校が協働して地域との連携を深め、中学校区の特性を生かして特色ある教育活動を進めている。

布野中学校では、学校教育目標「確かな学力をもち、夢や志に向けて能動的に活動する生徒の育成」に向け、小規模校の強みを生かし、地域を知り、地域に学び、地域に貢献する教育活動を創造している。

当該校では、育成したい生徒の資質・能力とキャリア発達に係る基礎的・汎用的能力との関連を整理し、系統的なキャリア教育を推進している。生徒の発達の段階に応じて、目指す姿とその取組を明確に設定し、小学校での学習内容を中学校に確実につなぎ、深化・発展を図っている。

特に、総合的な学習の時間において、地域課題の解決に向けた探究活動を通して、地域に参画し貢献する学びを経て、生徒の社会的・職業的自立に向けた取組が充実している。

1 実践事例

当該校の総合的な学習の時間では、地域と協働して郷土のよさを発信する学習活動に取り組んでいる。地域の課題やニーズを的確に捉え、地域と連携・協働しながら、課題解決に取り組み、基礎的・汎用的な能力を育成している。

○ 平成29年度第1学年「ぶち知ろう！～布野と銀山街道～」では、人口減という地域課題について探究した。布野の魅力の一つである銀山街道に着目してPRし、人を呼び込むことに挑んだ。探究の過程において、地域の協力企業及び施設への訪問を通じて、仕事内容や働く際に意識している視点について理解を広げる場にもなった。

○ 平成30年度第1学年「もののけ絵本作成！」では、前年度の実践を改善し、毎時間の学習の振り返りを充実させることで、生徒が自らの学習の深まりやキャリア形成を実感することにつながった。

2 取組の成果

○ 総合質問紙調査（i-Check）の結果においては、キャリア教育で育成すべき能力に係る項目「思いを伝える能力」、「問題解決力」、「社会参画」の項目において、全国平均を5～10ポイント上回る成果が出ている。どの資質・能力に関しても、第3学年では全国平均を10ポイント以上上回っており、学年が上がる毎に数値の上昇が見られ、育成する能力を明確にした学習の積み上げが資質・能力の向上につながっている。

- 校内アンケートの結果から、地域への貢献度についても高い結果が出ており、地域貢献への達成感、自己肯定感を高め、自信にもつながっていると捉えている。
 - 地域の企業等と関わることを通じて多様な職業について知ることができ、職業選択の参考になった。
- 以上のことから、当該校をキャリア教育の充実発展に尽力していると認め推薦する。

<広島県> (種別：学校) 広島県立福山工業高等学校

推薦理由

当該校は、全日制 機械科、電気科、建築科、工業化学科、染織システム科、電子機械科の6学科及び定時制機械科、電気科の2学科を併設した専門高校であり、「将来のスペシャリストとしての基礎・基本を身に付けた生徒」「社会的に自立し、将来の地域社会に貢献できる生徒」の育成を目指してキャリア教育を推進している。工業高校の専門性を生かし、地域との連携を深め、様々な実践的活動を通して生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成している。

1 他校種と連携した取組

(1) 親子ものづくり教室

地域の小学生のものづくりに対する興味や関心を喚起するために、習得した知識や技術を活用して生徒が指導することにより、ものづくりに対する自信と誇りを持たせている。

(2) 中学生に対する「学校見学」

地域の中学校と連携し、中学生、中学生の保護者、中学校教員を対象に、各学科の学習内容や取組を生徒が紹介、ものづくりに対する自信と誇りを持たせるとともに、キャリア形成を図っている。

2 地元企業や自治体等と連携した取組

(1) 地域の産業界・大学と連携したインターンシップや高大連携授業の実施

就職希望者にはインターンシップ、進学希望者には高大連携授業へ参加させている。報告会を実施するなど組織的・計画的に行っている。

(2) 伝統産業の学習及び地元企業とのコラボレーションによる商品開発

地域の伝統産業である備後緋の織元を訪れ、製作過程を学ぶとともに、染料販売や、染色サービスを行う地元企業から講師を招き、年間を通じて素材別に染色した標本づくりや、絞り染めによるTシャツづくりを行った。また、生徒の発案のもと、企業と共同で生徒が染めた帆布を用いた福山の市花であるバラのコサージュづくりのワークショップを開催し、売上金は西日本豪雨災害の義援金として福山市長へ寄贈した。

(3) 地域の魅力発信に向けたモニュメント製作による地域貢献

全日制6学科が協働し、それぞれの学科の強みを統合して、鞆の浦をPRするための1/2サイズの「鞆の常夜灯」モニュメントを作製し、JR福山駅新幹線改札前に設置した。

3 主体的に課題を発見していく力や創造性を育む取組

特色ある部活動の取組として、企業をはじめ各種団体からの依頼によりVRを作製し、VRの提供及びイベント等での体験会等を実施している。広島県内の歴史的建造物や出来事を中心に、より現実に近い仮想空間で体験することで、当時の状況をより理解していただくことを目的として取り組んでいる。主なものに「原爆投下前後の広島」「戦艦大和」「遣明船」「福山城」「鞆の浦」「高所体験」がある。生徒は、歴史の継承を意識し、依頼者との打合せ、現地調査、関係者へのヒアリング等を行い、作品を完成させた。完成した作品とともに広島歴史や文化を広く発信し、工業高校の専門性を生かした社会貢献活動として高く評価されている。

<山口県> (種別：学校) 萩市立椿東小学校

推薦理由

椿東小学校は、松陰神社の近くに位置し、「松下村塾の志を柱とするキャリア教育の拠点校」として、松陰教学精神を学び、郷土の先覚者である吉田松陰に誇りを持ち、郷土を愛する心の育成に系統的・継続的に取り組んでいる。

また、コミュニティ・スクールの機能を生かし、地域のひと・もの・ことを巻き込みながら松陰教学・職場見学・職場体験・ふるさと学習を推進している。地元の企業や地域との連携・協力による学習・見学・体験の場を

設定したり、2分の1成人式や松下村塾の講義室を使って決意の宣言をしたりする活動を通して、将来の社会的・職業的自立に必要な能力や態度の育成に、組織的・系統的に取り組んでいる。

さらに、これらの学びを児童一人ひとりが「志ファイル」にまとめ、進学先である中学校へつなぐなど、キャリア教育の小中連携にも力を入れている。

【具体的な取組】

- ① 毎朝の「松陰先生の言葉の朗読」と終業式における「松陰先生の朗読文に関わる成果発表」 ※全学年
- ② 生活科や総合的な学習の時間での松陰先生に縁のある地域を学ぶ学習 ※第2学年、第3学年
- ③ 萩市志シートを活用しての「2分の1成人式」 ※第4学年
- ④ 萩市配付の松陰読本等による松陰先生についての調べ学習 ※第4学年
- ⑤ 観光客を相手に松陰神社で行う「松陰ガイド」 ※第5学年
- ⑥ 地元の企業の職場見学・体験、インタビュー活動 ※第6学年
- ⑦ 卒業前に、松下村塾講義室で、将来に向けた自分の決意と内容に合う松陰先生の言葉の宣言 ※第6学年
- ⑧ 松陰神社横の遊歩道を清掃する地域貢献活動 ※美化委員会・第5、6学年のボランティア
- ⑨ 学びを中学校へつなぐ「志ファイル」

以上のように、椿東小学校は、「松下村塾の志を柱とするキャリア教育の拠点校」として、郷土を愛する心、将来の社会的・職業的自立に必要な能力や態度等の育成に組織的・系統的・継続的に取り組んでおり、山口県が進める「やまぐち型地域連携教育」の趣旨にも合致するものであるため、キャリア教育優良校として推薦する。

<山口県> (種別：学校) 山陽小野田市立埴生中学校

推薦理由

埴生中学校は、令和2年4月の『埴生小中一貫校』開校に向けて、小中一貫教育の推進に係る研修等、中学校区3校で9年間の学びを見据えた取組を実践している。また、生徒が、夢や目標をもち、一人の社会人として自立できるよう、体験活動を通して基礎的・汎用的能力を高める機会を設定し、地元の企業や地域の方と連携する等、コミュニティ・スクールの機能を活用しながら、組織的にキャリア教育を推進している。以下に具体的な取組の一端を示す。

【具体的な取組内容】

(1) 自らの未来を拓く起業体験

・中学校区の埴生小学校及び津布田小学校と連携し、起業体験活動を実施した。地域の企業と連携し、商品の開発や事業アイデアの検討等、多様な体験をすることで、起業精神やコミュニケーション能力等、起業能力を有する人材を育成するとともに、将来の地域人材育成のために地域の人材や素材を活用することを目的とした取組である。

(2) 埴生学

・コミュニティ・スクールにおけるふるさと発見学習「埴生学」を通して、基礎的・汎用的能力を高め、地域社会の一員として社会に参画する生徒を育成しており、学びによる人づくりや学びによる地域づくりに取り組んでいる。

(3) 夢の教室

・現役アスリートや元プロ選手等、スポーツで名を馳せた方を夢先生として迎え、授業の中で自らの体験談等を交えて、生徒に「夢をもつことの大切さ」や「夢を実現させるための努力の必要性」等を伝える市の事業である。生徒自身が自分の進路について考える機会として積極的に実施している。

(4) 職場体験

・中学2年生を対象に2日間実施しており、生徒が自ら働く意義を感じ取る体験として、「夢を実現する力」や「自己実現の力」が身に付くよう、将来の生き方について考える場として位置付けている。

(5) 立志式

・立志式を機会に自らの将来や生き方について考えさせ、志を抱かせる取組として実践している。

以上のように、起業体験に係る取組を中学校区の小学校と連携して積極的に行い、生徒が主体的に課題を発見していく力や創造性を育むとともに、生徒が地域の一員として自覚を深めるといふ埴生中学校の取組は、山口県が推進する小中一貫教育や「やまぐち型地域連携教育」の趣旨に合致するものであるため、キャリア教育優良校

として推薦する。

<山口県> (種別：学校) 山口県立防府商工高等学校

推薦理由

平成 29 年度にコミュニティ・スクールを導入し、地域とともにある学校づくりに向けて新たな一歩を踏み出した。また、本県が掲げる「社会総がかりによる『地域教育力日本一』の取組」の一環として、地域連携教育を教育活動の柱に位置付け、地域の住民や事業所等との関わり合いを通して、地域社会の様々な変化や内包している課題に対して主体的に向き合い、他者と協働して課題を解決する取組を進めながら、生徒の基礎的・汎用的能力の育成と、シビック・プライド（都市に対する市民の誇り）の醸成を図っている。

1 学校運営におけるキャリア教育の位置付け

(1) 学校運営方針

「豊かな校風を継承し、自ら学ぶ意欲と時代の変化に主体的に対応できる能力を備え、健康で社会や文化の発展に貢献できる産業人を育成する」を教育目標に掲げ、「地域とともにある学校づくり」といっき環境づくり」「将来への道づくり」「輝く人づくり」を重点目標として教育活動を展開している。

(2) コミュニティ・スクールの取組

「ビジネスとものづくりを学ぶ COC (Center of Community) ～学問のまち『防府』における学び合い・教え合いの拠点に～」をコミュニティ・スクールのテーマとして、教育活動の充実と地域のさらなる活性化をめざして様々な活動を行なっている。

(3) 教育課程の編成

キャリア教育を充実させるために、毎週月曜日の 7 限目に「チャレンジタイム (CT)」を設けている。

(4) キャリア教育全体計画・年間指導計画

科目の学習、特別活動、部活動及びチャレンジタイムの活動を組み合わせながら、計画的かつ体系的にキャリア教育を展開している。また、インターンシップ等の体験学習も重視し、キャリアに関して体験的理解を深めている。

2 地域を学びのフィールドにしたキャリア教育の具体

(1) 地元市役所模擬職員としての施策の企画・立案

科目「課題研究」の授業において、商業科及び情報処理科の生徒が、地元防府市をより良いまちにしておくために、地元市役所の情報政策課、おもてなし観光課、商工振興課、都市計画課の模擬職員として施策の企画・立案を行っている。

(2) まちづくりへの協力

生徒の発案により、「ありがたいです・うれしく思います」等の意味をもつ山口県の方言「幸せます」を防府商工会議所の支援を受けながら地域ブランド化し、防府市を活性化させるための活動に活用している。

- ① 地域ブランド「幸せます」に係る商品開発
- ② 幸せますカメラ女子部によるカメラ・フォトウォーク
- ③ 幸せますまちづくり運動

(3) 地元事業所への支援活動

科目「課題研究」の授業や「地域デザイン部」の部活動、生徒会活動において、地元の企業や行政機関、小・中学校等を対象とした支援活動を行ない、地域が抱える様々な課題の解決に貢献している。

- ① 地元小・中学生対象の「菅公みらい塾」における支援活動
- ② 防府市がホストタウンとなっているセルビア共和国の PR 活動
- ③ 地元事業所への各種ボランティア活動

(4) イベント企画・運営

商業科、情報処理科、機械科の生徒が、地元事業所と連携・協働して様々なイベントの企画・運営を行なうことで、学習を通して身に付けてきた知識・技能を活用する力や、社会に参画する意識を高めている。

- ① 販売実習「天神まちかどフェスタ」の企画・運営
- ② 地元の各種イベントへの参加

(5) 山口県立農業大学校との連携授業

山口県立農業大学校と本校商業科、機械科が連携して、教科横断的な学習活動を定期的実施し、農商工の強みを活かした新商品や新サービスの開発をすることで、戦略的に農商工連携を展開する人材（農商工連携プロデューサー）の育成を目指している。

- ① 機械科の生徒を対象とした「スマート農業研修」の実施
- ② 山口県立農業大学校の学生を対象とした「販売促進用POP作成講座」や「農機具溶接、エンジン整備実習」の実施
- ③ 商業科の生徒が、山口県立農業大学校から仕入れた規格外の果物を原材料として商品を開発し、地元事業所やイベント会場で販売

3 Society 5.0 の到来等、社会の変化に柔軟に対応したキャリア教育

(1) 成果

予測困難で変化の激しい社会の中で自己実現を果たしていかなければならない生徒に対して、基礎的・汎用的能力の育成と、シビック・プライドの醸成を図るために、地域と連携して様々な活動を行ってきたが、活動の成果としては、主に次の3つが挙げられる。

① 地元（県内）就職率の上昇

平成30年度卒業生の就職決定者において92.5%が地元（県内）企業に就職した。地域の住民や企業との深い関わり合いが、生徒の「当たり前と感じていた地元での生活が、自分にとって大切な財産である」という気付きや「今まで知らなかった地元の企業が、実は社会に大きく貢献している」といった発見を促し、地元への就職率の上昇につながったのではないかと考える。

② 社会に参画する意識の高揚

キャリア教育は、授業、部活動、生徒会活動という3つの活動を中心に行なわれているが、生徒総会や学校掲示板等を通して、参加した生徒の取組についての情報を発信することで、校内に「社会に目を向け、関わり合っていくことが当たり前」という雰囲気を生み出し、生徒の社会に参画する意識の高揚が図られたと考える。

③ 地元事業所からの連携要請の増加

平成29年度にコミュニティ・スクールを立ち上げ、様々な形で地域と連携してきたが、年を重ねるごとに連携の依頼が増えている。本取組が、地域から高く評価されていること、また、地域の発展や課題の解決に生徒の力が役に立っていることが、連携要請の増加という形で現れているのではないかと考える。

(2) 課題

キャリア教育における課題としては、主に次の2つが挙げられる。

① キャリア教育における活動の整理・統合化

現在まで、地域からの要望に応えながら幅広く活動を展開してきたが、今後キャリア教育をより充実・発展させていくためには、これまでの活動について振り返りを行い、活動の成果や課題を基に、活動の整理・統合を図る必要があると感じている。

② 持続可能性を重視したキャリア教育における組織づくり

キャリア教育の活動においては、特定の教員に業務が集中しないように業務の平準化を図ってきたが、経験豊富な教員の退職や異動を踏まえ、「持続可能性」を重視した組織づくりを進めていく必要があると考える。

<徳島県>（種別：学校）吉野川市立飯尾敷地小学校

推薦理由

「夢や目標にレッツ・チャレンジ～夢の選択肢を増やし、未来を共に創ろう～」を目標に掲げ、総合的な学習の時間を中心に、各教科や道徳、特別活動と関連付けた指導計画を作成し、組織的・系統的なキャリア教育を実践している。平成30年度には、「未来を創る起業家育成事業『みんなが主役！』小中高校生起業塾」（徳島県教育委員会）の研究校として指定され、地域の事業所や県内の起業家と連携した起業体験活動の推進などに積極的に取り組んだ。

具体的な取組

地域の事業所等と連携し、職場見学だけでなく職場体験を実施するなど、実践的なキャリア教育の推進に取り組んでいる。また、県内でサテライト・オフィスを開設している起業家と連携し、多様な起業家による出前授業・体験学習を実施した。さらに、地元起業家と連携し、命名書のデザインを児童が考案してインターネット上で販売したり、地域の魅力をPRするパンフレットや動画を制作したりする起業体験活動を行った。

成果

児童は、「職業の選択肢は思った以上にあり、これからも生み出されていくこと」「仕事はお金儲けだけでない、社会を創っていくもの」「人々が何を求めているかを知ることが仕事には大切」「興味や関心のあることを粘り強く追求していくことが役立つ」「人との出会いを大切にしていき、協力して物事を成し遂げていく経験が必要」など多くの学びを得ることができ、「よりよい人間関係を築きながら、夢や希望をもって目標を達成しようと努力し続ける児童」という当該校の目指す児童像を達成することができた。また、地域との連携が強化され、組織的・系統的なキャリア教育を効果的に推進している。「徳島県キャリア教育推進協議会」において取組発表をするなど、成果の普及にも努めている。

<徳島県> (種別：学校) 吉野川市立鴨島第一中学校

推薦理由

「勤労の意義や働く人々の様々な思いの理解と興味・関心等に基づく職業観・勤労観の育成」「新しい価値を創造し、協働して課題解決に取り組む人間関係形成能力の育成」「必要に応じ獲得した情報を創意工夫し、発信する情報活用能力の育成」「ふるさとの魅力を再発見させ、まちづくり参画意識の醸成」を目標に掲げ、総合的な学習の時間を中心に、各教科や道徳、特別活動と関連付けた指導計画を作成し、組織的・系統的なキャリア教育を実践している。平成30年度には、「未来を創る起業家育成事業『みんなが主役!』小中高校生起業塾」(徳島県教育委員会)の研究校として指定され、地元商店街や県内起業家と連携した起業体験活動の推進などに積極的に取り組んだ。

具体的な取組

職場体験活動での学びを深めるため、地元起業家と連携し、新しい働き方や起業についての出前授業(県内ベンチャー企業の社長による)を実施するなど、職場体験活動における事前指導及び事後指導の充実を図った。起業体験活動では、模擬会社を設立し、地元産の米粉を使い健康に配慮したオリジナルクッキーの製造、地元駅前広場でのウインドオーケストラ部によるクリスマスコンサートにあわせて販売活動を実施した。また、空き店舗を活用したパネル展を実施し、地元商店街の活性化に貢献した。

成果

新しい価値を創造することに興味・関心が高まった生徒や、協働して課題に取り組むことにより人間関係を深めコミュニケーション力を向上させた生徒、情報を発信する力と情報を活用する力が向上した生徒の増加が見られた。また、地域との連携が強化され、組織的・系統的なキャリア教育を効果的に推進している。本県小・中・高等学校教員対象の「キャリア教育推進フォーラム」において取組発表をするなど、成果の普及にも努めている。

<徳島県> (種別：学校) 徳島県立池田高等学校

推薦理由

「主体的に地域の課題を見出し、課題解決のために主体的かつ多面的・多角的に考察する力」「学んだことを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力」「様々な人と協働し、新たな学びに向かっていく力」の育成を目標とし、総合的な学習の時間を中心に、各教科及び特別活動と関連付けた指導計画を作成し、組織的・系統的なキャリア教育を実践している。平成30年度には、「未来を創る起業家育成事業『みんなが主役!』小中高校生起業塾」(徳島県教育委員会)の研究校として指定され、大学や自治体、地元起業家と連携した起業体験活動の推進などに積極的に取り組んだ。

具体的な取組

地域の課題について幅広く知る「探究基礎ステージ」、課題を発見し主体的に考える「探究実践ステージ」、地域と連携した実践活動・研究発表を行う「探究アドバンスステージ」の3ステージからなる探究活動を実施し

ている。起業体験活動では、自治体や地域の関係団体と連携し、探究活動で学んだことをもとに、海外からの旅行者を対象とした新たな観光ルートづくりやジオツーリズムによる観光開発等、地域の課題解決に向けた多様な活動に取り組んだ。

成果

コミュニケーション力、行動力、考察力が向上した生徒の増加が見られた。また、地域との連携が強化されるとともに、探究科を中心とした取組から普通科を含めた学校全体としての取組に発展するなど、組織的・系統的なキャリア教育を効果的に推進している。本県小・中・高等学校教員対象の「キャリア教育推進フォーラム」、県外での「地域創造ハイスクールサミット」において取組発表をするなど、成果の普及にも努めている。

<香川県> (種別：教育委員会) 三豊市教育委員会

推薦理由

本市は、かつて、域内のほとんどの中学校において「キャリア・スタート・ウィーク」の指定を受け、5日間連続の職場体験を実施してきた。それをきっかけにキャリア教育に力を入れ、現在も4日間の職場体験を実施するとともに、キャリア発達課題の克服に向けて取り組んでいる。

また、昨年度から「小学校における進路指導のあり方に関する調査研究」の指定を受け、域内3校（勝間小学校、比地小学校、麻小学校）において、以下のような研究を進めている。

- キャリア教育の視点からこれまでの教育課程を見直し、カリキュラムデザインを作成する。
- 「特別の教科 道徳」で、人の生き方に関する内容を重点的に取り入れる。
- 人、社会、自然、文化とかかわる体験活動の系統性を明確にする。
- 保護者や地域の方をキャリアアドバイザーとして招き、子どもたちに語る場を設定する。
- “その道のプロ”の講演を聞かせることで、子どもたちに新たな夢や希望を持たせる。

さらに、総合的な学習の時間や道徳科において、3校共通の授業実践を行い、自分らしい生き方を実現するための力の育成をめざしている。

- ・「かがわの高等学校」（香川県教委作成）をもとに、進学できる高校やそれを選択する際の基準等について考えさせることで、中学校進学の際にも生かせるようにする。
- ・「あるレジ打ちの女性」の資料をもとに、働くことの楽しさややりがいを感じたり、何事にもあきらめずに最後までやり遂げることの大切さに気付いたりすることができるようにする。

なお、本授業については、文部科学省の長田教科調査官に直接ご指導いただくとともに、本研究における取組やめざす方向性について評価いただいたことから、単年で終わらせるのではなく、次年度も引き続いて研究を進めることで、より一層の成果をあげることができると考え、本年度も引き続き、研究2年次を進めている。

<香川県> (種別：団体) 香川大学教育学部附属坂出中学校PTA (松韻会)

推薦理由

子どもたちには、未来の自分の姿を思い描きながら、豊かな職業観・社会観と将来への夢を膨らませてほしいと願っている。その願いを叶えるべく、大きな力添えをいただいているのが保護者の方々である。

本校では、毎年12月のオープンスクールの日、全生徒を対象にして、保護者の方々が講師となって授業を行う「未来を夢見る授業」を実施している。自身の職業について思いを語る保護者による授業（9講座）では、職業に関する内容だけでなく、社会人としての生き方や仕事に対する情熱を熱く語ってくれている。時には、その仕事ならではのエピソードや裏話もあり、生徒は、強い関心を持って講座を受けている。体験活動を行う講座もある。本校教育活動の中には、様々な職業の方と接して話が聞ける機会があるが、生徒にとって、自分の友達の父親・母親の話はとても身近なものであり、そこで感じ取ったことの生徒への影響はとても大きい。そして、可能性が広がる未来社会と自分を重ね合わせて胸躍らせる貴重な機会となっている。

生徒は希望する講座を選び、2つの講座を受講している。そして次の表のように、昨年度で4回目となり、本校の伝統行事の1つになりつつある。

<愛媛県> (種別：教育委員会) 宇和島市教育委員会

推薦理由

市教育委員会として、市内校長会ジョブチャレンジ実行委員会の強力な実践力及び地元企業の協力を得て、平成30年度及び令和元年度の2年間、「UWAJIMA ジョブチャレンジU-15」(5日間の職場体験学習)及びその事前指導としての「UWAJIMA ジョブチャレンジU-15 スタートセッション」を通して、中学生の勤労観及び職業観を育ててきた。これらの取組により地元の中学生に自分の将来の生き方を考えさせるとともに、将来の宇和島を担う人材の育成につなげることを目的として、キャリア教育を推進している。主な内容は次のとおりである。

1 「UWAJIMA ジョブチャレンジU-15 スタートセッション」(事前指導)

○ 内容

- ・講演「宇和島で学ぶ君たちへ」 宇和島市教育委員会教育長
- ・インタビューダイアログ
地元起業家、県外関係者、行政関係者、地域おこし協力隊、生徒代表
- ・意見交換

○ 参加者

職場体験学習を実施する中学生、教職員、実行委員(中学校長、教育委員会指導主事)、小学校長、来賓(市長、議長、商工会議所会頭、受け入れ企業等)

2 「UWAJIMA ジョブチャレンジU-15」(5日間の職場体験学習)

○ 趣旨

- ・宇和島の子どもたちの勤労観及び職業観を育成する。
- ・宇和島の子どもたちが、「ふるさと宇和島」を知る機会とする。
- ・宇和島の子どもたちを、受入事業所等と連携し、共に育てる。

○ 実施期間

各学校の実施期間については、5日間とし、連続か分散かについては、各学校の実態に応じて実施する。各事業所の受入日数については、5日間あるいはそれ以外の日数でも可としている。

○ 企業等へ協力依頼

年度始めに市内の企業等に対して協力を依頼した。平成30年度、受け入れを希望した企業等は154であった。

○ 中学校への連絡

受け入れ企業等のリストを各中学校に配付した後、各学校が受け入れ企業等に連絡をとり、5日間の職場体験学習を実施している。

<愛媛県> (種別：学校) 松山市立久米中学校

推薦理由

松山市立久米中学校は、「地域からの支援」と「地域への貢献」の2本柱で、相互扶助のバランスを保ちながら、学校と家庭・地域が協働するよりよい関係を築いている。

「地域からの支援」の一つとして、職場体験学習における受入事業所情報の提供を受けている。「地域への貢献」としては、各種ボランティア活動への生徒の積極的な参加などの取組が見られる。

1 公民館等の協力による校区内での5日間の職場体験学習

学校と公民館が協力し、280名を超える2年生を、生徒の希望を考慮しながら公民館が紹介した82の事業所に割り振り、夏季休業中に2日間と秋に3日間の合計5日間の職場体験学習を実施している。校区内の事業所での職場体験学習は、生徒にとって地域のよさや産業を改めて見直す契機となり、ふるさとへの愛着を育む活動となっている。

2 ボランティア活動を通じてのキャリア教育

地域の様々なボランティア活動に参加し、活動を通して「社会人として自立した人を育てる」という素地が身に付きつつある。

- ふれあい食堂ボランティア
ふれあい食堂は、独居老人や子どもの孤食を防ぎ、地域のコミュニティを深めている。毎月3回程度木曜日の夜に開催しており、生徒は、公民館の婦人部の方々が作った食事を配膳したり、片付けたりしている。
- 来住廃寺祭ボランティア
地域の夏祭りの活性化のために、バザーの手伝いをしたり、来場者を案内したりするなど生徒が積極的に活動している。

<愛媛県> (種別：学校) 愛媛県立吉田高等学校

推 薦 理 由

愛媛県立吉田高等学校は、普通科・工業科設置校として、それぞれの学科の特性や生徒の発達段階に応じたきめ細かなキャリア教育を実践している。特に工業科では、地域と連携した様々な取組により、生徒のキャリア発達を促し、社会人基礎力を育成している。

- **マッチングフェアの実施**
1・2年生の工業科生徒を対象に、企業と高校生のマッチングフェアを行っている。企業が求める人材を理解し、ミスマッチを防ぐ取組として有意義である。
- **インターンシップの実施**
2年生全員が、生徒の希望に合わせて、普通科は3日間、工業科は5日間のインターンシップを実施し、体験的な活動を通して、勤労観や職業観の育成を図っている。
- **キャリア教育講演会の実施**
1年生では、キャリア教育に関する講演会実施のほか、総合的な探究の時間を活用して「職業調べレポート」を作成している。様々な職業に対する興味・関心を高めさせるとともに、キャリア形成に向けた実践的な取組を行っている。
- **「匠の技教室」の実施**
工業科生徒を対象に、企業技術者等による実技講習や講演会を実施している。生徒の学びへの意欲を喚起し、進路意識を高める取組である。高度な技術・技能を身に付けた生徒が、各種技能士や第一種電気工事士などの難関資格を取得しているほか、毎年、高校生ものづくりコンテストなどの全国大会に出場している。
- **キャリア教育に係る情報発信**
キャリア教育の実施状況を、随時ホームページにも掲載し、保護者や企業に情報を発信している。

<愛媛県> (種別：団体) 松山市小中学校PTA連合会

推 薦 理 由

平成26年度から毎年市内の公立小中学生を対象に「キッズジョブまつやま」を開催し、仕事の意義、仕組み、やり方等体験を通して、働くことの楽しさや厳しさを学び、関心のある職業への理解を深め、将来を考えるきっかけを提供している。

PTAのネットワークを活かし、地元企業を中心に関係機関等の協力を得ながら事業を展開している。実際に使っている資機材の活用で、現実に近い状況で、多様な職業体験ができるほか、地元への愛着を育むためのイベントとなっている。

【H30実績】

会場：松山市総合コミュニティセンター

参加者：低学年班（小1～小4）714名

高学年班（小5～中3）873名 計1,587名

体験ブース：全61職種（63ブース）

市長、教師、保育士、薬剤師、新聞記者、アナウンサー、キャビンアテンダント、消防士、自衛隊員、銀行員、パティシエ、舞台俳優、船員、郵便局員、臨床検査技師、調理師、建築士 など

出展業者：517名

ボランティアスタッフ：約300名

参加者は、2班に分かれ、希望の職業を選び体験する。

<高知県> (種別：学校) 高知市立義務教育学校土佐山学舎

推薦理由

1 学校概要

高知市立義務教育学校土佐山学舎は、平成23年度からの高知市土佐山地域の人口減少に歯止めをかけ地域振興を図る取組「土佐山百年構想」におけるプロジェクトの一つとして、平成27年4月に施設一体型小中一貫校として開校し、翌年より義務教育学校となった学校である。「ふるさとに誇りをもち、将来をたくましく、豊かに、勇気をもって生き抜く児童生徒の育成」を学校教育目標として、地域学習とキャリア教育を柱とした土佐山学（生活科・総合的な学習の時間）や英語教育の充実等、義務教育学校ならではの教育課程の編成を生かした取組により、その実現を目指している。また学校運営協議会制度を取り入れることで、幅広い地域住民などの参画による地域と学校とが連携・協働して、地域ぐるみで子どもの育ちを支援する体制づくりや、地域振興・地域活性化の発信源を学校が担うことで、地域の活性化を図ることにもつながると考え取り組んでいる。

2 ②・③の観点における近年の取組

(1) 東京証券取引所の学習プログラムを活用した取組

商品開発をして販売するという起業の行程を体験させることで、創造性や探究心、情報収集・分析力や実行力などの起業家精神や起業家的資質・能力の育成を図った。

- ・体験プログラムの一環として株式会社を設立。
- ・地元観光資源である「ゴトゴト石」をキャラクター化した商品開発、販売。

(2) ゆず生産組合と協働した取組

地域産業活性化のために、特産物であるゆずの販売促進のための取組を企画、ゆず生産組合とコラボして実施している。

- ・地域で行っているゆず祭りに、もっとたくさんの人に来てもらいたい、知ってもらいたいと高知市中心商店街にある「ひろめ市場」でのゆず祭り開催を企画。
- ・開催に向け、地域企業に出向いてのプレゼンによる資金確保とPR活動を実施。
- ・ゆずのキャラクター画や地域の名所を取り入れたキャラクター作成とそれを生かしたパスポート制作と配付。
- ・昨年度までの上級生によるゆず祭りでの地元特産品販売を、4年生（鮎）、5年生（四方竹のお寿司とイチゴ）に拡大。

(3) 土佐山観光ツアーの実現

土佐山の歴史、名所を広く知ってもらうために観光ツアーを計画・実施するため、地元の旅行会社から旅行の基礎を学んでいる。

(4) 土佐山の木を活用したコサージュによるPR

土佐山の森林を活用するために、加工の際に出るかんなくずを利用したコサージュづくりを学習し、それを使っての土佐山のPRを行っている。

(5) 土佐山地域の歴史や名所の案内看板の設置のためのこうちこどもファンドを生かした取組

予算獲得のためのプレゼンなども行い、予算獲得から設置実現まで、地域の声を聴きながら取り組んでいる。

<高知県> (種別：学校) 高知県立高知工業高等学校

推薦理由

1. 学校概要とキャリア教育の取組

高知工業高校は、創立107年の伝統を持つ工業高校で、これまで数多くの産業人を排出してきた。県内外の企業や大学等からの評価も高く、専門性を生かした就職や国公立大学への進学等高い実績をあげ、県内の工業教育を牽引している。しかし、これらの現状に甘んじることなく、常に時代の先を見据えた教育活動を展開しており、専門高校の強みと特色を生かしながら、これからの時代に必要となる資質・能力の向上を目標にした教育課程の改善と実践に取り組んできた。この代表的なものが、平成26年度から実践している「イノベーションKT」であり、探究型学習、リーダー養成塾、TEAM研修を柱とした取組である。

2. イノベーションKTとは

イノベーションKTでは、「自ら学び、自ら考え、自ら行動する力」（「自ら力」）をキーワードに、全ての教育活動を新しい視点で見直し、社会での生きる力の育成に取り組んでいる。それぞれの活動に対して育成すべき資質・能力が明確化されていることやルーブリック等を用いた評価を行うことで、現在の取組をさらに充実させ、次年度以降の活動を効果的に引き継いでいく仕組みも構築できている。また、全ての教職員が学校運営や生徒の状況把握等を行い、学校全体で組織的に取り組む指導体制が確立されている。

3. 具体的な取組内容

(1) 探究型学習

探究型学習では、高知工科大学と連携し、調査・発表活動や集団討論、課題研究活動に取り組んでおり、育成したい資質・能力（自己分析力・表現力・プレゼン力・傾聴力）を教職員と生徒が共有するとともに、「自ら力」の育成につなげている。具体的には、1年次に総合的な探究の時間を設定（週1単位増加）し、自ら力の基礎（思考力・判断力・表現力）を養い、2年次には各テーマに対して自らが課題提案し、学科を超えた混合班で集団討論や発表活動を行うことで、実践的な学習を行っている。3年次の課題研究では、これまで学んできた知識・技術を活用させ、課題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育てている。この3年間を通じた探究型学習は、思考力などの育成とともに進路意識を高めることなどに役立っている。

(2) リーダー養成塾

リーダー養成塾では、企業や同窓生、PTAとの連携で「社会を担う人材の育成」を目標に、キックオフセミナーや進路ガイダンスなどを実施している。キックオフセミナーでは、外部講師をファシリテーター役として3年生と1年生が一つのテーマをもとに各学年別の目標に応じたワークショップを実施している。また、進路ガイダンスでは、100名以上の外部講師や同窓生を招き、在校生とともにワークショップ形式で、就労の意義等について学習し、生徒一人一人のキャリア形成に役立っている。

(3) TEAM研修

TEAM研修では、集団宿泊研修や学年団の取組を通じて団体行動に必要な力（相手の立場に寄り添う力・連帯責任力）の育成を目指し、実践している。

4. まとめ

高知工業高校の取組は、生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成するため、教員・生徒によって適切に検証改善が行われており、組織的で系統的なキャリア教育が実践されている。

<佐賀県>（種別：学校）小城市立小城中学校

推薦理由

当该校は、生徒の実態として、「話し合ったことをまとめたり、資料を活用して論理的に説明したりすることに苦手意識をもっている生徒が多いこと」「学習していることが将来役に立つと感じている生徒が少ないこと」を重点課題として、キャリア教育の視点から学校全体の教育計画を以下のように見直し、改善し、実践している。

1 生徒の学びと社会や将来とのつながりを意識したキャリア教育

当该校では、生徒を対象にした生活アンケート調査の結果から、生徒の課題を明確にし、課題の改善に向け、キャリア教育を軸にした全体計画へと見直し、実施している。

指導計画における特徴としては、日々の学習内容が将来の進路や職業と関連していることを実感させるために、総合的な学習の時間において、探究課題に応じた様々な体験的な学習を計画的、系統的に仕組んでいる。これにより、生徒は、3年間を通して必然性を感じながら資質・能力を身に付け、その中で、自己の生き方を考えることができるようになっていく。

2 外部人材・機関との連携した体験的な活動を重視したキャリア教育

当该校では、生徒の実態を踏まえ、外部人材・機関と連携した体験的な活動を通じて生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる資質・能力を育てることができるよう、次の3点を重点に体験的な活動を計画・実施している。

① 職業に対して、生徒の実感を伴った理解を図る取組

【主な体験活動】

- ・（第1学年）ものづくり企業見学、ものづくり体験

- ・(第2学年) 職場体験活動など
- ② 行政、NPO法人、地域、社会の方々と連携した取組
 - 【主な体験活動と連携先】
 - ・ものづくり企業見学…佐賀県ものづくり産業課
 - ・ものづくり体験学習…佐賀マイスター（佐賀県職業能力開発センター）
 - ・社会人からお話を聞く会…地域の警察官、営業マン、会社社長、添乗員など
 - ・マナー講座…キャビンアテンダント専門学校講師
 - ・SAGA〇〇アカデミー…NPO法人、地元企業
- ③ 体験的な学習を通して、生徒に身に付けさせたい「課題を発見し解決していく能力」や「コミュニケーション能力」などが身に付く取組

【例：SAGA アイスアカデミー】

新商品の企画、開発を企業と協働して行う体験活動を通して、市場調査などの「情報の収集」、企画立案のための「協働的な課題解決」、提案・検討のための「まとめ、表現、プレゼンテーション」等、実感を伴って学ぶことができている。

このように、キャリア教育の視点から指導計画を見直し、体験的な学習の充実を柱に、社会に開かれた教育課程を実現する中で、生徒のキャリア発達を促し、将来の夢や職業、働くことなど生徒が自分の生き方について考えることができるよう計画的、系統的に推進していることから、当該校をキャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰に推薦する。

<佐賀県> (種別：学校) 佐賀県立致遠館中学校・高等学校

推薦理由

県立の併設型中高一貫校、進学校である当該校は、生徒の実態及び学校の役割に鑑み、「人生をよりよく生きるための進路選択ができる」「個性や能力を伸ばししようと努力し続けることができる」「社会の発展に貢献しようとすることができる」生徒の育成を目標に掲げ、6年間を通したキャリア教育の取組を活動内容と系統性及び生徒の意識向上の観点から検証改善しながら、以下のように実践している。

1 生徒の自己啓発活動を促進する取組

校内の組織体制の一つとして「自己啓発センター」を新設し、生徒が、本人の意志で、自己の能力を高めたり成長を目指したりする自己啓発活動が更に向上するよう本校のキャリア教育のカリキュラムと併せて生徒の主体的な学びを支援している。

2 体験活動等を通して生徒が職業を意識し、将来の生き方について考える取組

生徒の実態、ニーズに応じた体験活動、学習を系統的に位置付け、事前事後指導やe-ポートフォリオの活用と併せて取り組ませることによって、生徒の進路選択に関わる資質・能力の向上を図っている。

- ・(中学校) 高3の授業見学、農業体験学習、福祉体験学習、職場体験活動、職業人と語る会、大学訪問、異文化体験、英会話体験プログラムなど
- ・(高等学校) 大学出前講座、大学訪問、医学部志望者の職場体験学習、看護体験、大学・企業・卒業生等と連携したキャリア教育講演会など

3 ボランティアの活動を通して生徒の人間関係形成能力を高める取組

6年間を通してボランティアの活動を、次の3段階で系統的に実施し、生徒の自己啓発と人間関係形成能力の向上を図っている。

- ① 地域清掃等の体験を通して、自己理解の深化を図る「ボランティア体験」
- ② ボランティアとは何かを学び、自分にできること（社会貢献活動）を考え、行動する活動を通して、主体性・協働性等の向上を図る「ボランティア学習」
- ③ 生徒が自主的・自発的に発展途上国ボランティアに参加することで自分の役割について考えることを促す「ボランティア活動」

4 中高一貫したカリキュラムで生徒の課題適応能力を高める取組

生徒が、中学校の総合的な学習の時間「Jr. 課題研究」において実験・調査やディベートなどの取組を通して探究活動の基礎を身に付け、それらを活用しながら高校の探究活動に取り組む系統的なカリキュラムを設定

し実践することで、課題発見能力及び課題解決能力を高めている。

このように、中高一貫教育を通して、地域や外部機関との連携し、生徒一人一人の自己啓発活動の向上も図りながら組織的・系統的なキャリア教育に取り組んでいることから、当該校をキャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰に推薦する。

<長崎県> (種別：学校) 長崎県立鹿町工業高等学校

推薦理由

本県の最重要課題は「人口減少」にある。その対策のひとつとして、平成27年度から「県内就職支援」の取組を行っている。昨年度からは、地域との関わりを積極的に持ち、地域と協働してふるさとへの愛着や誇りを持ち、ふるさとに貢献したいという意識を醸成する「ふるさと教育」に取り組んだ。

<主な取組>

- 保護者、行政機関や各種団体、大学や地元企業等、地域社会全体を巻き込んだ取組の実施
 - ・ 地元企業や自治体との協働で地域貢献活動を行った。
例：佐々町役場からの依頼による交通安全教室の『信号機』の作成
江迎伝統工芸品「繭玉」製作
「江迎千灯籠祭り」の竹灯籠を製作
道守（道路や橋など土木構造物の維持管理活動）の活動
 - ・ 各専門に関係する工場や現場見学を実施し、専門的な指導を受けた。
 - ・ 保護者と教職員で見る地元企業見学会を実施し、保護者も地元企業について理解を深める機会を設けた。
 - ・ 佐世保市地域おこし協力隊や卒業生による「長崎の未来づくり」講演を実施した。
- 全校生徒および全職員での取組
 - ・ 月に1回、全校生徒及び全職員による進路学習の時間を設けた。
 - ・ 学校独自のキャリアノートや授業サポートノートを作成した。
 - ・ 学年ごとにテーマを決め、系統的な進路学習を実施した。
 - ・ 職員研修の充実を行った。

<取組の成果>

- 自治体や地元企業との協働による地域貢献活動を行ったことで、地域産業を担う実践力を養う機会となった。
- 地域の方々とふれあい、ともに活動を行ったことで、将来的にも地域の発展に貢献したいという気持ちを育む機会となった。
- 地域からの要請による取組や地域の行事や伝統工芸品に関わる活動に取り組むことで、地域の方々の期待を集めている。
- 地元企業を知る機会が増えたことで、県内就職率が増加している。
- 全校生徒及び全職員で取り組み、学校全体の地域への理解が深まり、地域貢献の意識が高まった。

<長崎県> (種別：学校) 長崎県立佐世保西高等学校

推薦理由

高い志を持ち、知・徳・体のバランスのとれた、地域社会及び国際社会の一員としての自覚と感性を備えたグローバル人材育成を目標としている。

<取組>

- (1) 「総合的な探究(学習)の時間」(1・2年次)における探究型の地域課題研究(校内名称「ふるさと創生大作戦」)に学年の生徒・教員の全員で取り組む。
 - ① 長崎県政策企画課、佐世保市政策経営課、長崎県立大学等と連携して、地域の現状理解のための講演会を開催し、地域の現状を理解する。
 - ② 「探究活動」の基礎を身に付けるための「ミニ探究」活動(生徒の身近な話題から課題発見・解決の過程を体験)を実施する。
 - ③ 生徒5～6名で班を構成し、講義内容やフィールドワークを通じて、地域課題に関する情報収集に取り組む。

- ④ 各班でフィールドワーク・RESASなどのデータ分析・文献調査等を通じて、地域課題の整理・分析に取り組むとともに、解決したい課題を設定し、解決策を検討する。
 - ⑤ 地域課題解決については改善策の提案だけでなく、地域の関係諸機関との協力を通して、実際に解決するための改善策の実行に取り組む。
 - ⑥ 一連の探究活動をまとめ、県教育委員会や県・市の担当者及び関係機関や保護者等を招いた校内発表会で発表するとともに、各種コンテストへ積極的に応募する。
- (2) 地域の企業への短期インターンシップ（企業訪問）や地域でのボランティア活動へ参加する（主に2年次夏季休業中に実施）。
 - (3) 校内発表会でのフィードバックをもとに、2年次後半以降、自らの進路希望に応じた課題研究を継続する。

<取組の成果>

- ① RESAS（地域経済分析システム）等のデータ活用を通じて、複数のデータの比較・分析能力およびデータから論理的に課題を発見する力が身に付いた。
- ② 探究活動を通じて、課題の発見・設定・解決能力が身に付いた。また、課題解決に向けた他者との協働の中で自分自身の意見を伝える力を身に付けるとともに、他者の意見を傾聴することの重要性について認識を深めた。
- ③ 地域社会との関わりの中で、地域課題解決の難しさを認識する一方で、将来、地域の担い手として活躍したいという意識を持つことができた。

<長崎県>（種別：学校）長崎県立長崎明誠高等学校

推薦理由

県内初の総合学科として誕生し、設立当初から「ひとりひとりの夢実現、オンリーワン教育」を柱としてキャリア教育を行っている。

<主な取組>

- 個々の進路希望・興味関心に応じた科目選択、時間割作成
 - ・生徒一人一人の進路や興味に応じた科目選択を行い、時間割作成を行う中で、生徒が進路と早い段階から真摯に向き合うことができる。
- 組織的・系統的なキャリア教育の推進
 - ・各学年の「キャリア教育部（校務分掌）」を中心に、学年ごとに育成する能力を明確にし、各学年、そして3年間を見通し系統的に「生きる力」を育成する取組を行っている。
 - ・毎週の各学年会においては、次週以降のキャリア教育について協議し、共通理解のもとに各学年、学級等で計画的に取り組んでいる。
- 地元の企業や上級学校、地域と連携したキャリア教育の実施
 - ・1年次には「キャンパス・企業見学」を、希望進路等によるコースに分かれて実施している。2年次には「インターンシップ」を3日間実施し、地元企業についての理解を深めるとともに、適切な職業観・勤労観を養っている。
 - ・それぞれ事前学習として、マナー講座、自己紹介カード作成等、事後学習でのお礼状の送付等により、社会性が育まれている。
 - ・地域行事のボランティア活動も長年継続して行っており、行事を支える大きな力として期待されている。
 - ・特別支援学校の児童・生徒や乳幼児親子と交流したり、保護者による面接をしたりすることで、多様性を認める力、社会性等を育んでいる。

<取組の成果>

- 各個人それぞれの科目選択、時間割作成を行うことが、生徒自身が自分の将来と真摯に向き合うことに繋がっている。
- 「キャリア教育部」を中心に、各学年で組織的・系統的なキャリア教育を行い、正しく自己を表現し社会に適応する力を育成している。
- 地元の企業や上級学校と連携した取組によって地元への理解が深まっている。
- 地域ボランティア等の交流活動を通して、コミュニケーション力が育まれるとともに、高校生に対する期待

にも繋がっている。

＜熊本県＞（種別：学校）熊本県立八代工業高等学校（全日制）

推薦理由

本校は、生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成するため、地域の産業界等との連携・協力を主体的に図り、生徒の進路意識の高揚に努めている。

特に本県では、高校生の就職に伴う県外流出が課題となっており、工業系高校で学ぶ生徒の6割程度が県外へ就職している。このことから、本校では生徒に地域の事業所や官公庁、学校についての理解を深めさせることで、地域への愛着を深め、勤労観や職業観の醸成を図り、地域の産業界で活躍する人材の育成に繋げる目的で、一昨年度から進路説明会を実施している。

【今年度の具体的な取組例】

(1) 熊本県域進路説明会（4月16日 本校）

この企画は、昨年11月に開催した「八代地域進路説明会」を発展させたものである。

「八代地域進路説明会」は、本県高校生の就職に伴う県外への人材流出の課題に対し、本校生徒に地域の事業所や官公庁、学校についての理解を深めさせることで、地域への愛着を高め、キャリア教育の一環としても勤労観・職業観の形成・確立を図り、地元八代で活躍する人材の育成を目的に実施したものである。参加した生徒はもとより、保護者、説明者の満足度が極めて高く、八代商工会議所会頭をはじめ、来賓及び関係各位からも高い評価を得た。また、県内教育関係者向け広報紙「教育くまもと」に掲載されたことで各経済団体でも話題となり、八代管外の事業所からも参加希望が相次いだため、「熊本県域」へと枠を広げて実施することとした。

当日は、県内事業所23社、官公庁4軒、大学・専門学校等8校を招き、各教室にて事業内容の説明等を行った。2・3年生全員（481名）と保護者74名に加え、県内地域振興局の就労支援員、県高校教育課の担当指導主事等の参加もあり、関係機関と連携を深めながら実施することができた。

● 説明会等に参加した生徒の感想等

（生徒）就職を考えるきっかけとなった。／自分たちでは集められない情報があった。／自分の進路の幅が広がってためになった。

（保護者）地元に住んでいて名前は知っていてもどのような会社か分からなかったので、とても良い機会を与えていただいた。／興味の有無に拘わらずいろいろな会社や仕事があることを知る機会となってよかった。

（生徒のアンケート結果）熊本県域進路説明会に参加した生徒の93%が今後も説明会を継続して開催して欲しいと答えている。方法の改善を求める意見も5%見られ、興味・関心をもって主体的に参加していることがうかがえる。

(2) 県外事業所説明会（6月20日・7月4日 本校）

本校生の就職内定先のうち6～7割が県外である実情を踏まえ、企業概要や仕事内容をはじめ、寮や社宅の整備、福利厚生面に対する保護者の不安や心配を払拭できるよう、昨年度から実施している。年間4回に分けての実施であるが、毎回、製造や電力等の県外事業所2～3社を招き、説明を行っている。それぞれ生徒10名程度の参加であるが、希望する職種について詳細に説明を受けることができています。

(3) 県内進学バスツアー（7月25日 熊本市）

本校生の約2割の進学志望者に対する進学先の情報提供が十分ではなかったことを改善すべく、生徒と保護者に向けた地元上級学校を訪問する機会の充実を図った。午前、午後それぞれ学校を選択する制度を設けることで生徒や保護者のニーズを満たすことをねらいとしたが、アンケートでは全員が「満足した」と回答し、「ぜひ次の機会を」と要望する生徒は全体の9割を占めた。

当日は、大学2校、専門学校3校を生徒28名、保護者1名が訪問し、各校から説明を受けた。大学は工学・人文、専門学校は自動車整備・デザイン・医療と、本校から進学希望の多い分野を準備しており、生徒のニーズに即した説明会となった。

(4) 保育士出前講座（7月17日 本校）

熊本県保育協議会会員の保育士4名を本校に招き、保育士を希望する生徒8名に対し、出前講座を開いた。手遊びから始まり、終始和やかな雰囲気が進められた本講座では、保育園と幼稚園、認定こども園の違いや仕事の内容等について丁寧に説明され、保育士としてのやり甲斐や誇りが伝わってきた。アンケートでは、生徒全員が「保育士への興味と関心が高まった」と答えている。

(5) 八代海河川・浜辺の大掃除(6月15日(雨天のため6月22日に延期) 球磨川・八代海沿岸)

行政・民間企業・学校・地域住民が一体となって行う球磨川・八代海沿岸の清掃ボランティア活動に、本校生徒155名が参加した。今年度は荒天のため中止となったが、例年、後日開催される意見発表会へも参加している。環境美化に加え、生徒にゴミ問題や河川・海洋環境の保全について考えさせる契機になり、地域を支える人材の育成に繋がっている。

(6) 進路ポートフォリオの作成及び活用

キャリア・パスポートの導入に向け、本校版の進路ポートフォリオを作成し、HRで活用している。高校生活の見通し・振り返りに役立てられるよう各学期やインターンシップ、探求活動等の取組ごとに記載できるよう工夫した。本校生徒の実態に即したポートフォリオにするため、今後、定期的に改善を加えていくこととしている。

(7) 朝課外授業の実施

昨年度より、朝課外授業を実施する側、受ける側の双方が主体性を持ち、持続可能なシステムとなるよう、コア(必須)とフレックス(任意)の実施形態を設けて実施している。コアでは、主に進路指導部が企画し、SPIや適性検査、作文、履歴書作成等の内容を実施、フォローアップを図っている。また、フレックスは各科・各学年や担任が企画し、主に資格検定・進路対策として、科・学年の特色がより際立つ内容となっている。生徒自ら将来の見通しを持って選択し、受講することから、無理強いがなく柔軟であり、主体性を持って取り組んでいる。

<熊本県> (種別: 学校) 西原村立西原中学校

推薦理由

西原村立西原中学校では、村主催の地域学校協働活動「ふるさと塾」に位置付けた中学生の活動が平成18年から続けられている。活動は、中学校1年生と2年生の活動に分けられる。中学校1年生は「里の子塾」と称し、村の基幹産業である農業を2泊3日で行い、中学校2年生は「民の子塾」と称して地域の事業所で4日間の職業体験活動を行う。それぞれの活動の目的や具体的な活動を以下に示す。

① 「里の子塾」: 地域の農家で体験活動を通して人との出会いやふれあいの温かさ、そして、郷土への愛着を感じるとともに、農業の喜びや厳しさを実感しながら農業への理解を深め、郷土に対して誇りを持つ機会とする。(農家民泊のツーリズム)

《内容》村内の農家約20軒に4人程度の生徒を受け入れていただく。

《種類》酪農、からいも農家、サトイモ農家、しいたけ農家を中心。

《時期》9月最終週で2泊3日

② 「民の子塾」: 地域の中で働く体験を通して、郷土を愛する心を育てるとともに、仕事の喜びや厳しさを実感し、将来の生き方を考える機会とする。

《内容》1日目: 自宅より直接受け入れ事業所へ。打合せ後、実習。

2日目~3日目: 実習。

4日目: 実習後、終了式にて、受け入れ先責任者より講評を受ける。

その後、生徒からのお礼の言葉を言った後、自宅へ帰り、学校へ帰宅の連絡をする。

《受け入れ事業所》: 村内の事業所約20か所(役場、社会福祉協議会、保育園等を含む。)

《時期》: 9月下旬の4日間

<大分県> (種別: 学校) 大分県立佐伯鶴城高等学校

推薦理由

○ 学校設定教科「創生探究」における地域との連携

1年次: 学校設定科目「創生探究基礎」における地域研究

2・3年次: 学校設定科目「地域探究」における課題研究

(取組内容)

学校設定教科「創生探究」では、地域の特性を活かした探究活動を通して、課題発見力・解決力、科学的探

究力等を高めることで、グローバルな視点を持った地域を支える人材として新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦する態度の育成を図っている。

1年次は、地域で働く人と直接対話することにより、課題発見およびその解決への動機づけを図りながら、探究の手法を学ぶ。佐伯商工会議所・佐伯市番匠商工会・佐伯市あまべ商工会の協力を得て、「佐伯鶴城高校と地元産業連携推進協議会」を立ち上げ、佐伯市内約50の事業所と連携している。核となる行事は、「地元産業魅力説明会」（事業所が来校して各ブースで生徒へ事業内容を説明）、「ジョブシャドウイング」（各事業所で本校生徒一人が一人のメンターについて仕事の様子を観察）、「地元産業魅力発表会」（一連の取組に関するポスター発表会）である。

2・3年次には、生徒自身が設定したテーマについて班を編成して課題研究を行う。その際、生徒自身がアポイントをとって、地域の事業所へ情報収集に出かける。平成30年度は、多くの班が佐伯市役所（政策企画課、観光課、社会福祉課など）で市の現状やテーマに関連するデータを基に説明を受け、地域課題に関する知識を得た。その後、市内の商店街や福祉施設、農業や水産業の生産者、販売者へのインタビュー調査などを行って、課題を分析し、解決に向けたアイデアの提案を試みた。地域活性化や郷土芸能の伝承をテーマに掲げた班は、九州大学持続可能な社会のための決断科学センターの研究者等の指導を受けることにより、地域の課題を学問に結びつけて考察することができ、生徒にとっては大学での学びを地域へ還元する方法を知る機会となった。学年発表会、成果発表会などを通して、保護者や地域の方々に研究成果を発表した。

<大分県>（種別：学校）大分県立高田高等学校

推薦理由

- 高田高等学校は、大分県豊後高田市にある唯一の高校で、多様な進路希望をもった生徒が入学しており、「自分・学校・郷土に自信と誇りをもつ生徒」を目指す生徒像として「課題を発見し解決する姿勢と地域活性・地域創造の意志をもつ生徒の育成」等を重点目標としている。その教育活動の中で、大分県教育委員会の平成29・30年度「地域の高校活性化支援事業」・令和元年度「地域の高校魅力化・特色化推進事業」を活用して、豊後高田市を担う地域創生リーダーの育成をめざすことを通して、キャリア教育を推進し成果をあげている。
- 総合的な探究（学習）の時間では、キャリア教育の視点も踏まえ、1学年は「地域学」「職業人インタビュー」、2学年は「職業研究」「地域学Ⅱ－他地域との比較－」、3学年は「進路研究」「卒業研究」等を中心に据えて、それぞれのテーマに沿って探究学習を実施している。
- 1学年では、北九州市立大学地域創生学群や豊後高田市、地元商店街等と連携して、フィールドワークも含めて地域の課題解決に向けて探究する「地域学」を実施し、文化祭において成果を発表した。
その延長として、1学年後半に「職業人インタビュー」として地域の職業について考えることにより自分の将来を考えたり、2学年で他地域のフィールドワークを通して比較しながら地域について考えたり、修学旅行において県外地域の課題を考えることを通して地域を見つめなおし考えたことを全校生徒に発表したりした。
- 「地域学」等で学んだことや考えたことを発展させ、生徒が主体的に地域に貢献する様々な取組を支援し推進している。例えば、商工会議所青年部等と共同で行った新商品の開発、商店街等と連携した英語版観光マップ等の作成、地域の祭での販売実習、地域の方々と共同で開催したイベントの企画・運営、地域特産品のPR、伝統芸能を継承する取組等である。
- 2学年の就職希望の生徒を対象としてインターンシップを実施。事前指導の中に地域の方に講師として来ていただき、地域の方々とともに有意義な体験となるように取り組んでいる。

<宮崎県>（種別：学校）宮崎県立都城農業高等学校

推薦理由

2年生を対象に教科「農業」、科目「総合実習」の教科内活動として1年間（5月～2月）の「都城農業版デュアルシステム」を実施している。当該高校の近隣の各自治体（2市1町）や地域企業及び同窓会・PTAとの連携による都城農業高校ならではの地域人材育成の取組が本年度で5年目を迎え、可視化できる成果があらわれた。

【目的】

- 1、宮崎県は農業立県であるが、後継者や新規就農者が減少している為、農業を含め地元産業の良さを高校生に

しっかり理解させたい。

- 2、少子化や核家族化の影響による地域でのコミュニケーション不足を補い地域産業や伝統文化を体験的に学ばせたい。
- 3、地域産業を学ぶことで県外への流出を減らし、卒業後のUターン希望者の就業を支援しキャリアデザインを描かせたい。

【方法】

- 1、5年前に当該高校独自の「自営者育成協議会」を基盤に近隣自治体（2市1町）及び地域企業より補助を頂き、約53万円の予算で運営している。予算は企業への謝礼と生徒交通費や研修バス代等に当てる。
- 2、地域企業とOB農家等の51団体で年間10回程度実施する。
- 3、就農希望者は農大校と連携し5ヶ年で就農教育を実施する。

【成果】

当該高校の卒業生は65%が就職希望で、しかも地元就職の傾向が高い。H30年度（デュアルシステム実施4年終了時）は以下の通り

- 1、2年次に体験した農業法人への就職者が2名
- 2、農大に進学した11名中、農大を卒業時に農業後継者5名、地元農業法人への就職（新規就農者でカウント）2名、就農目的の海外研修1名、畜産公社1名、農機具販売会社1名等、関連企業への就職2名の合計10名が地元への貢献が期待できる進路を選択した。
- 3、昨年度よりリカレントエデュケーション（循環教育）を取り入れUターン卒業生対象にデュアルシステム協賛企業を本校のHPに掲載して求人情報を公開するシステムを構築している。

<宮崎県>（種別：団体）野口遵顕彰会

推薦理由

野口遵顕彰会の主催する青少年育成事業「ジュニア科学者の翼」は、21世紀の新しい産業社会の担い手となる青少年が、科学技術への関心を高め、その無限の可能性に夢と希望を抱く一助とすべく、設立された平成13年度より始まり、今年度で19回目を迎えている。学校からの推薦と小冊子「のべおか新興の母 野口遵」の感想文により選抜された延岡市を含む県北の1市、4町の中学2年生12名を、野口研究所をはじめ、科学館や産業技術館等へ夏季休業中に3泊4日の行程で派遣している。

派遣生徒は、グループ研究と個人研究の課題を事前研修や現地見学等を通して設定し、事後研修においてさらに追求したり、まとめたりする探究的な活動を行う。そして、研修の成果を報告会において、本顕彰会役員や保護者等にプレゼンテーションする表現の機会も設けられている。

日本最先端の科学技術に触れた派遣生徒は、体験的な活動を通じて、これまで以上に科学技術への関心を高めるとともに、同年齢の仲間たちからも刺激を受けながら、将来の夢や希望に向けて決意を新たにしている。本事業は、派遣生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けたキャリア発達を促すものであり、キャリア教育そのものと言える。派遣生徒が、研修の成果を所属中学校の文化発表会等で報告する機会もあり、教育的効果は派遣生徒以外にも波及するものとなっている。

また本顕彰会は、延岡の産業発展の歴史と野口遵氏の業績を小学生向けに編集した「延岡新興の母 野口遵（マンガ版）」を小学4年生へ配付し、また「ジュニア科学スクール」として、高校生ボランティアと連携しながら、小学6年生を対象に「風力発電機作り教室」などを実施して、科学技術に対する興味・関心を高めている。さらに今年度からは、延岡市キャリア教育支援センターや協賛企業と連携し、中高校生向けのキャリア教育に係る講座の計画も進めている。

以上の実績からも、本顕彰会は、これまで長きにわたり、本市のキャリア教育の充実発展に多大に尽力し、顕著な功績を修めている。さらに、この取組は今後ますます充実発展し、継続していくことが期待できることから、本顕彰会を強く推薦するものである。

<鹿児島県> (種別：学校) 日置市立土橋中学校

推薦理由

1 研究主題

「何事にも目標を持って取り組むことのできる生徒の育成」

～人との関わりを通して自己理解や他者理解を深め、成長につながる目標を立てるために～

2 取組内容

- (1) キャリア教育の視点からの教育活動の見直し
 - ア ねらいや活動内容の見直し
 - ・ 修学旅行 ・ JRCトレセン
 - イ 目標設定と振り返りの工夫
 - ・ ひおき学フィールドワーク ・ 梅の収穫と販売
 - ウ 体験活動の工夫
 - ・ 職場見学 ・ 職場体験学習
- (2) 他者から学ぶ場の設定
 - ア 他校との交流
 - ・ 鹿児島大学附属中学校 ・ 鹿児島大学 ・ 育英館高校
 - イ 保護者との関わり
 - ・ 職場見学 ・ 立志式 / 職場体験学習
 - ウ 地域・卒業生との関わり
 - ・ 卒業生講話
- (3) 生徒が主体的・協働的に活動できる場の設定
 - ア アクティブ・ラーニングの視点を生かした学びの場の設定
 - ・ 国語科 / 数学科
 - イ 生徒会主体の行事や地域行事運営への参画
 - ・ 小中合同地域ふれあい活動 ・ 朝の読書活動 (ビブリオバトル)

※ 小規模校の特色を生かした教育活動として、全校生徒で学び合う場や、職場体験等の事前事後の活動に事業所の関係者・保護者と共に学ぶ場を設定するなど、他者との関わりを深め、多様な考えに触れる機会を充実させている。これらの教育活動を通して、多くの生徒が自己理解や他者理解を深め、自分の将来や成長につながる目標を設定できるようになってきている。

<鹿児島県> (種別：学校) 徳之島町立手々小中学校

推薦理由

手々小中学校は、平成29・30年度に県指定研究協力校として、「主体的な態度で生活を工夫し、自分らしい生き方を実現する児童生徒の育成～発達段階を踏まえ、地域の特性を生かした教育活動を通して～」という研究主題のもと、小中学校9年間を見通したキャリア教育の在り方について研究した。実際の研究内容では、小規模の小中併設校の利点を生かし、全職員が協働して児童生徒の自己キャリア形成を支援するために、基礎的・汎用的能力の育成段階(目標)を明確に設定・系統化して各取組を行い、児童生徒の変容や成果をまとめ、研究内容を公開した。

小学校では、児童が島外から来島された方々を対象に地域を案内する「われんきゃガイド(まちあるきガイド)」を中核とした取組を通して、低学年では「児童生徒代表挨拶の経験」、中学年では「自分の意見を全校に反映させる経験」、高学年では「発信力」や「他者に配慮した言動」、「役割を全うする経験」を積み重ね、段階的な自己キャリア形成に繋げた。

中学校では、小学校での経験を基に、「職業調べ・職場体験学習」、「手々ヘルパー隊(地域ボランティア活動)」を中核とした取組を通して、1年生では「自主的な活動」や「ボランティア活動」、2年生では「ボランティアのニーズへの対応」、3年生では「進路選択」という視点を念頭においた活動や教師の関わりの中で、最終目標である「自分らしい生き方の実現」に向けた自己キャリア形成を支援した。

また、これらの総合的な学習の時間の取組と並行して、特別活動（主に児童生徒会活動でのリーダー育成）を中心に、役割意識をもってやり遂げる活動を重点的に取り組んだ。

以上の研究に取り組んだ結果、キャリアアンケートでは、全ての基礎的・汎用的能力の向上が見られた。特に、行事や各活動において目標設定や振り返りを繰り返し行う中で、客観的に自分を見つめて自分の成長を実感することができるようになり、キャリアプランニング能力が飛躍的に伸長した。

<鹿児島県>（種別：学校）鹿児島県立川内商工高等学校

推薦理由

鹿児島県立川内商工高校は、令和元年度に創立91周年を迎える専門高校であり、学校の旗印として「BPC（ブランド・プライド・コミュニティ）」を掲げ、学校活性化の合い言葉として位置づけている。キャリア教育全体計画の重点目標として、豊かな進路の確保に向けた様々な取組を行うことで、「生きる力」の実現を目指すとしている。地元自治体や企業などと緊密に連携した推進体制づくりを促しながら、地元就職や地元進学を意識した主体的な進路選択力の向上を目指している。

今後も、本校と薩摩川内市企業連携協議会との連携や地域との協働を図りながら、組織的・系統的にキャリア教育を実践し、「地域創生・地域を支える人材育成」を目指していきたい。

1 地域人材養成の視点でのキャリア教育

- (1) 企業施設見学会の実施（1年生）
- (2) インターンシップの実施（2年生） 全学科（機械科・電気科・インテリア科・商業科）での実施
- (3) 地元企業見学会への参加等（薩摩川内市企業連携協議会との連携）（3年生）
- (4) PTA 県内企業等視察研修会の実施

2 地域と協働したキャリア教育の推進

- (1) 地域と連携したものづくりや商品開発
 - ・ 地元企業連携協議会等、産学官提携による次世代エネルギーライト「スマコミライト」の開発、インテリア科によるライト全体のデザイン及びキャラクターデザインの担当
 - ・ 自治体商工観光課と連携した商業科による観光物産協会Webページの製作
 - ・ 地元企業と商業科との連携によるオリジナルお菓子等の商品開発
- (2) 地域イベントへの参加及び作品等の制作
 - ・ 地元川内駅前イルミネーションイベントにおける機械科・エネルギー工作研究部のカップのイルミネーション作品展示や美術部における「光のオーナー」ピンバッチのデザイン
 - ・ 地元自治体が企画する「次世代エネルギーフェア」への機械科・エネルギー工作研究部によるソーラーボート等の展示
 - ・ 全国高等学校総合体育大会（南部九州総体）に係るカウントダウンボート等の作品制作
 - ・ かごしま国体及び同競技別リハーサル大会に係る作品制作
 - ・ インターアクト年次大会での国際交流等

3 成果

- ・ 生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、1年次から計画的に企業見学やインターンシップ等を計画的に実施することで、早期から勤労観・職業観の醸成を行うとともに、地元企業等への理解を深めることで多様な進路選択を行う能力を養っている。
 - ・ 地元事業所との商品開発や、地元企業連絡協議会等と連携したデザイン制作やWebページの製作をとおして、課題の発見・分析を行い、課題解決を行うことで課題対応能力を育成している。
 - ・ イルミネーションイベント等への参加により、自らが果たすべき役割等を理解し、将来に向けて、第3種電気主任技術者試験等の難関試験に合格するなど主体的にキャリア形成を行う力を身につけている。また、ものづくりコンテスト九州大会家具工芸部門最優秀賞（3年連続受賞）や、鹿児島国体・全国障害者スポーツ大会の炬火トーチデザイン採用などの成果をおさめている。
- 以上のことから、鹿児島県立川内商工高等学校をキャリア教育優良校として推薦する。

<沖縄県> (種別：教育委員会) 久米島町教育委員会

推薦理由

久米島町では平成24年度より産学官地域が連携する「久米島町グッジョブ連携協議会」を商工観光課に設置し、久米島町の課題解決に特化した活動を展開しています。協議会には町教育委員会も加わり久米島町型キャリア教育の確立に向けて取組みを展開しています。

久米島町型キャリア教育とは、子どもたちの発達段階に合わせた教育学習の視点とこれからの久米島町の町づくりの視点を合わせた早期からの地域人材育成です。なお、実施・運営は株式会社ケイオーパートナーズとともに取り組んでいます。

① ジョブシャドウイングの実施 (対象：小学校6年生)

ハードルの一つである協力事業所の開拓を専任コーディネーターが行っている。協力事業所の拡大により選択の幅が広がり意欲的に体験している。事前学習から事後学習までの一連の学習に専任コーディネーターが関わり、より充実した活動となっている。

② 職業体験型イベント「わくわくワーク」開催 (対象：小学生)

島内外から約20の事業所の協力をいただき久米島の多種多様な職業があることの気付きや島で働くことに興味をもたせる体験型イベントを実施。また島外事業所を招聘することで、久米島にはない産業や職業を体験し、幅広い選択肢をもたせることができる。

③ 職場体験プログラムの実施 (対象：中学校2年生)

職業人講話、マナー講習、履歴書作成、体験学習を専任コーディネーターと学校が連携して実施している。

④ インターンシップ (対象：高校生)

具体的な職業選択に向けて島内外のさまざまな職種・業種を体験するインターンシップの開拓業務や進路講演会を実施している。

⑤ リーダー育成プログラム (対象：小学校5・6年生、中学生)

久米島の魅力を発見し、将来の久米島像の実現に向け自分に何ができるかを考えるリーダーを育成する体験プログラム。島内外の事業所の見学をすることで久米島の課題を発見し、解決に向けて提案・実行できる「リーダー」の育成を目指している。

⑥ 町内教職員対象の研修会の実施 (対象：町内教職員)

地域連携型キャリア教育の重要性を伝える研修会を実施 (主催：教育委員会) (講師：早稲田大学教授 三村隆男氏)

<沖縄県> (種別：学校) 那覇市立銘苅小学校

推薦理由

銘苅小学校の実践は、昨今の教育課題である「若者の育ち」やグローバル社会における人材育成の観点から、学校教育にキャリア教育を創意工夫の上、計画的に位置づけて実践している。特徴の概要として、①県内外・海外からの児童の在籍状況や新都心の地域性から実践内容を検討、②児童の育ちが中学校・高校・社会人へと成長が段階的・必然的に繋がる複合的な内容、③児童や保護者のふるさと意識(地域所属感)の醸成、などを地域を巻き込んで行っていることがあげられる。主な実践事項は次の通りである。(児童数 680名規模校)

1. キャリア教育の内容関連

銘苅小の実践は、推薦の観点のうち①児童の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度の育成、

②主体的に課題を発見していく力や創造性を育むための模擬店舗や出店体験、③児童生徒の地元への理解・愛着・誇りを育む、など複合的な構成が見られる。

2. 各学年の具体的な活動例 (経営テーマ「学校ふるさとづくり」)

○学校全体の取組では「豊かな学びのある授業」「係動・当番活動・委員会活動の充実」「花と緑いっぱい運動～蝶が舞う学園～」

○3学年以上の各学年では本県の昨今の観光産業の状況をから問題意識や問題処理、他者との協働等を育む「観光教育講話」「教育交流プログラム」「おもてなしの心の育成」

- 6 学年「ミャンマーに井戸を造るための資金造成活動」11 基目
- 地域と連携した「授業支援」「防災システム」「地域祭り」実施
- ※「6 自治会と民生員協議会、PTCA」で「ふるさと会」を結成

3. 成果

- 児童の学ぶ意欲の向上や挨拶・行動の改善及び諸活動が活性化
- 学年の落ち着き、不登校児童の減少、保護者のクレームの減少
- 学校を中軸とする地域づくりの進展（自治会や民生員と連携）
- 保護者からの学校評価の向上（地域の方々からも高評価）

<沖縄県>（種別：学校）北大東村立北大東中学校

推薦理由

北大東島は沖縄本島の東約 360 km の太平洋上にある絶海の孤島である。島の子供たちは、中学校を卒業する「15 の春」には、住み慣れた島と親元を離れ、沖縄本島の高校へ進学し自活することを余儀なくされる。

そのため、村教育委員会は、幼稚園から中学校までの 12 年間の学びの連続を見通した幼小中連携による学校教育の充実を推進しており、学校におけるキャリア教育や進路指導等の取組を継続的に支援している。

また、学校は、「島に誇りを心に夢を～15 の島立ちに向けた幼児児童生徒の育成～」の研究テーマの下、子供たちが島の文化や伝統に誇りを持ち、将来の社会的・職業的自立に必要な資質・能力を身に付けることができるように、地域社会と協力しながら、幼小中が連携して保育や授業の改善及び体験活動等の充実に取り組んでいる。

特に、中学校においては、「15 の島立ち」に向けて、生徒一人一人が自己の生き方について考え主体的に進路の選択ができるように、小学校段階までのキャリア教育等の成果を踏まえた 3 年間を見通した計画的・継続的なキャリア教育・進路指導等の充実に取り組んでいる。

<北大東中学校におけるキャリア教育・進路指導等に係る主な取組>

- ① 「働くことの意義」に係る講話
職場見学・職場体験の事前学習として、島内外の会社経営者等を招聘して実施している。
- ② 「職場見学」及び「職場体験」
3 年間で計 5 日間の職場見学（1 日）及び職場体験（4 日）を実施している。生徒個々の興味・関心に基づき 4 か所以上の見学及び体験ができるよう工夫している。
- ③ 「夏休み高校訪問」
2・3 学年で、志望校や関心のある高校についての調べ学習と夏休みを利用した高校訪問を実施し、情報収集及び自己の個性や興味・関心に照らした主体的な進路選択に繋げている。
- ④ 「先輩高校生から学ぶ会」
卒業生（高校 2 年生）を招き、高校生活や自活の状況についての発表及び座談会を実施している。高校生の生の声を聞くことで中学卒業後の進路や生活が現実味を帯びてくる。
- ⑤ 卒業生激励「高校訪問」
村教委と校長（教頭）が合同で高校 1 年生を訪問し、高校との情報交換及び本人の激励・継続指導を行っている。

<沖縄県>（種別：学校）沖縄県立美咲特別支援学校はなさき分校

推薦理由

開校 6 年目となるが、開校 1 年目より「生活する力」「人(社会)と関わろうとする力」の育成を目指し、小学部、中学部、高等部の全生徒が 5 つの班に分かれて異年齢集団で学習するコーポレーションタイムを設定してキャリア教育に取り組み、児童生徒個々の伸ばしたい力を具体的、系統的に育むとともに環境の変化に慣れて集団活動することができるようになった。

① 学校の特徴とキャリア教育のねらい

本校は知的障害教育特別支援学校である。卒業生は一般就労した軽度知的障害者から生活介護施設に入所した

重度重複障害者まで障害の実態が様々である。そこで、卒業後の進路選択の幅を広げ、生徒が社会参加・自立を目指すために、児童生徒個々の実態に合わせたキャリア教育を体験活動を通して取り組む。

② 社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度の育成

基盤となる能力や態度を「生活する力」「人(社会)と関わろうとする力」として捉え、その育成を目指して体験的学習「コーポレーションタイム」の時間を設定した。その時間では小学部、中学部、高等部が連携し、それぞれの発達段階における社会参加の視点を持って交流・協働する活動し、生徒のキャリアの視点の育成している。また、小中高の生徒が同じ場での学び合いは、対人関係力を向上させ、児童生徒の自己有用感を高めている。

コーポレーションタイムの協働カリキュラム

①活動の時間・・・毎週火曜日2校時～4校時

②協働の場・・・毎週ある「園芸美化」「家庭」「手工芸」「窯業」「木工」5つの班(年3回の製品販売)と地域に開かれた学校オープンカフェ(飲み物とスイーツの製造、接客、宣伝・サービス、美化、運搬)

③ 適切な検証・改善

①1、2年目・コーポレーションタイムの基盤づくりと教科との関連性の検証、改善

②3年目・コーポレーションタイムの実践における小学部、中学部、高等部の発達段階での児童生徒のねらいを整理

③4、5年目・各発達段階の社会参加のために「身につけたい力」の指標づくり、実践における児童生徒の自己PDCAに活かす個別の目標設定、振り返りシートの検証改善

④6年目・学部を超えた教師間の連携の在り方、教科横断の視点をもった実践、振り返りの時短化を図るICTを活用した振り返りシートの改善

④ 就業体験実習、卒業後の進路に向けた取り組み

コーポレーションタイムでは、就業体験先からの課題を「7ルール」として児童生徒の学習のねらいに設定し、就業体験と連動させて取り組んでいる。また、児童生徒が自分たちの活動が卒業後の進路へと繋がることを体験を通して学ぶことにより、小学部で社会参加への興味・関心を高め、中学部で将来の就労をイメージし、高等部で自ら課題解決に向かう力を育成している。

⑤ 地域との連携

毎年10回程度開店する学校オープンカフェは、カフェ開店日を学校HPに公開、また生徒自らが地域の自治体や店舗、近隣校に制作したチラシを持参してカフェ開店をPRし、地域と繋がるカフェ運営をしている。また来店者からのカフェに関するアンケートで接客態度やメニュー、カトラリーのアイディアなどについての意見を集約してカフェ運営の改善に役立てている。

<仙台市> (種別：学校) 仙台市立仙台工業高等学校

推薦理由

仙台工業高校の使命は、専門分野の複雑化・高度化へ対応できる将来のスペシャリストの育成にある。そのため、「個性の伸長と自己実現の促進」「基礎的、基本的知識技術の習得」「専門的、実践的職業能力の育成」を教育目標に掲げ、建築科、機械科、電気科、土木科の4科でそれぞれ実践力のある社会人を育てることを目指している。特に、将来のスペシャリストの育成を目指し、インターンシップ及びデュアルシステムの積極的な実践を行い、地域企業との連携を強化している。

デュアルシステム・地域のものづくり人材育成推進事業(事業主体：仙台市)にも取り組んでおり、年間を通じて、様々な仙台自分づくり教育(仙台版キャリア教育)の実践を行っている。2年生ではインターンシップを経験し、3年生でデュアルシステムを行っている。インターンシップ、デュアルシステムを体験した地元企業に、卒業生が就職・勤務している事例もあり、その卒業生が高校生のインターンシップの対応を行うようになっているといった循環するシステムが構築されており、職場体験活動を通して、人がつながる良い伝統となっている。

また、地域・地元企業との積極的な交流を行い、学んだ知識・技術を地域に還元している。近隣の東宮城野小学校・宮城野小学校との交流授業(パソコン指導における出前授業)及び地域の高齢者宅を訪問しテクノボランティア活動(電気器具の修繕やコンセント修理等)に取り組んでいる。

更に、授業の中で社会人として必要な資質・能力を育成するためのルーブリック(評価基準表)を作成し、授業の事前・事後の成長を実感できる振り返り活動に取り組んでいる。

令和元年8月2日に行った「第4回仙台自分づくり教育アワード」で、実践事例発表を行い、自校の取組を市内の学校、市民に広報している。仙台版キャリア教育「仙台自分づくり教育」を積極的に推進しており、キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰に推薦する。

【ホームページ】<http://www.sendai-c.ed.jp/~sendaith/>

<仙台市> (種別：学校) 仙台市立三条中学校

推薦理由

専門家から仕事・スキル・考え方を学ぶ取組や進路・職業に対して選択・決定する力を高める視点から、発達の段階に応じた仙台版キャリア教育(仙台自分づくり教育)を小中連携(三条中・荒巻小・通町小)を行いながら推進している。

三条中学校区の9年間で育む子ども像「自立するための基礎・基本が確実に身に付いている子ども(社会的自立)」「自分の将来や目標を意識して活動している子ども(職業的自立)」を意識しながら、9年間を見通した自分づくり教育を推進している。文科省から提示されたキャリア教育が目指す、社会的・職業的自立に必要な力「基礎的・汎用的能力」を受けて、仙台市では「5つの力」(「かかわる力」「いかす力」「みとおす力」「みつめる力」「うごく力」)に整理し、これらの5つの力を「たくましく生きる力」としている。特に、三条中学校区の子どもの実態から平成30年度は「みとおす力」「いかす力」「かかわる力」を、令和元年度は「みとおす力」「かかわる力」を育てることに焦点化し、発達段階に応じた指標(目指す子どもの姿)を設定し、「探究的な学習を成立させるための付きたい力の系統表」を作成し、小中連携を通して自分づくり教育に取り組んでいる。

三条中学校では、全学年で「達人訪問」を行い、専門家の仕事や技を見たり、インタビューしたりする中で、達人の考え方や生き方、人生観を学んでいる。1年生は「仙台の達人」、2年生は「東北の達人」、3年生では「日本の達人」を訪問し、職業観や勤労観、生き方についての考えを深めている。

また体験活動としては、1年生では学校林を活用した森林学習を行っている。森の中にある教室(間伐材を使ったイスと机が森の中に設置)で、森の成り立ちや役割、木の成長、そこで生きる生物について、森林組合の講師から授業の中でお話をしていただいている。講師のサポートを受けながら、チェーンソーで丸太を切り、学校に持ち帰って、技術家庭科の時間にオリジナル時計を製作している。2年生では、地域の企業・事業所を中心に、3日間の職場体験活動を行っている。地元企業・職場での人との関わりや働く体験を通して、仕事の意義や意味を理解し、職業観・勤労観を身に付けている。今年度は、職場体験活動を行った事業所に感謝の気持ちを伝えるため、事業所の良さや思い・願いを伝えるポスター・広告の制作を行い、店舗に掲示している。

平成30年8月10日に行った「第3回仙台自分づくり教育アワード」で、実践事例発表を行い、自校の取組を市内の学校、市民に広報している。仙台版キャリア教育「仙台自分づくり教育」を継続的、発展的に推進しており、キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰に推薦する。

【ホームページ】<http://www.sendai-c.ed.jp/~sanjyojh/>

<仙台市> (種別：団体) 仙台ロータリークラブ

推薦理由

仙台ロータリークラブは昭和12年(1937年)2月に創立した伝統あるクラブであり、現在125名の会員が社会奉仕活動に参加して、地域の青少年育成を目指している。

仙台ロータリークラブは、平成28年度より青少年の健全育成と社会奉仕活動の一環として、「青少年職業講話(出前授業)」を継続的に実施している。仙台市教育委員会を通して、仙台市内の中学校・高等学校に案内状を送り、その希望校において、社会の第一線で働く社会人講師(本クラブ会員)による「青少年職業講話」を「仙台自分づくり教育」の一環として実践している。今年で4年目となり、同講師は無償で行っている。

同講話を行うと決まった際には、希望校の教員が講師の会社を訪問し、事前打合せを行っている。特に講師は、学校の状況や地域性、子どもたちの状況、学校が希望している内容を聞き取り、学校のニーズに合わせた講話となるように努めている。

また、中学校の職場体験活動に関連した職業講話や高等学校での進路学習等の場面での職業講話にも対応しており、これからの職業人に求められる力や、進路を決める際に大切にして欲しいことなどを生徒たちに伝えてい

る。

(過去4年間の実績)

H28年度：中学校5校、高等学校2校、対象参加生徒1,442名

H29年度：中学校9校、対象参加生徒1,510名

H30年度：中学校7校、対象参加生徒843名

R元年度：中学校12校、対象参加生徒1,547名

すべてを合計すると、4年間で35校、5,342名の生徒が受講した。

市内の生徒たちのために、継続的に大きな実績を上げており、仙台版キャリア教育「仙台自分づくり教育」の推進に多大なる貢献を頂いているため、キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰に推薦する。

【ホームページ】 <https://sendai-rc.jp/>

<千葉市> (種別：学校) 千葉市立鶴沢小学校

推薦理由

○ 教育活動全体を通じたキャリア教育の推進

教育活動全体を通して、教科等の目標とキャリア教育の目標が合致する「しっかりキャリア」と、キャリア教育の基礎的・汎用的能力を教師が意識して、通常の教科指導の中で児童に投げかける「ちょこっとキャリア」に取り組んでいる。年間指導計画を作成し、教育活動全体を通して実践を日々積み重ねる中で、子どもたちの自己肯定感を高めるようにしている。また、そのことが結果的に学習意欲の向上と学級経営の充実に繋がっている。

○ 産業界や地域との連携

子どもたちの将来の夢を広げるために、産業界や地域の方々との連携をしている。昨年度から、「学校キャラバン」の事業に参加させていただき、建築産業の方々から実際に話を聞いたり、ドローンやARの体験を通して、ものづくりの素晴らしさを直接子どもたちに伝えていただいている。また、福祉関係の方々とも仕事体験や講話をお願いしている。更に、総合的な学習の時間には地域の方々をお願いして、社会人として必要なことを仕事体験の話と絡めながら子どもたちに教えていただいている。

○ 小中連携を見据えた中学校区でのキャリアパスポートの導入

自分の将来や自分自身に向き合うことを意識させるために、キャリアパスポートの実践を行っている。キャリアパスポートを活用することにより、年間を通じて子どもたちが自己の変容をみつけ直すようにしている。大きな行事ごとや長期休業の前後等に、自分自身のめあてと成長したと思うことを記し、次の学年に引き継ぐようにしている。また、小中連携を見据え、同じ中学校区の小学校で同じパスポートを活用して中学校に接続できるように連携を図っている。

<千葉市> (種別：学校) 千葉市立高洲第三小学校

推薦理由

○ 学校教育目標「夢ひらき かがやく子」に向けて、全校児童一人一人が自分の夢をもつような様々な教育活動において指導支援している。今年度より3年間ボランティア活動推進協力校の指定を受けたことで、新たなキャリア教育を模索し推進しようとしている。

・教科や総合的な学習の時間、道徳、特別活動等の年間指導計画にキャリア教育を位置づけている。全学年のゲスト学習や校外学習、高学年の宿泊学習を見直し、教育課程に計画的に位置づけ、事前・事後指導を含めた社会見学や働く人々との交流等を通して児童の関心や意欲を高め社会性を育てている。主な全校ゲスト学習としては「芸術鑑賞教室」「音楽鑑賞教室」「JEFサッカー体験教室」「歯と口の啓発事業」があり全校児童が体験を共有すること、経験を重ねることで学ぶ価値を大切にしている。低学年の「生き物を育てよう」「むかしの遊び」「おなか教室」「町たんけん」「動物公園たんけん」中学年の「そろばん学習」「房総のむら見学」「千葉港見学」高学年の「選挙体験」「福祉体験」「いのちの授業」「海の環境保護」「世界で活躍するJICA隊員」「自動車工場見学」「国会見学」等を実施している。宿泊体験学習としては、第5学年移動教室による「プロジェクトアドベンチャー」第6学年農山村留学での「伝統工芸房州うちわ作製」「鴨川シーワールド見学」を展開してい

る。発達段階を大切にし事前指導や事後評価を行っている。

- ・一流の職人との教室での出会い、交流と体験として第4学年「落語」第6学年「畳・苔玉・和菓子作り」を実施し日常の中では得られない日本文化に直接ふれあうことができた。また、第6学年「夢、仕事チャレンジ体験」では、地域の企業や施設、教育機関等の職業体験学習は14年目となり、本校の特色ある教育活動として保護者や地域の方々からも近年高い評価を得ている。
- ・中学生や高校生、大学生のインターンシップを積極的に取り入れることで近い将来の自分の姿を描かせることはもちろん、幼稚園や保育園との交流の中で自分の成長や良さを時間することで感謝の気持ちや自己肯定感を育てている。
- ・学校として他校種や地域・産業界等との連携・協力を主体的に図ることは、児童の将来に必要な基盤となる能力や態度の育成となるだけでなく、教師自身の研修の機会ともなっている。
- ・今後もPDCAサイクルを大切に、適切に指導や活動を振り返り検証改善を行い組織的・系統的に取り組むと同時に、「生きる力」を育てていくことを目指して、多様な先進校のキャリア教育を学ぶ計画をもっている。

<川崎市> (種別：学校) 川崎市立小田小学校

推薦理由

川崎市においては、第2次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」基本政策I「人間としての在り方生き方の軸をつくる」の施策の1として「キャリア在り方生き方教育の推進」を位置づけ、平成28年度より全市立学校で実施し、積極的にキャリア教育を推進している。

小田小学校においては、平成27年度より他校に先行して「キャリア在り方生き方教育」の推進協力校として研究に取り組み、平成28～31年度は自主研修として、校内で「キャリア在り方生き方教育」の研究を進め、その成果を発信している。

校内研究のテーマを「自分から動き出し、学び続ける子」として、児童の実態把握を丁寧に行い、「動き出すとは何か?」「学び続けるとはどのような姿か?」といったことを語り合い、児童指導部、特別活動部と連携し、学校全体で目指す子どもの姿に向けて研究を推進している。教師の姿が、子どもたちにとって身近な大人であることを意識し、子ども・学び・授業など教育活動について全教職員で語り合い、同僚性を発揮して、児童理解と授業改善を深めている。

年度当初に、児童の実態・次期学習指導要領「学びに向かう力」一覧・前年度に見出した力・各学年段階におけるキャリア教育（発達課題と実践のポイント）などをもとに、支援学級（いちご）・低・中・高学年部会で、児童に身に付けさせたい力を重点化・焦点化して、具体的な子供の姿を整理している。この絞り込んだ身に付けさせたい力を念頭に置いて年間指導計画を作成し、日々の実践を重ねた。平成30年度は、教科等の横断的なつながりを探り、基礎的・汎用的能力の育成について深く考え、単元の在り方、授業での手立てを改善し、年間指導計画に反映させて本年度の取組につなぎ、研究を進めている。

組織的・系統的にキャリア教育に取り組み、大変成果をあげて市内のキャリア教育の推進を牽引しているため川崎市教育委員会事務局から優良学校として推薦したい。

<川崎市> (種別：学校) 川崎市立川崎高等学校附属中学校

推薦理由

川崎市においては、第2次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」基本政策I「人間としての在り方生き方の軸をつくる」の施策の1として「キャリア在り方生き方教育の推進」を位置づけ、平成28年度より全市立学校で実施し、積極的にキャリア教育を推進している。

川崎高等学校附属中学校においては、母体校である川崎高等学校の教育目標「こころ豊かな人になろう」を継承し、人権感覚豊かで、高い志をもって学び続け、「国際都市川崎をリードするたくましい人材の育成」を目指して教育活動を展開している。中高一貫教育校として、6年間かけてじっくりと学ぶことができる良さを活かし、学ぶことの意義を探究し、自分の夢を見つけ、そしてその夢の実現に向かって大いに学び続けることができるよう「かわさきLEADプロジェクト」に取り組んでいる。このLEAD学習では、「Learn学ぶ」「Experience体験」「Action行動」を大切に、生徒の「Dream夢」を支える教育活動を通して「学ぶ力」「探究する力」「コミュ

ニケーション力」「実行力」「体力」を育成している。

文化・産業・最先端科学技術が結集する地の利をいかし、慶応大慶町キャンパスの医学部体験や富士通・ミツトヨへの企業訪問などキャリア教育も多彩に展開し、生徒の夢の実現をサポートしている。

平成30年度は、「学びの地図」を作成し、総合的な学習の時間「LEADタイム」の学びと各教科の学びを関連付け、「問題解決能力」「ICT活用能力」「ダイバーシティ・コミュニケーション能力」の伸長が連携して図られることを「見える化」した。また、高校生と連携し、中学2年生は高校3年生に自分のキャリア選定について講演してもらうなど、附属中ならではの取組も進めている。LEAD学習発表会では1年生は「農業」2年生は「職業」をテーマに発表し、色々な人の生き方や考え方を通して、新しい視点で物事に目を向ける姿がみられた。

組織的・系統的にキャリア教育に取り組み、大変成果をあげて市内のキャリア教育の推進を牽引しているため川崎市教育委員会事務局から優良学校として推薦したい。

<川崎市> (種別：学校) 川崎市立川崎高等学校

推薦理由

川崎市においては、第2次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」基本政策I「人間としての在り方生き方の軸をつくる」の施策の1として「キャリア在り方生き方教育の推進」を位置づけ、平成28年度より全市立学校で実施し、積極的にキャリア教育を推進している。

川崎高等学校においては、学校教育目標「こころ豊かな人になろう」のもと、「国際都市川崎をリードするたくましい人材の育成」を目指して教育活動を展開している。普通科においては、「直面する課題を主体的に見つけ、他者と協力しながら、創造的に探究活動に取り組み、その課題を解決するとともに、社会の担い手としての資質を育てること」を目標に総合的な学習の時間に取り組んでいる。

○ 総合探究Ⅰ・Ⅱ「かわさきよいまちづくりプロジェクト」(1・2年)

〔1年次〕ゼミごとのテーマに基づき、川崎市の現状と取組について調べ、課題を発見し、解決のための方法を探究するとともに成果発表を行う。

〔2年次〕1年次の探究活動を深化させ、川崎市への提言を目指す。

○ 総合探究Ⅲ「夢実現プロジェクト」(3年)

〔3年次〕1・2年次の活動を踏まえた研究論文の作成を行い、進路実現に向け主体的に学ぶ。

○ 自主的・主体的な学習のほか、川崎市行政・研究機関・大学・企業等と連携した取り組みや、外部講師による講演会を行う。

平成30年度は、24グループに分かれて、地元商店街の活性化案などを模索し、12月に校内で中間報告会を開催した。投票で1位に選ばれた、たばこのポイ捨て防止につなげる「チャレンジ☆川崎 夢の国」の内容を実際に福田市長に提案し、本年度も引き続き実現を目指して取り組んでいる。

組織的・系統的にキャリア教育に取り組み、大変成果をあげて市内のキャリア教育の推進を牽引しているため川崎市教育委員会事務局から優良学校として推薦したい。

<京都市> (種別：学校) 京都市立静原小学校

推薦理由

静原小学校は、学校教育目標を「よりよい生き方を実現しようとする子どもの育成～学校・家庭・地域で育む自覚的実行力～」とし、平成26年度より学校経営方針の軸にキャリア教育を据え、すべての学校教育活動で特色あるキャリア教育を実践している。

特に、生活科や総合的な学習の時間に、全校で取り組む「静原カンパニー」は、児童の自主的な活動を促す中で、起業家精神＝アントレプレナーシップの涵養につなげている。

「静原カンパニー」は、自覚的実行力(やりたいこと、やるべきことを自覚し、積極的にやり遂げようとする力)を発揮する場として、地域の魅力発信や、地域の活性化等を目的とした模擬会社を設立する取組で、地元の協力を得て平成29年度から実施している。各学年が生活科や総合的な学習の時間に、地域の伝統や自然を活かした独自商品を開発する過程において、商品企画や値段設定などの答えがひとつでない問題を話し合い意思決定していくことや、販売促進のためのポスターデザインやPR文、相手に思いを伝えるための話し方などの表現方

法を考えることなどを通して、「かかわる（人間関係・社会形成能力）」、「みがく（自己理解・自己管理能力）」、「やりとげる（課題対応能力）」、「えがく（キャリアプランニング能力）」の育成を図っている。平成30年度には「ユースエンタプライズトレードフェア2018」に出展し、地域コミュニティに貢献度の高いチームに贈られる「京都経済同友会賞」を受賞した。

また、地域の特性を生かし、農業・林業体験を通じて、地元の方々との関わりから地域社会で生きる自己のあり方などに気付かせる取組を進めるとともに、教科学習をはじめ総合的な学習の時間で「めあて」「ふりかえり」を確実に行うことはもとより、日々の生活においても、児童一人一人が、1年間の目標、さらにその目標に基づく1箇月間、1週間の具体的な行動目標を定めていく、といった長期・中期・短期のキャリアデザインを行い、教員がキャリアカウンセリング、キャリアリフレクションを丁寧に行うことで、児童のキャリア形成を支援している。

こうした取組は、自校ホームページはもとより、全国小学校キャリア教育研究協議会通信や京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会通信などを通して、幅広く発信しキャリア教育の普及・促進にも大きく貢献しており、本表彰に推薦する。

<京都市>（種別：学校）京都市立東山総合支援学校

推薦理由

東山総合支援学校は、平成25年に白河総合支援学校の分校として開校した、京都市で3校目の高等部職業学科を設置する特別支援学校である（平成28年4月からは独立校として開校）。専門教科（福祉）「地域コミュニケーション」を教育課程の軸におき、「地域とともに」をコンセプトに、地域の人々との交流や協働を通して、自ら学ぶ姿勢や自分の良さの発見等、自己肯定感の涵養を通して働くために必要な力を育成している。

学校のある東山区は、少子高齢化により高齢者の占める割合が極めて高く、小中学校の統廃合が行われた地域である。当校は小学校の跡地にあり、以前から、学校の教室やグラウンド、体育館を使って、地域住民による高齢者福祉事業、学区民夏祭り、学区民体育祭等の地域行事が盛んに行われていた。現在は、これらの地域行事に生徒が授業の一環でスタッフとして参画し、準備から運営、後片付けまでの役割を地域の人々とともに担っている。

校門を入ったところにある喫茶室「カフェしゅうどう」は、生徒が運営をしており、丁寧な接客と温かい雰囲気、地域の人々が集まる憩いの場となっている。特筆すべきは、近隣のホテル施設『フォーシーズンズ京都』から定期的に講師を招き、接客サービスの基本や焼き菓子の作り方等を、その道のプロから生徒が直接学ぶことで、おもてなしの真髄を習得し、働く意欲の向上につなげている。（本年2月に開催されたアビリンピック京都大会喫茶サービス部門で本校3年生が最優秀賞となり今秋の全国大会に出場予定。）

その他にも、近隣の保育園児に保育補助として読み聞かせに出向いたり、校内でのファーム経営のうちに幼児の収穫体験を運営したり、遠来の修学旅行生の観光案内や陶芸教室を企画するなどの取組も行っている。

学校教育目標『人と共に心を磨き 地域とともに笑顔を育てる 歴史と共に未来を見つめ 新しい世界で生きる人材を育てる（新しい自分を探す）』を目指して、少子高齢化や観光客の増加という時代の流れを機敏に掴みながら、地域との双方向性を築きつつ社会に開かれた教育課程を展開し、生徒の自己肯定感を涵養してきたこれらの実践は、卒業生の約78%が企業等に就職することができたという実績（平成31年3月卒業生）にも繋がっており、障害のある生徒たちの社会的自立に向けたキャリア教育に大きく貢献していることから、本表彰に推薦する。

<福岡市>（種別：学校）福岡市立博多工業高等学校PTA

推薦理由

1. 取組の概要

福岡市立博多工業高等学校PTAは、これまで学校職員と密に連携をとりながら、心豊かでたくましく、生きる力を身につけた工業高校生徒の育成を目標として、キャリア教育活動に積極的に取り組んできた。特に、平成22年度より開始し10年目となる当該事業は、発達段階に配慮した全体計画として、3つの柱から形成されており、特色ある取り組みとなっている。

2. 取組の具体的説明

まず、入門編として、1学年生全員を対象に「マナー、礼法スキルアップ講習」を実施している。本講習は、社会人としての基本的な礼儀作法として、挨拶・言葉遣い等の大切さを学ばせ、日常生活において、より実践的に行うことができることを目的とする。外部講師を招き、実践も交えた講習を実施している（1月、1時間）。

次に、3学年生全員を対象に「面接マナー講習会」を実施している。就職・進学を控えた3年生に、面接試験を受ける心構え、マナーを習得させることを目的とする。外部講師を招き、実践的な面接練習を実施している（7月、1時間）

最後に、これまでのキャリア教育の仕上げとして、3学年希望者を対象に「模擬面接」を実施する。実践さながらの個人面接を本校同窓会等の協力も得て行う。令和元年度はこれまでで最高的人数250名（3学年在籍数271人中）の生徒に対して実施する予定である。（8月9日、各1日間）。

これら3つの柱のうち、「模擬面接」の企画および運営に係る協議について、PTA役員会を月1回、委員総会および理事会2回の会議開催とともに、会議前後も頻繁に学校職員と連絡をとりながら内容をブラッシュアップしている。面接官3名の個人面接形式で実施し、面接官には同窓会役員、地域事業所役員、PTAOBに依頼している。生徒たちにとっては、本番の就職試験、入学試験を目前に控え、普段と異なる雰囲気の中で実践的な面接を体験する貴重な機会となっている。

本校は昨年度、就職希望者の全員内定を11月中に実現しており、当該事業が果たした役割も大きいと考える。

以上の状況から、福岡市立博多工業高等学校PTAを推薦する。

<熊本市>（種別：学校）熊本市立長嶺小学校

推薦理由

これからの社会において、産業構造・就労構造等の変化、グローバル化の進展が進む中、必然的に新たな事業の創出や既存の事業の変革・改善が求められてくる。しかし、日本では起業する若者が少なく、安定を重視する意識が強いため、起業をマイナスイメージでとらえる傾向がある。そこで、子どもたちに将来の生き方・働き方の選択肢の一つとなるような体験活動やその学習モデルの構築が求められている。

長嶺小学校では、PTA等の地域関係諸団体等の協力を得ながら、総合的な学習の時間を活用して「起業体験」を核とした職業に関する学習活動を行う新たなカリキュラム開発を試みている。その中に、チャレンジ精神や創造性、探究心などの「起業家精神」と、情報収集・分析力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーションなどの「起業家的資質・能力」の育成を目指し、起業体験活動を位置付け実践している。

1 会社設立（課題の設定）

6年児童が、5人で1チームを編成して模擬株式会社を設立する。

2 計画立案・販売体験（情報の収集）

株主（保護者）から集めた資本金10,000円、銀行（PTA）からの借入金10,000円の計20,000円を元手に、自分たちで考案・商品化する計画を立てる。12月に開かれる地域行事「長嶺スマイルフェスティバル」の子ども商店街で実際に販売する。

3 決算報告（整理・分析）

販売体験後、決算書を作成し、納税額、株主への配当、役員報酬を決定する。その後、事業を振り返り、株主と銀行に報告を行う。

4 振り返り（まとめ・表現）

決算報告後、商品のアイデアや売り方、利益額等について振り返り、利益分の使い方について話し合う。児童が自分たちにできる具体的な内容（熊本地震への復興支援、熊本を元気にする取組）を考え、お世話になった地域や保護者に提案する。

長嶺小学校の取組は、中学校での職場体験学習へ接続・発展する特色あるキャリア教育の活動として評価できる。